DENON

AVサラウンドアンプ

AVC-2920

取扱説明書

安全にお使いいただくために一必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

簡単セットアップ操作のしかた

接続のしかた

基本操作のしかた

応用操作のしかた

より詳細なセットアップのしかた１

より詳細なセットアップのしかた２

リモコン操作のしかた

その他について

ご使用になる前に

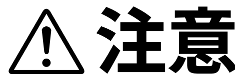
安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

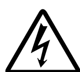


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

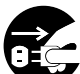
【絵表示の例】



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

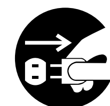


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く


電源プラグをコンセントから抜け

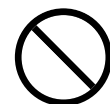
煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように



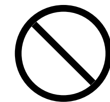
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

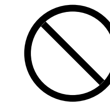
内部に異物を入れない



通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に





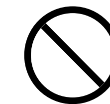
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない



内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で



接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

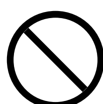


電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

⚠ 警告 つづき

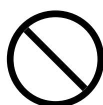
■ 安全上お守りいただきたいこと

乾電池は充電しない



電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は



まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

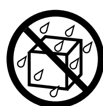
風呂・シャワー室では使用しない



水場での使用禁止

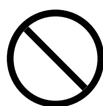
火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない



こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない



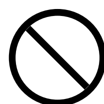
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

付属の電源コードを使用する

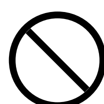




他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コード以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因になることがあります。

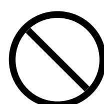
電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない





電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない



コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

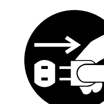
濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

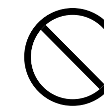


感電の原因となることがあります。

《ご使用になる前に》

電源プラグを抜くときは

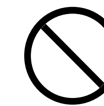




電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は





極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する



テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

⚠ 注意 つづき

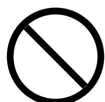
■ 安全上お守りいただきたいこと

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない



耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

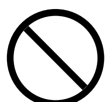
長時間音が歪んだ状態で使わない



スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 置き場所について

次のような場所には置かない



火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

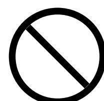
壁や他の機器から少し離して設置する



壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

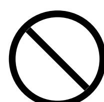
■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない



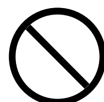
内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない



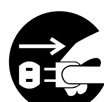
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

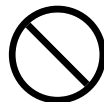
重いものをのせない



機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

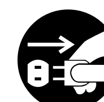




まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

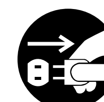
長期間の外出・旅行の場合は



安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は



安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を



販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

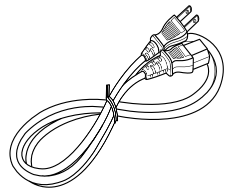
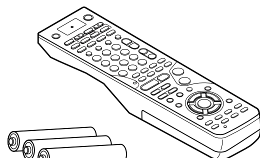
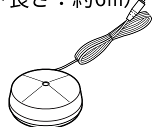
ステレオ音のエチケット



- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品について

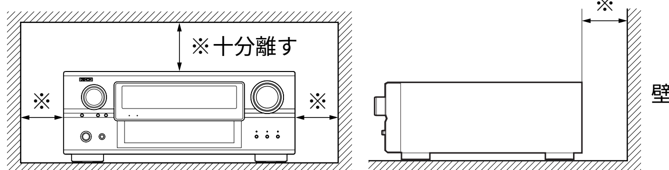
ご使用の前にご確認ください。

電源コード ……………1本 【本機専用】  （コード長さ：約1.5m）	リモコン（RC-1029)…1個 単3形乾電池……………3本  
セットアップマイク …1個 （コード長さ：約6m） 	取扱説明書（本書）……1冊 製品のご相談と修理・ サービス窓口一覧表 …1枚 保証書【梱包箱に添付】

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

◎ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などと十分離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

◎ 本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

お手入れについて

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
● 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

メモ

● 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

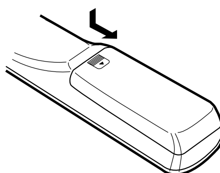
リモコンについて

付属のリモコン（RC-1029）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。

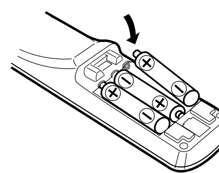
① DENON製コンポーネント製品
② DENON以外のコンポーネント製品
- プリセットメモリーによる設定（☞ 58ページ）
- 学習機能による設定（☞ 60ページ）

乾電池の入れかた

① 矢印のように押して引き上げます。



② 単3形乾電池（3本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



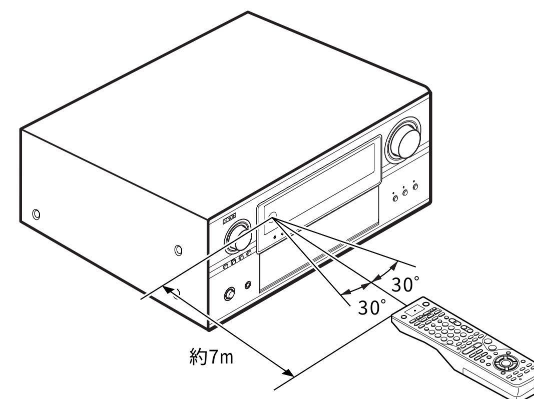
③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池を約30秒以上外したままにすると、学習されているリモコン信号を消去することがあります。

リモコンの使いかた

- リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 左右30 °までの範囲で約7m離れたところまで使用できます。



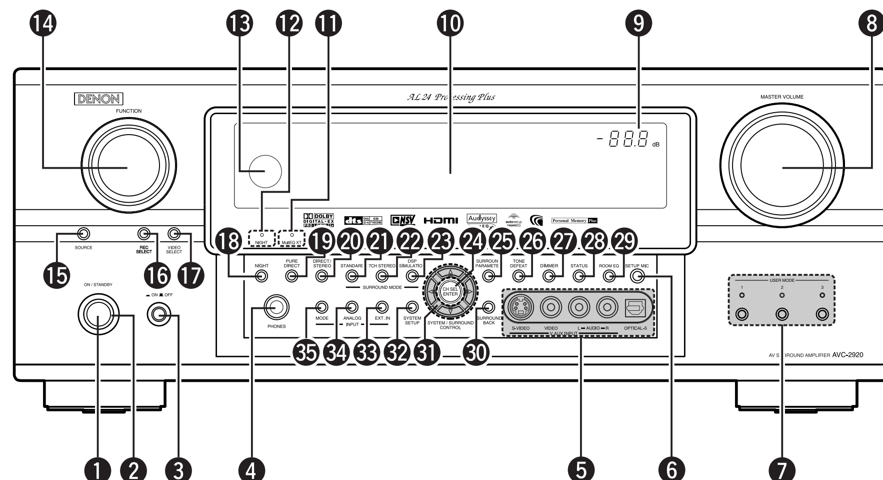
ご注意

リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。

各部の名前について

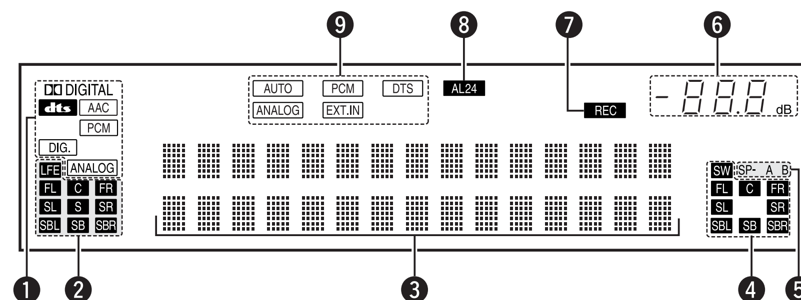
各部のはたらきなど詳しい説明については、（　）内のページを参照してください。

フロントパネル



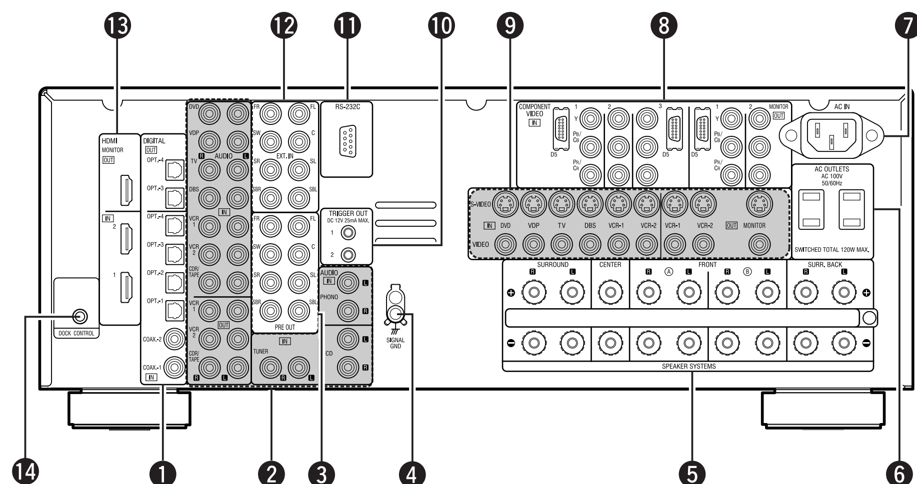
❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）……(14)
❷ 電源表示 ……(14)
❸ 電源スイッチ（▬ON/■OFF）……(14)
❹ ヘッドホンジャック（PHONES）…(27)
❺ V.AUX入力端子（V.AUX INPUT）……(20)
❻ セットアップマイクジャック（SETUP MIC）……(13)
❼ ユーザーモードボタン（USER MODE1〜3）……(38)
❽ 主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）……(23)
❾ 主音量表示
❿ ディスプレイ
⓫ MultEQ XT表示 ……(27)
⓬ ナイトモード表示 ……(38)
⓭ リモコン受光部 ……(7)
⓮ 入力ファンクション切り替えつまみ（FUNCTION）……(26)
⓯ ソース切り替えボタン（SOURCE）……(26)
⓰ 録音出力切り替えボタン（REC SELECT）……(41)
⓱ ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）……(39)
⓲ ナイトボタン（NIGHT）……(38)
⓳ ピュアダイレクトボタン（PURE DIRECT）……(28)
⓴ ダイレクト/ステレオボタン（DIRECT/STEREO）……(28)
㉑ スタンダードボタン（STANDARD）……(29)
㉒ 7CH ステレオボタン（7CH STEREO）……(37)
㉓ DSPシミュレーションボタン（DSP SIMULATION）……(37)
㉔ チャンネルセレクト/エンターボタン（CH SEL/ENTER）……(14、37)
㉕ サラウンドパラメーターボタン（SURROUND PARAMETER）……(29)
㉖ トーンデフィートボタン（TONE DEFEAT）……(37)
㉗ ディマーボタン（DIMMER）……(27)
㉘ ステータスボタン（STATUS）……(27)
㉙ ルームイコライザーボタン（ROOM EQ）……(27)
㉚ サラウンドバックボタン（SURROUND BACK）……(29)
㉛ カーソルボタン（△,▽,◁,▷）……(14)
㉜ システムセットアップボタン（SYSTEM SETUP）……(14)
㉝ 外部入力ボタン（EXT. IN）……(26)
㉞ アナログボタン（ANALOG）……(26)
㉟ 入力モード切り替えボタン（INPUT MODE）……(26)

ディスプレイ



❶ 入力信号表示
❷ 入力信号チャンネル表示
入力信号に含まれる音声チャンネルが点灯します。
デジタル信号入力時に点灯します。
❸ インフォメーションディスプレイ
❹ 出力信号チャンネル表示
本機から出力可能な音声チャンネルが点灯します。
❺ スピーカー表示
各サラウンドモードのフロントスピーカーの設定に合わせて点灯します。
❻ 主音量表示
音量レベルまたはシステムセットアップ時の項目番号を表示します。
❼ REC OUT表示
REC　OUTモードを選んでいる場合に点灯します。
❽ AL24表示
- デジタル（PCM）信号入力時に次のモードを選んだ場合に点灯します。
  ・PURE DIRECT・DIRECT・STEREO
  ・MULTI CH PURE DIRECT
  ・MULTI CH DIRECT・MULTI CH IN
❾ 入力モード表示

リアパネル



❶ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）……………(12)
❷ アナログ音声端子 ……………………(12)
❸ プリアウト端子（PRE OUT） ……(25)
❹ SIGNAL GND端子 ……………………(21)
❺ スピーカー端子 ………………………(11)
❻ ACアウトレット（AC OUTLETS）……………………(25)
❼ ACインレット（AC IN）……………(25)
❽ コンポーネント/D5ビデオ端子（COMPONENT VIDEO/D5 VIDEO）……………………………………(12)
❾ ビデオ/Sビデオ端子（VIDEO/S-VIDEO） ………………(12)
❿ トリガーアウトジャック（TRIGGER OUT） …………………(24)
⓫ RS-232C端子 …………………………(24)
⓬ 外部入力端子（EXT. IN） …………(20)
⓭ HDMI端子………………………………(22)
⓮ DOCK CONTROLジャック ………(24)

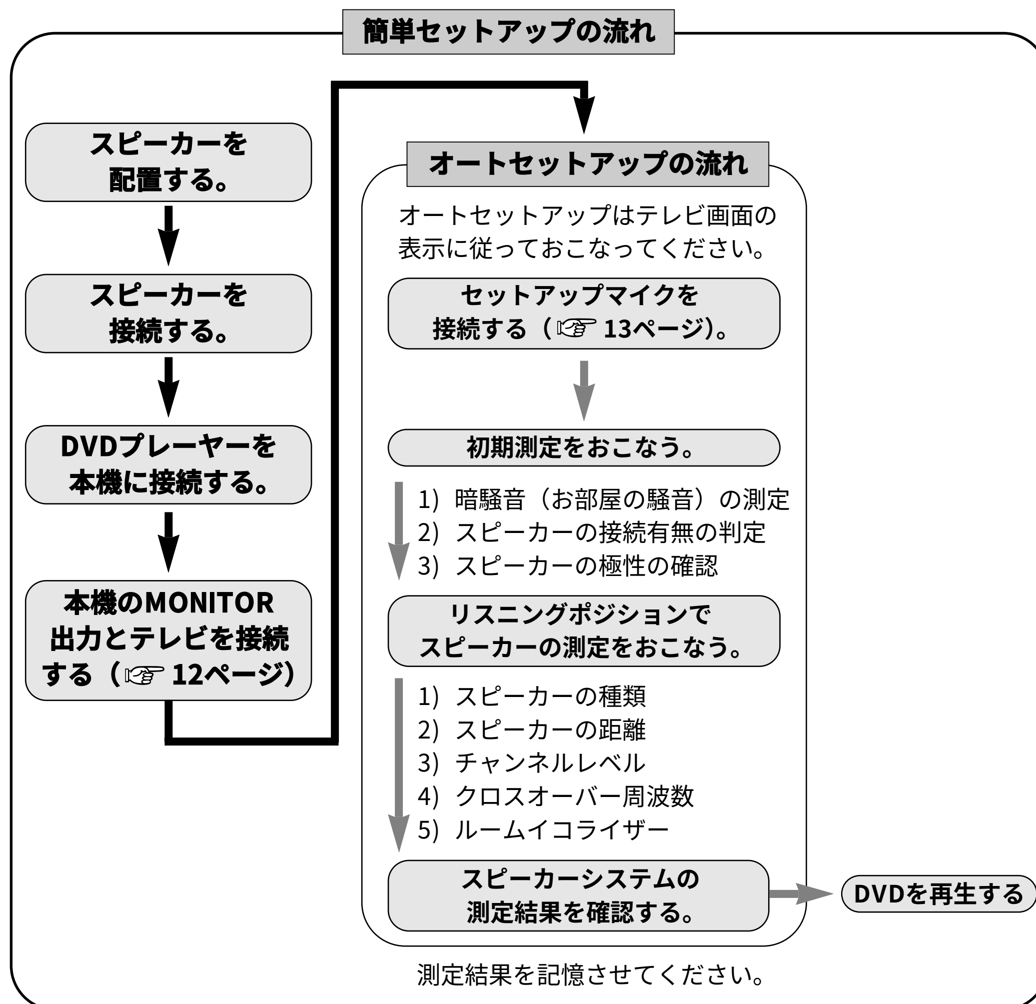
リモコン

本機を操作する場合は、モード切り替えボタンで“ AMP ”、“ TAPE ”、“ CDR/MD ” または“ CD ” モードを選んでください。

- リモコン信号送信窓 ……(7)
- LEARNED/TX表示 ……(58)
- 電源ボタン …………(14、59)
- モード切り替えボタン …(59)
- チューナーシステム/システムボタン …………(59)
- ファンクション/数字ボタン …………………………(26、59)
- ルームイコライザーボタン …………………………(27)
- ナイトボタン ……………(38)
- モード選択ボタン ………(58)
- サラウンドモードボタン ………………………………(28)
- システムボタン …………(59)
- 主音量調節ボタン ………(26)
- システムセットアップ/セットアップボタン ……(14)
- ミューティングボタン …………………………………(27)
- カーソルボタン（▲,▼,◀, ▶）……………………………(14)
- サラウンドパラメーター/メニューボタン ……(29、59)
- オンスクリーン/ディスプレイボタン ………………(27、59)
- チャンネルセレクト/エンターボタン ……(14、37)
- テストトーンボタン ……(55)
- リターンボタン …………(59)
- システムコールボタン …(60)
- フロントスピーカー切り替えボタン ……………………(27)
- USE/LEARN切り替えボタン ……………………(60)
- 入力モード切り替えボタン …………………………(26)
- ユーザーモードボタン …………………………(38)

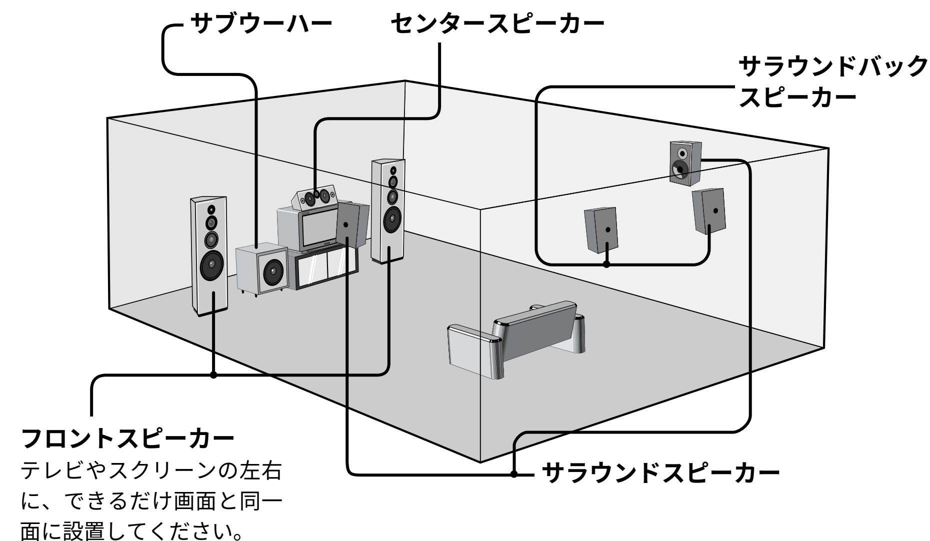
簡単セットアップ操作のしかた

- 簡単セットアップをおこなうことで、あなたの部屋のリスニング環境に適したサラウンド再生をおこなうことができます。
- 手動による音場の設定をおこなう場合は、53〜56ページを参照してください。



スピーカーの配置のしかた【基本的なレイアウト】

スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。



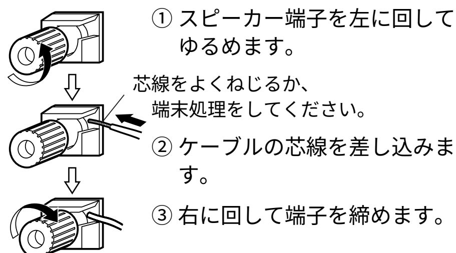
スピーカーの接続のしかた

スピーカー端子とスピーカーは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。

ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーケーブルの接続

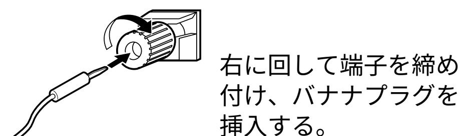


① スピーカー端子を左に回してゆるめます。

② ケーブルの芯線を差し込みます。

③ 右に回して端子を締めます。

バナナプラグの接続



右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入する。

■ スピーカーのインピーダンスについて

スピーカー	インピーダンス
フロントA、B	6〜16Ω
フロントA＋B	8〜16Ω
センター	6〜16Ω
サラウンド	
サラウンドバック	

スピーカーインピーダンスのご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4Ω）を使用して、長時間大音量で再生すると、温度が上昇して保護回路が動作します。

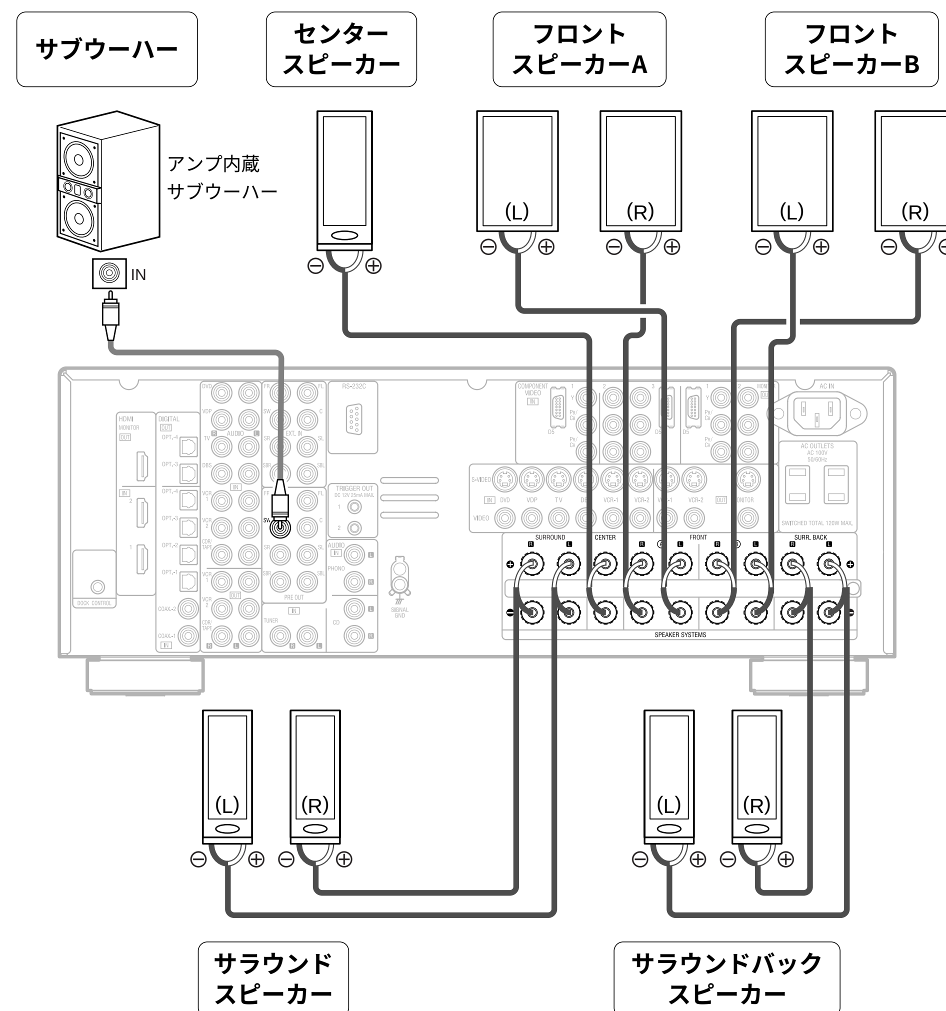
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてから本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。また、スピーカーケーブルや入力ケーブルの配線を確認してください。その後、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。

本機の周囲の通風や配線に問題がないのにも関わらず保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

《簡単セットアップ操作のしかた》

■ 接続のしかた

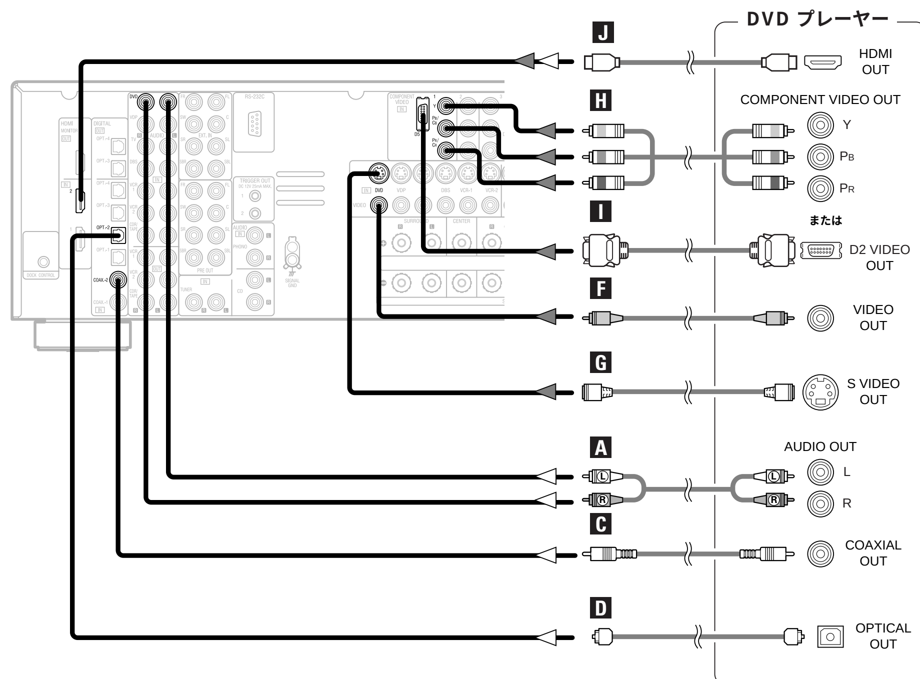
- 本機には最大10台のスピーカーを接続してサラウンド再生をお楽しみいただけます。
- 接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。



サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

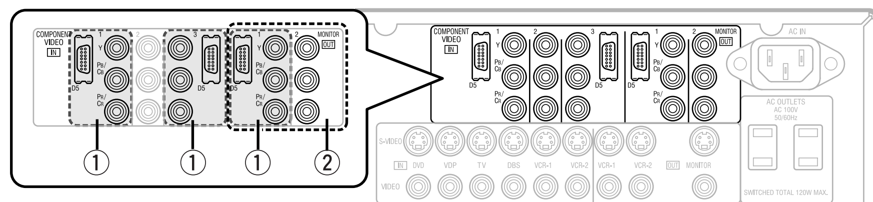
DVDプレーヤーとテレビの接続のしかた

- DVDプレーヤーの映像信号は、HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかで本機と接続します。(すべてのケーブルを接続する必要はありません。)
詳しくは、「ビデオコンバージョン機能について」(☞ 18、19ページ) をご覧ください。
- デジタル音声を再生する場合は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります(☞ 45ページ)。
- ビデオディスクプレーヤーは、同じ方法でVDP端子に接続できます。

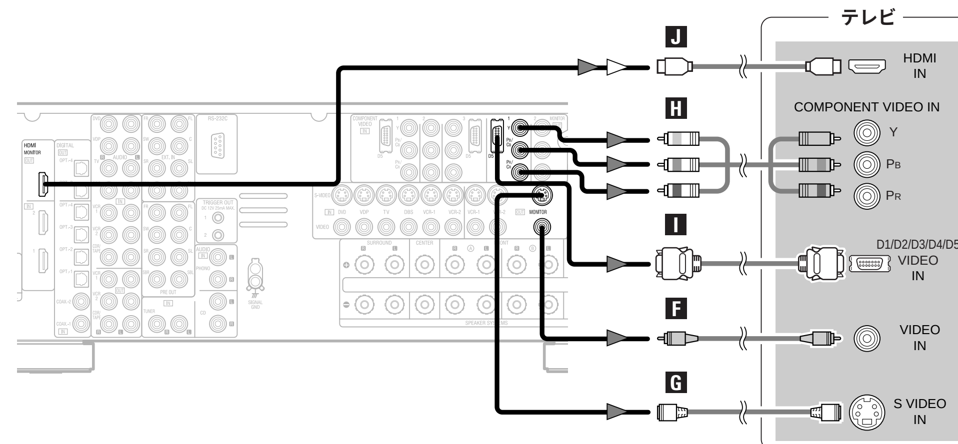


■ コンポーネントビデオ(D)端子のご使用について

① コンポーネントビデオ端子とD端子は、同時に接続できません。
接続する機器に合わせてどちらか片方を接続してください。
② コンポーネントビデオモニター出力端子(1、2)は同時に接続できます。

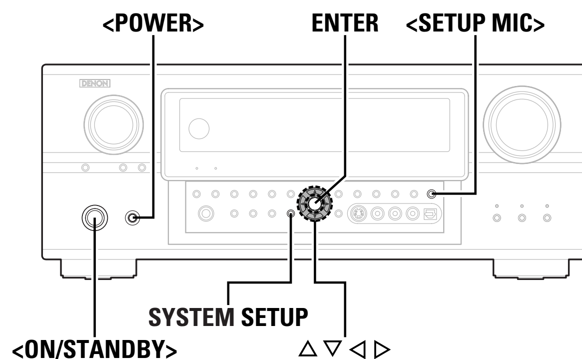


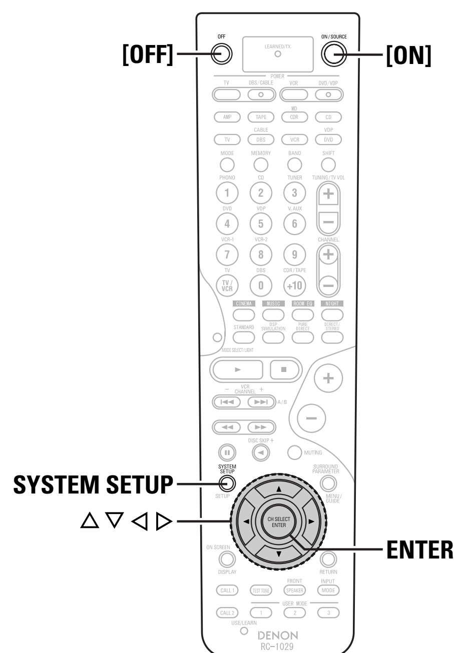
- 本機の映像出力は、HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかでテレビと接続します。(すべてのケーブルを接続する必要はありません。)



メモ

- HDMI入力端子から音声信号が入力された場合だけ、HDMIモニター出力端子から音声を出力します。
- 本機とDVDプレーヤーをHDMIケーブルを使用して接続する場合は、テレビとの接続もHDMIケーブルを使用してください。
- 本機を通してHDMIまたはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合は、システムセットアップおよびリモコンの **ON SCREEN** ボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイを表示します。
- テレビによってコンポーネントビデオ入力端子の表示が異なります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をお読みください。
- 本機のD端子は、D1〜D5(480i、480p、1080i、720p、1080p)の映像端子に対応しています。
- 本機のコンポーネントビデオモニター出力端子とテレビを映像用75Ωピンプラグケーブルや D端子/コンポーネント変換ケーブルで接続した場合は、D端子から入力された解像度などの識別信号を出力しません。





【操作説明のボタン名について】

＜　　＞：	本体のボタン
［　　］：	リモコンのボタン
ボタン名のみ：	本体とリモコンのボタン

オートセットアップ/ルームイコライザー（Room EQ）機能について

- 本機のオートセットアップ/ルームイコライザー機能は、付属のセットアップマイクでお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。
- 複数のリスナーが同時に視聴を楽しむホームシアターの、すべてのリスニングポジションに対して最適なリスニング環境を提供します。
  【例①】のように、スピーカーに囲まれたリスニングエリア内でセットアップマイクを家族の方が座る場所に順次移動し、測定をおこないます。より良い効果を得るために、測定は6ヵ所でおこないます。
  また【例②】のように、ホームシアターが少人数用であっても、リスニングポジションの周囲を測定することにより、より効果的な補正をおこなうことができます。
- オートセットアップを実行すると、ルームイコライザー機能の次の3つの補正カーブからお好みにより選ぶことができます。
  ◎**Audyssey**：
  すべてのスピーカーの周波数特性を調整して、お部屋の音響特性を最適な環境に補正します。
  ◎**Front**：
  各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
  ◎**Flat**：
  すべてのスピーカーの周波数特性をフラット（均一）にします。これはマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

メモ

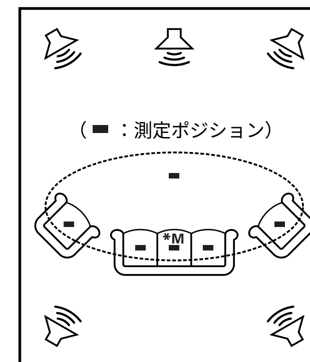
- 手動による音場の設定をおこなう場合は、53〜56ページをご覧ください。

■ メインリスニングポジション（*M）について

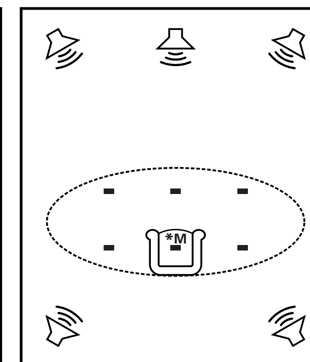
メインリスニングポジションとは、リスニングポジションの中央、または一人で視聴をおこなうときに座るポジションをさします。スピーカー距離については、このポジションを基準にします。

《簡単セットアップ操作のしかた》

【例①】

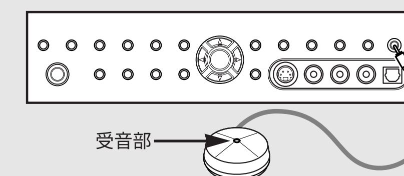


【例②】

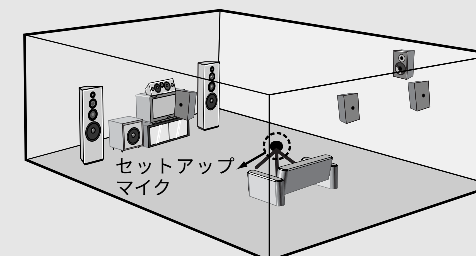


① セットアップマイクを接続する

1 **＜SETUP　MIC＞に付属のセットアップマイクを接続する。**



2 **セットアップマイクをカメラ用三脚などに取り付け、受音部を天井に向けた状態で設置する。**



※ セットアップマイクの受音部分の高さをリスニング時の耳の位置に合わせてください。
※ 必ず最初はメインリスニングポジションに設置して、測定をはじめてください。

《簡単セットアップ操作のしかた》

ご注意

設定が完了したら、セットアップマイクを抜いてください。

② オートセットアップの前に

1 サブウーハーの電源を入れる。

※ ご使用のサブウーハーにボリウム設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合は、サブウーハーのボリウムを「中央」、クロスオーバー周波数を「最大」またはローパスフィルターを「オフ」にしてください。

※ スタンバイモード機能がある場合は、必ず「オフ」にしてください。

2 テレビの電源を入れる。

3 <POWER> を押す。

- **ON：** 電源表示が赤色に点灯します。
- **OFF：** 電源表示が消灯します。

4 <ON/STANDBY>または［ON］を押す。

- 電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

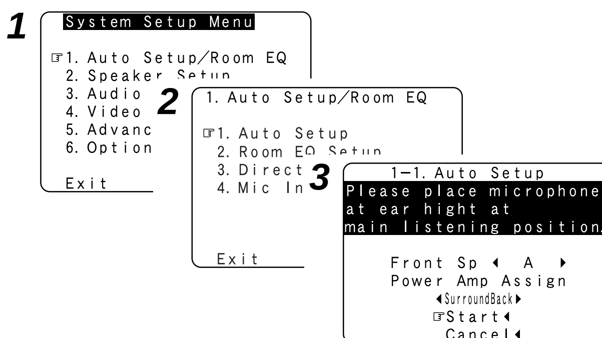
③ オートセットアップをおこなう

1 SYSTEM SETUP を押す。

2 △ ▽ で “ Auto Setup/Room EQ ” を選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ で “ Auto Setup ” を選び、ENTER を押す。

※ “ Connect Microphone ” が表示されたら、付属のセットアップマイクを接続してください。





メモ

- ヘッドホンを使用している場合は、“ System Setup Menu ” は表示されません。

④ パワーアンプの割り当ての変更

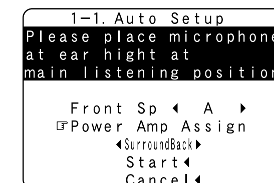
サラウンドバックの出力を “ Front ” の出力に割り当てることができます。

△ ▽ で “ Power Amp Assign ” を選び、◁ ▷ で設定する。

Surround Back：
サラウンドバックスピーカーとしてご使用になるときに割り当てます。

Front A, Front B：
Front A（またはFront B）スピーカーをバイアンプ接続でご使用になるときに割り当てます。

※“ Front A ” または “ Front B ” を割り当てると、サラウンドバックチャンネルの測定を省略します。



⑤ フロントスピーカーを切り替える

△ ▽ で “ Front Sp ” を選び、◁ ▷ でスピーカーを選ぶ。



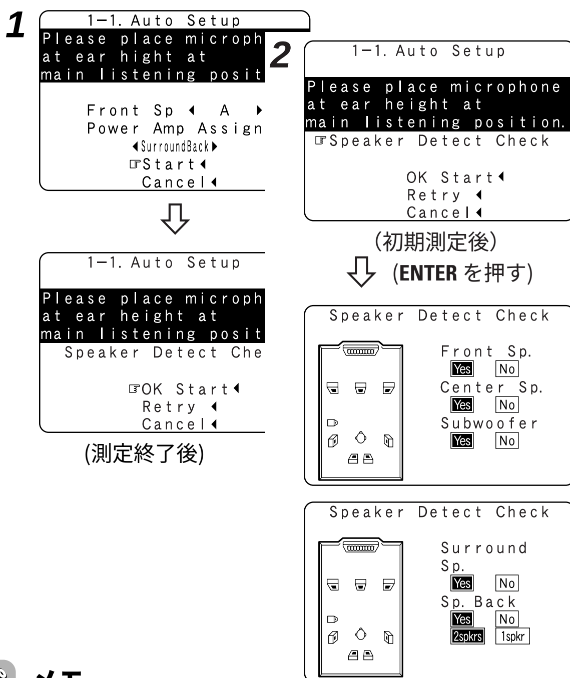
⑥ 初期測定

この測定では、暗騒音（お部屋の騒音）、スピーカー接続の有無およびスピーカーの極性を自動的に判定します。

1 **△ ▽ で“ Start ”を選び、◁ を押す。**
- 測定をはじめます。

2 **△ ▽ で“ Speaker Detect Check ”を選び、ENTER を押す。**

3 **再度 ENTER を押す。**



（初期測定後）

（ENTER を押す）

(測定終了後)



メモ

- もし、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、“ Retry ”を選び再度測定をおこなってください（☞ 16ページ）。
- 再測定後の結果も、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

測定中のご注意

- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などが近くにいる場合はご注意ください。
- 各スピーカーとセットアップマイクの間に障害物があると正しく測定できない場合があります。
- 測定中はスピーカーとセットアップマイクの間や近くに立たないでください。
- 測定に悪影響を与えないためにも、エアコンや音の出る機器の電源は切り、できる限り静かな環境で測定をおこなってください。
- 測定中に**VOLUME**を動かすと測定を中止します。

⑦ スピーカーの測定

この測定では「スピーカーの種類」、「スピーカーの距離」、「チャンネルレベル」、「クロスオーバー周波数」および「ルームイコライザー」を自動的に解析します。最初にメインリスニングポジションを測定しますので、セットアップマイクの位置はそのまま動かさないでください。

1 **△ ▽ で“ OK Start ”を選び、◁ を押す。**
- 1ポイント目（メインリスニングポジション）の測定をはじめます。

2 **2ポイント目にマイクを移動して、◁ を押す。**
- 2ポイント目の測定をはじめます。

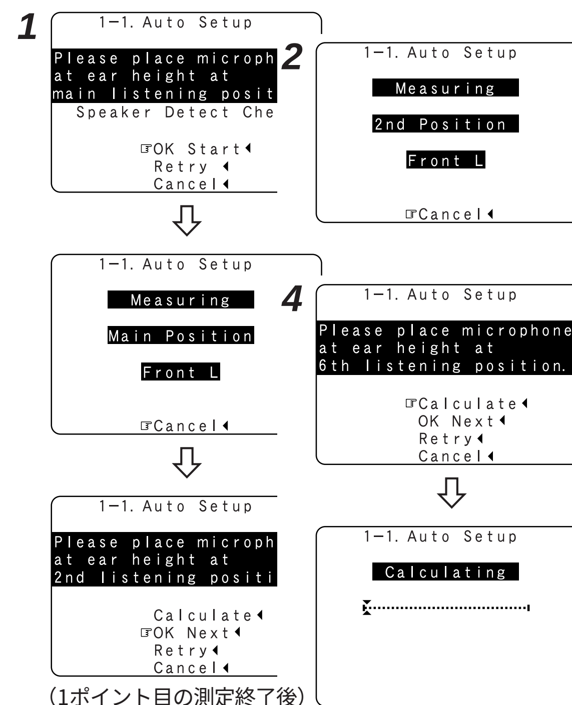
※ 測定が終わると、2ポイント目の測定結果を表示します。

3 **操作2を繰り返します。**

※ 測定ポイント数が6ヵ所以下でも測定を終了できますが、より良い結果を得るために、**6ヵ所**の測定をおすすめします。

4 **△ ▽ で“ Calculate ”を選び、◁ を押す。**
- スピーカーの解析をはじめます。

※ 解析が終了すると、測定結果の確認画面を表示します。
※ 解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。



（1ポイント目の測定終了後）

ご注意

測定をおこなった後、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。

⑧ 測定結果の確認とメモリー

「⑦ スピーカーの測定」で表示された測定結果の内容を、確認して記憶させることができます。

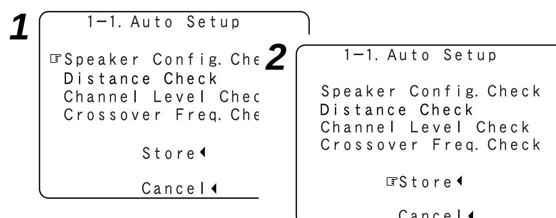
1 △ ▽ で項目を選び、ENTER を押す。

※ **ENTER** を押すと、第2画面に切り替えることができます。

2 確認が終了したら、ENTER を押して △ ▽ で設定する。

Store：	すべての設定内容を記憶します。
Cancel：	オートセットアップの設定を取り消します。

3 " Store " を選んだ場合：◁ を押す。



メモ

- セットアップマイクを使用して測定した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

メモリー中は電源を切らないでください。

エラーメッセージについて

スピーカーの配置や測定環境などによりオートセットアップを完了できなかった場合は、エラー画面を表示します。
下記のエラー画面をご確認の上、該当する項目を設定して再度測定してください。
なお、スピーカーの接続を確認する際は、必ず電源を切ってからおこなってください。

例	原　因	処　理
1−1. Auto Setup Caution! ☞◂Front ▸ R :None Retry ◂ Cancel ◂	① 適切な再生をおこなうために必要なスピーカーが検出されなかった場合。 ※ 複数のエラーが発生した場合は、◁ ▷ で内容を確認してください。	● 該当するスピーカーが正しく接続されているかを確認してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞◂Front ▸ L :Phase Retry◂ Cancel◂ Skip◂	② スピーカーの極性が逆に接続されている場合。 ※ 複数のエラーが発生した場合は、◁ ▷ で内容を確認してください。	● 該当するスピーカーの極性を確認してください。 ● スピーカーによっては正しく接続していてもこの画面が表示される場合があります。このような場合は、" Skip " を選んでください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Ambient Noise is Too High or Level is Too Low Retry◂ Cancel◂	③ 部屋の騒音が大きすぎて正確な測定をおこなうことができない場合。 または、スピーカーやサブウーハーから出力される音量が小さすぎる場合。	● 測定中は騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ● 周囲が静かな時間帯にもう一度やり直してください。 ● スピーカーの配置や向きを確認してください。 ● サブウーハーの音量を調節してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Microphone:None or Speaker:None Retry◂ Cancel◂	④ 測定用マイクが接続されていない場合。 または、すべてのスピーカーが検出されなかった場合。	● **<SETUP MIC>**に付属のセットアップマイクを接続してください。 ● スピーカーの接続を確認してください。

接続のしかた

接続ケーブルの表示

下記に示す接続ケーブル（別売り）を使用して、他の機器を接続してください。

オーディオケーブル	ビデオケーブル
A アナログ接続（ステレオ） (白) (赤) ピンプラグケーブル	**F** ビデオ接続 (黄) 映像用75Ωピンプラグケーブル
B アナログ接続（モノラル、サブウーハー用） ピンプラグケーブル	**G** Sビデオ接続 S端子用接続ケーブル
C 同軸デジタル接続 (オレンジ) 同軸デジタル（75Ωピンプラグ）ケーブル	**H** コンポーネントビデオ接続 (緑) (Y) (青) (PB/CB) (赤) (PR/CR) コンポーネントビデオ用ケーブル
D 光デジタル接続 光伝送ケーブル	**I** コンポーネントビデオ接続 D端子用接続ケーブル
E スピーカー接続 + − スピーカーケーブル	**オーディオ&ビデオケーブル** **J** HDMI接続 HDMIケーブル

信号方向

オーディオ信号： IN ◁ OUT　OUT ▷ IN

ビデオ信号： IN ◀ OUT　OUT ▶ IN

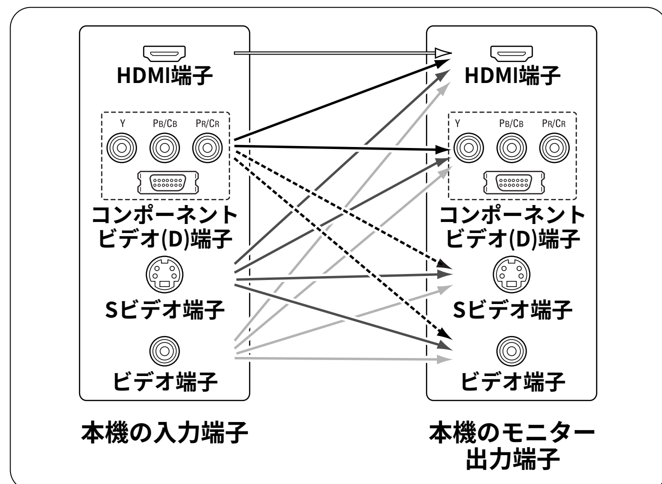
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因になります。

ビデオコンバージョン機能について

- 本機のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
  このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニター出力端子とテレビ間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。
- アナログ映像信号の接続方法については、一般的に
  ① コンポーネントビデオ（D）端子
  ② Sビデオ端子
  ③ ビデオ端子
  の順で高品位な再生をおこなうことができます。

本機内部での映像信号の流れ



----：480i/576iのとき

映像入力信号とモニター出力の関係

ビデオコンバート	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
ON	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	VIDEO	COMPONENT ⁎1	VIDEO	VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT ⁎1	COMPONENT ⁎1	× ⁎3	VIDEO
	×	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT ⁎1	COMPONENT ⁎1	COMPONENT	VIDEO
	×	○ (1080p)	○	×	S-VIDEO	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	○	○	S-VIDEO	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	○	×	×	○	HDMI ⁎1	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	HDMI ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	HDMI ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	×	×	HDMI	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	×	○	HDMI ⁎1	COMPONENT ⁎1	VIDEO	VIDEO
	○	○ (480p ~ 720p)	×	○	HDMI ⁎1	COMPONENT ⁎1	× ⁎3	VIDEO
	○	○ (480i/576i)	×	○	HDMI ⁎1	COMPONENT ⁎1	COMPONENT	VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	○	×	HDMI ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i)	○	×	HDMI ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	○	○	HDMI ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i)	○	○	HDMI ⁎2	COMPONENT ⁎2	S-VIDEO	S-VIDEO

○：信号あり
×：信号なし
480p ~ 720p：480p/576p/1080i/720p

×：　モニター出力しない。
⁎1：オンスクリーンディスプレイ表示は、ビデオ信号にスーパーインポーズして出力する。
⁎2：オンスクリーンディスプレイ表示は、Sビデオ信号にスーパーインポーズして出力する。
⁎3：“ Analog to HDMI convert ” を “ OFF ” に設定しているときは、ビデオ信号を出力する。
COMPONENT：**SYSTEM SETUP**、**SURROUND PARAMETER** および **ON SCREEN** ボタン操作時のみ、オンスクリーンディスプレイを表示する。
HDMI：“ Analog to HDMI convert ” を “ ON ” に設定しているときのみ、オンスクリーンディスプレイを表示する。
（網掛け）：“ Analog to HDMI convert ” を “ OFF ” に設定しているときは、モニター出力しない。



メモ

- 入力信号がコンポーネントビデオ信号の480p/576p/1080i/720pの時は、HDMIへのアップコンバートはそのままの解像度で出力されます。ただし1080pの解像度には対応しません。
- 入力信号がビデオ、Sビデオおよびコンポーネント（480i/576i）の時はHDMIへのアップコンバートは “ HDMI Out Setup ” の “ i/p Convert ” の設定に従って出力します。

ビデオコンバート	S-VIDEOモニター出力	入力信号				モニター出力			
		HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
OFF	–	×	×	×	×	×	×	×	×
	–	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO
	–	×	×	○	×	×	×	S-VIDEO	×
	使用	×	×	○	○	×	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	×	○	○	×	×	–	VIDEO
	–	×	○	×	×	×	COMPONENT	×	×
	–	×	○	×	○	×	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	–	×	○	○	×	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊1	–	VIDEO
	–	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	–	○	×	×	○	HDMI	×	×	VIDEO
	–	○	×	○	×	HDMI	×	S-VIDEO	×
	使用	○	×	○	○	HDMI	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	×	○	○	HDMI	×	–	VIDEO
	–	○	○	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	–	○	○	×	○	HDMI	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	–	○	○	○	×	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊1	–	VIDEO

○：信号あり
×：信号なし

×：　モニター出力しない。
＊1：オンスクリーンディスプレイ表示は、ビデオ信号にスーパーインポーズして出力する。
＊2：オンスクリーンディスプレイ表示は、Sビデオ信号にスーパーインポーズして出力する。
COMPONENT：**SYSTEM SETUP**、**SURROUND PARAMETER** および **ON SCREEN** ボタン操作時のみ、オンスクリーンディスプレイを表示する。
HDMI：“ Analog to HDMI convert ” を “ ON ” に設定しているときのみ、オンスクリーンディスプレイを表示する。

《接続のしかた》

アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能について

- 本機のアップコンバージョン機能は、入力されたアナログビデオ信号（コンポーネント-480i/576i、480p/576p、1080i、720p；Sビデオおよびビデオ-480i/576i）をHDMIモニター出力端子に出力できます。
- 本機は480i/576iのコンポーネントビデオ、Sビデオおよびコンポジットビデオの入力信号を480p/576pに変換してHDMIモニター出力端子から出力することができます。

メモ

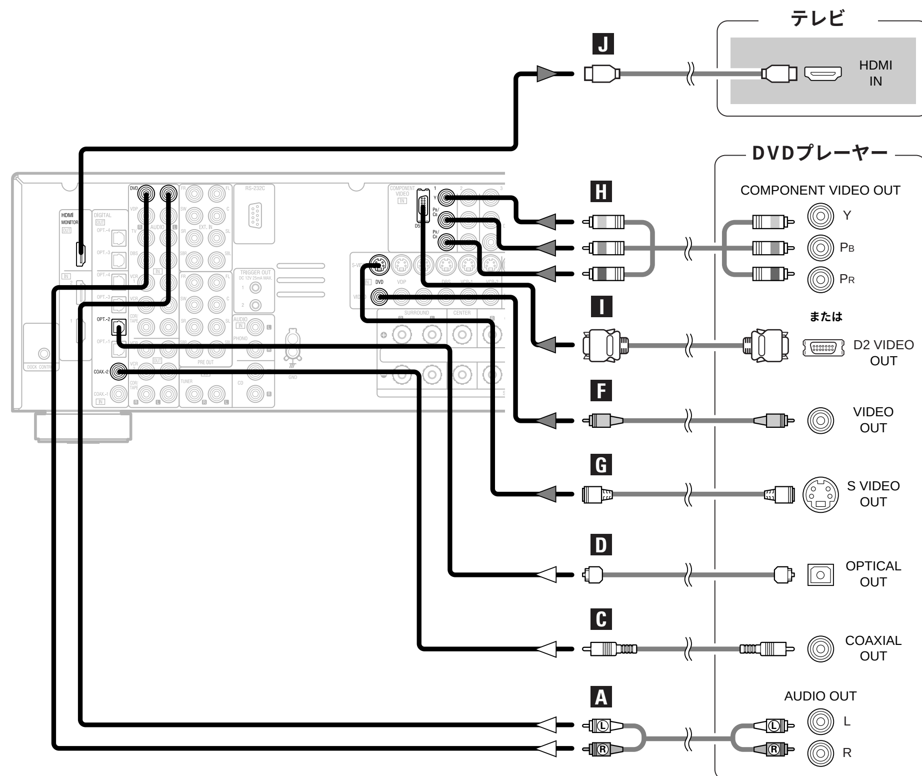
- テレビが対応している解像度は、本機の **STATUS** ボタンやリモコンの **ON SCREEN** ボタンで確認できます。
- コンポーネントビデオ端子に入力された信号の解像度が480i/576iのときは、モニター出力端子にダウンコンバートします。
- HDMI信号からコンポーネントビデオ信号、Sビデオ信号、ビデオ信号へのダウンコンバートはできません。HDMIモニター出力端子を使用しない場合は、コンポーネントビデオ、Sビデオ、ビデオ入力端子で再生機器と接続してください。
- ビデオコンバージョン機能を使用しない場合は、「ビデオコンバートの設定」（☞ 47ページ）で “ OFF ” を選んでください。
- アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用しない場合は、「HDMIコンバート出力の設定」（☞ 47ページ）で “ OFF ” を選んでください。
  この場合は、コンポーネントビデオ端子までのアップコンバージョン機能が動作します。

■ HDMIまたはコンポーネントビデオ出力のオンスクリーンディスプレイ表示について

- 本機を通してHDMIまたはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合は、システムセットアップおよびリモコンの **ON SCREEN** ボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイを表示します。
- 本機にHDMIまたはコンポーネントビデオ信号のみが入力されている場合、オンスクリーンディスプレイの文字を映像信号に重ねて表示しません。

アナログビデオ信号をHDMIに変換する場合のビデオ機器の接続

- DVDプレーヤーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかで接続します。
- 音声信号はHDMIモニター出力端子から出力しません。アナログまたはデジタル音声接続をおこなってください。デジタル音声を再生する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 45ページ）。

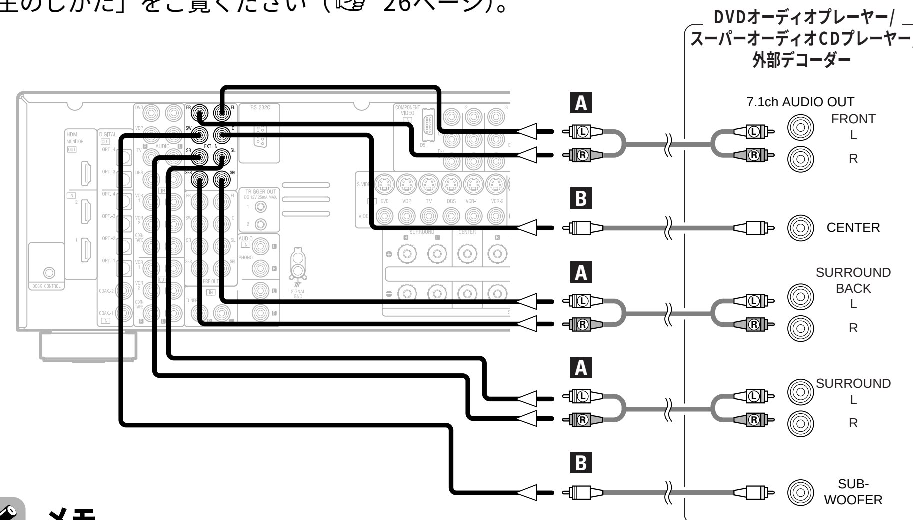


メモ

- 「HDMIコンバート出力の設定」（☞ 47ページ）で“ i/p Convert ”を“ OFF ”に設定する場合は、480i/576iの入力解像度に対応したHDMIモニターを使用してください。
- ご使用になるテレビにHDMI端子が備わっていない場合は、ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ（D）端子のいずれかを使用して接続してください。

外部入力端子の接続

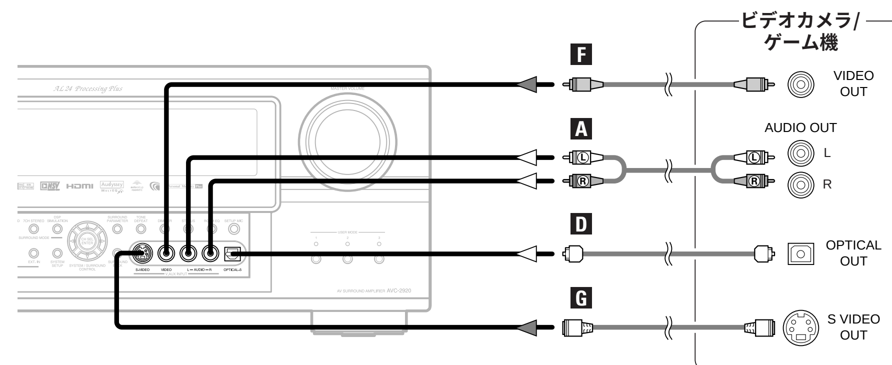
- 本機には7.1チャンネル用アナログ外部入力端子を備えています。この入力端子は、ハイビジョンのMUSE 3-1方式やDVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
- ビデオ信号の接続のしかたは、DVDプレーヤーと同じです（☞ 12ページ）。
- EXT. IN端子に接続されたアナログ入力信号の再生方法を設定するときは、「入力機器の再生のしかた」をご覧ください（☞ 26ページ）。



メモ

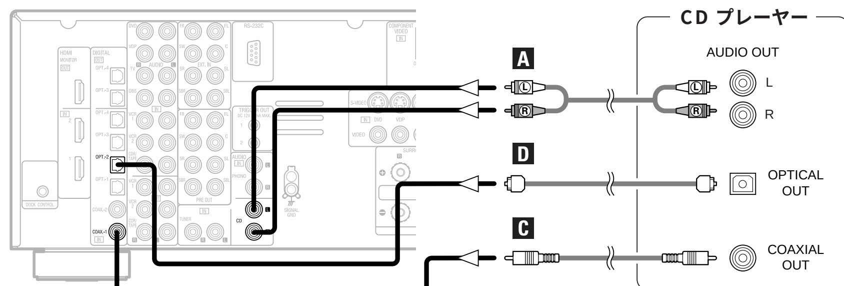
- ハイビジョン（MUSE 3-1方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合は、別売りのモノ/ステレオ変換ケーブルを使用してください。

ビデオカメラまたはゲーム機の接続



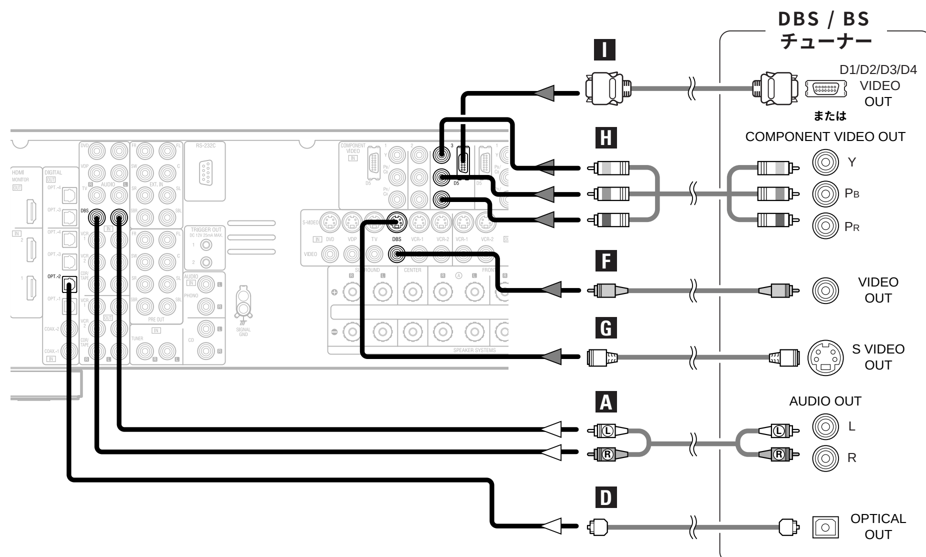
CDプレーヤーの接続

デジタル音声は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 45ページ）。



DBSチューナーの接続

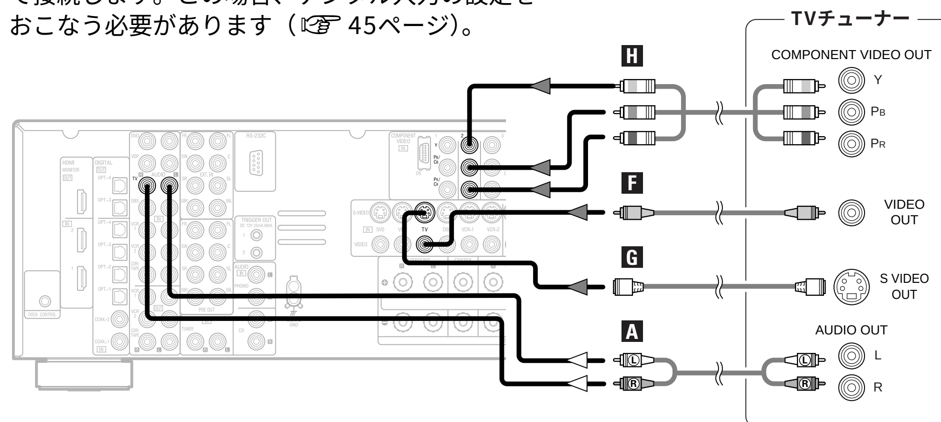
- DBSチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかで接続します。
- デジタル音声は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。同軸デジタルケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 45ページ）。



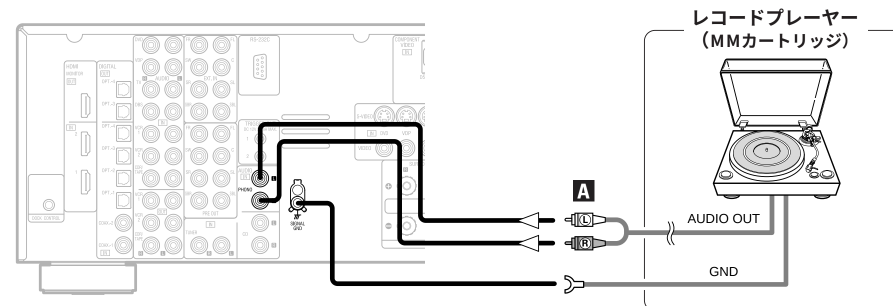
《接続のしかた》

テレビチューナーの接続

- テレビチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかで接続します。D端子用ケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります（☞ 47ページ）。
- デジタル音声を再生する場合は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。この場合、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 45ページ）。



レコードプレーヤーの接続

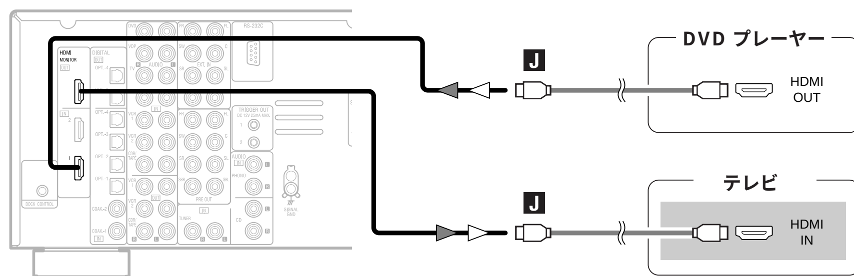


ご注意

- 本機ではMCカートリッジの再生はできません。市販のヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。
- レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げたときに、“ ブーン ” という音がスピーカーから出ることがあります。
- 本機のアース端子（SIGNAL　GND）は、レコードプレーヤーを接続した場合の雑音の低減をはかるもので、安全アースではありません。
- レコードプレーヤーによっては、アースワイヤーが接続されているときに雑音が発生する場合があります。このような場合は、アースワイヤーを外してください。

HDMI 端子付きビデオ機器の接続

- 本機とHDMI端子のある機器を1本のケーブル（別売り）を使用して接続するだけで、DVDビデオなどのデジタル映像とDVDビデオやDVDオーディオのマルチチャンネル音声のデジタル伝送がおこなえます。
- 本機の音声出力端子から音声を出力する場合は、「HDMI入力の設定」（☞ 46ページ）で“ AMP ” を選んでください。また、テレビから音声を出力する場合は、“ TV ” を選んでください。



入力信号		
DVDビデオ	リニアPCM	○
	ドルビーデジタル	○
	DTS	○
DVDオーディオ	LPCMまたは PACKED PCM （CPPMあり/なし）	○
CD	リニアPCM	○
スーパーオーディオCD	マルチエリア	×
	ステレオエリア	×
	CDエリア	○

※ 本機は、HDMI Ver 1.1に対応しています。

著作権保護システム

HDMI/DVI-D接続を通してDVDビデオやDVDオーディオのデジタル映像と音声を再生するは、接続されたプレーヤーとテレビの双方がHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機はHDCPに対応しています。お手持ちのプレーヤーまたはテレビについては取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 接続されるテレビまたはDVDプレーヤーがDVI-D端子のみ対応の場合は、HDMI/DVI変換ケーブルを使用してください。

ご注意

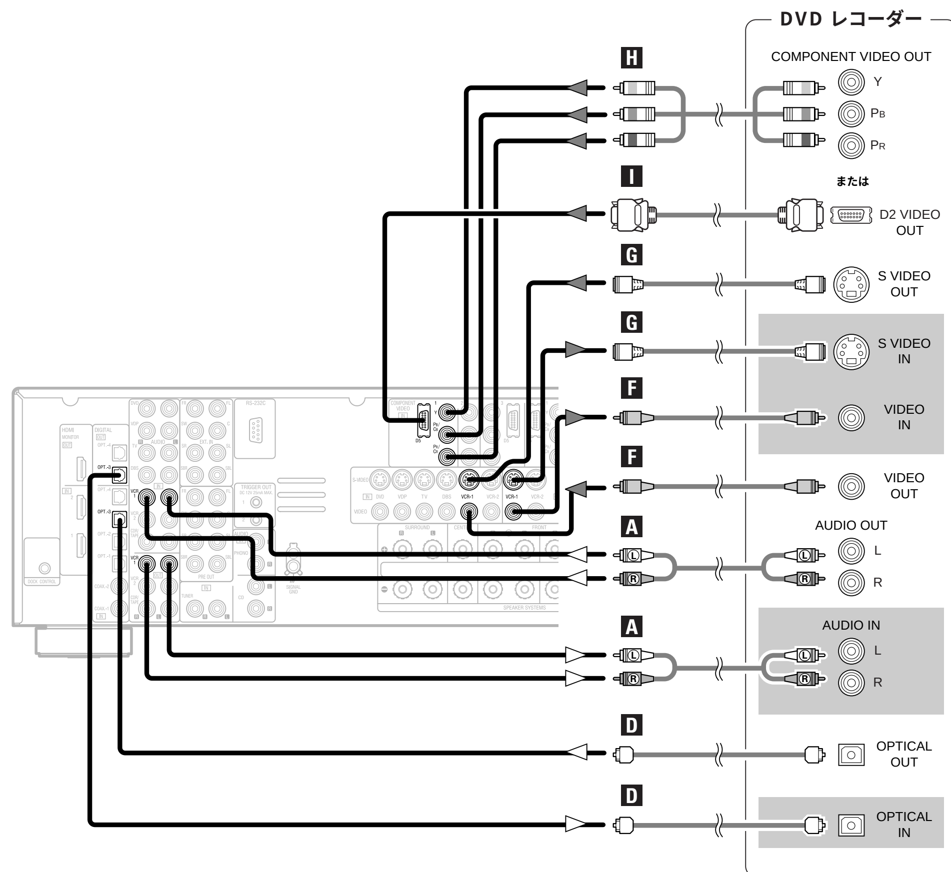
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声を出力しません。
- CPPMで著作権保護されたDVDオーディオディスクを再生する場合は、対応したプレーヤーを使用してください。
- HDMI対応機器の中には、HDMI端子経由で他の機器を制御できるものがありますが、本機をHDMI端子経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続される機器により制限することがあります。
- HDCPに対応していない機器をご使用の場合は、正常に映像を出力しません。
- 「HDMIコンバート出力の設定」（☞ 47ページ）で“ i/p Convert ” を“ OFF ” に設定する場合は、480i/576iの入力解像度に対応したHDMIモニターを使用してください。
- HDMI入力端子から入力された映像信号は、そのままの解像度でHDMIモニター出力端子から出力するため、入力信号の解像度と使用するテレビの解像度が合っていない場合は表示しません。このような場合は、ソース機器（プレーヤー）側でテレビが対応している解像度の設定に合わせる必要があります。
- 安定した伝送のために5m以下のケーブルの使用をおすすめします。

■ HDMI/DVI変換ケーブル（アダプター）での接続について

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）はDVI-Dと原理的に互換性があります。
DVI-D端子付きテレビなどに接続する場合は、HDMI/DVI-D変換ケーブルで接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI/DVI-D変換アダプターをご使用の場合は、接続されたケーブルとの接触不良などにより、正常に映像が出力されない場合があります。

DVDレコーダーの接続

- DVDレコーダーの映像出力は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント用ケーブルのいずれかで接続します。
  D端子やコンポーネント用ケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります（☞ 47ページ）。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ端子に接続する必要があります。



メモ

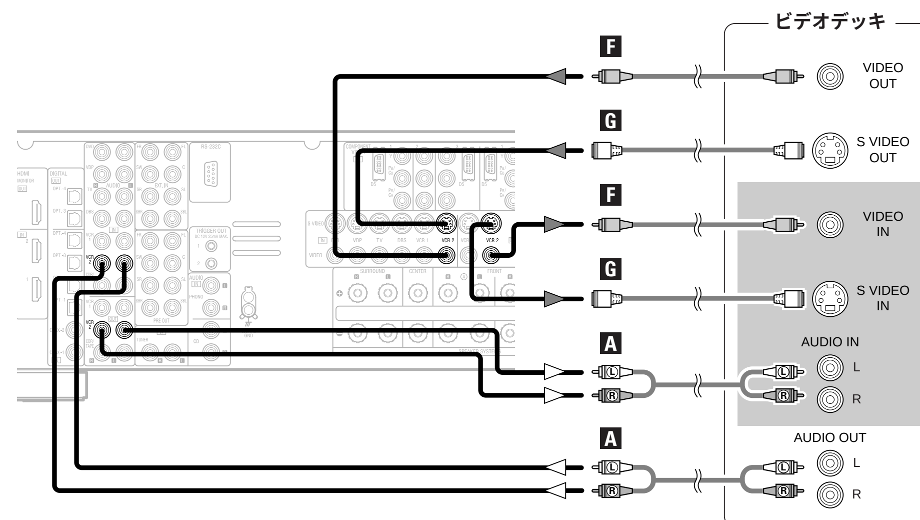
- 本機を通して録画するときは、再生機器のケーブルの種類と本機のVCR-1、VCR-2出力端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
  【例】TV入力 → S端子用接続ケーブル：VCR-1またはVCR-2出力 → S端子用接続ケーブル
  TV入力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-1またはVCR-2出力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル

ご注意

本機のOPTICAL 3出力端子に接続された機器の出力をOPTICAL 3入力端子以外に接続しないでください。

ビデオデッキの接続

VCR端子は2系統あり、2台のビデオデッキを接続して同時録画やビデオコピー（ダビング）がおこなえます。

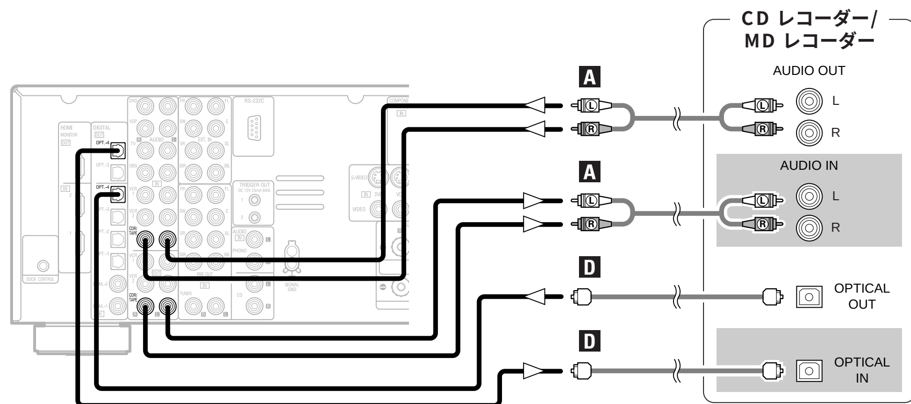


メモ

- 本機を通して録画するときは、再生機器のケーブルの種類と本機のVCR-1、VCR-2出力端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
  【例】VCR-1入力 → S端子用接続ケーブル：VCR-2出力 → S端子用接続ケーブル
  VCR-2入力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-1出力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル

CDレコーダーまたはMDレコーダーの接続

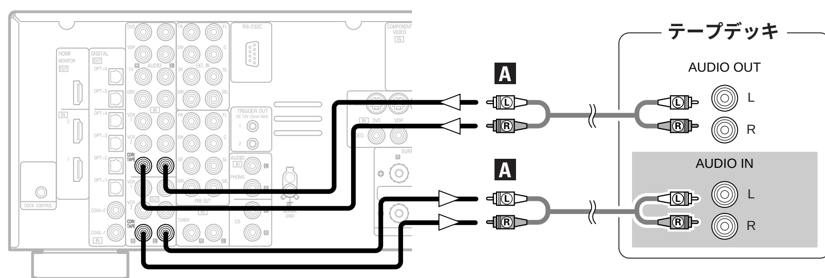
アナログ音声を録音する場合は、アナログ端子に接続する必要があります。



ご注意

本機のOPTICAL 4出力端子に接続された機器の出力をOPTICAL 4入力端子以外に接続しないでください。

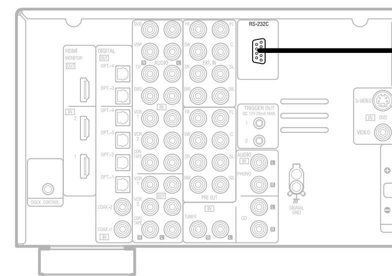
テープデッキの接続



《接続のしかた》

コントロール用端子の接続

■ RS-232C端子の接続

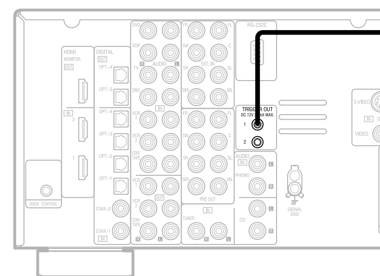


拡張用のコントロール端子です。詳しくは、弊社のお客様相談窓口にご相談ください。

RS-232C端子を使用して外部コントローラーから本機の操作をおこなう場合は、あらかじめ下記の操作をおこなう必要があります。

① 本機の電源スイッチを“ ON ”にする。
② 外部コントロール機器から本機の電源を“ OFF ”にする。
③ 本機がスタンバイ状態になっていることを確認する。

■ TRIGGER OUTジャックの接続

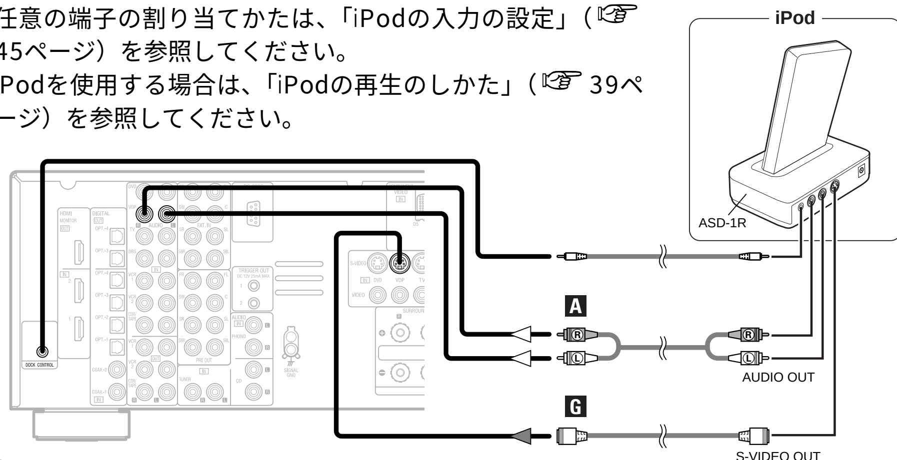


12V　トリガー入力端子を持つ機器を接続します。この端子から12Vの直流電圧を出力します。直流12VのON/OFFは、本機の電源や各入力機器、サラウンドモードに対して連動させることができます。
詳しくは、「トリガーアウトの設定」（☞ 52 ページ）をご覧ください。

iPod®の接続

iPodをご使用の際はDENON製iPod Dockと本機のDOCK CONTROL端子をミニジャックで接続し、任意のオーディオ端子および（または）Sビデオ端子に割り当てをおこなう必要があります。下図はiPodをVDP端子に割り当てた場合の接続例です。

※ 任意の端子の割り当てかたは、「iPodの入力の設定」（☞ 45ページ）を参照してください。
※ iPodを使用する場合は、「iPodの再生のしかた」（☞ 39ページ）を参照してください。



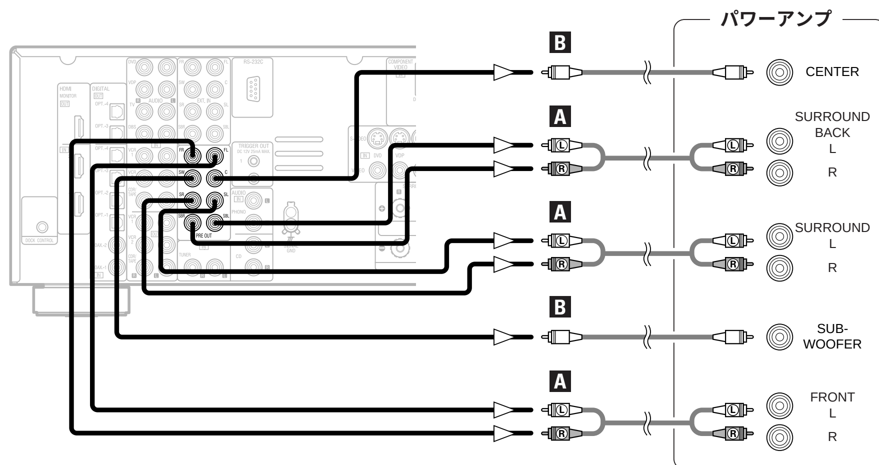


メモ

● 本機とiPodの接続には、別売りの専用iPod Dock（ASD-1R）をご使用ください。

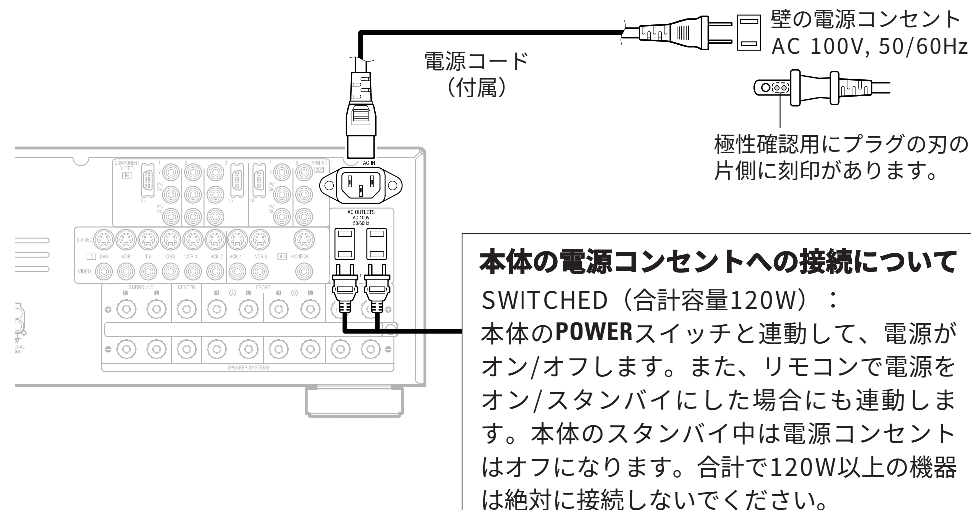
PRE OUT端子の接続

パワーアンプ（別売り）を使用してフロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックの音声をパワーアップするときに使用します。



電源コードの接続

本機に付属の電源コードには極性が表示されています。
お好みの音質になるように電源コンセントに挿入してください。



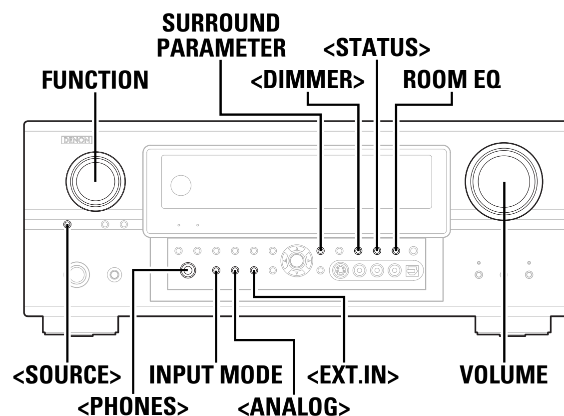
本体の電源コンセントへの接続について

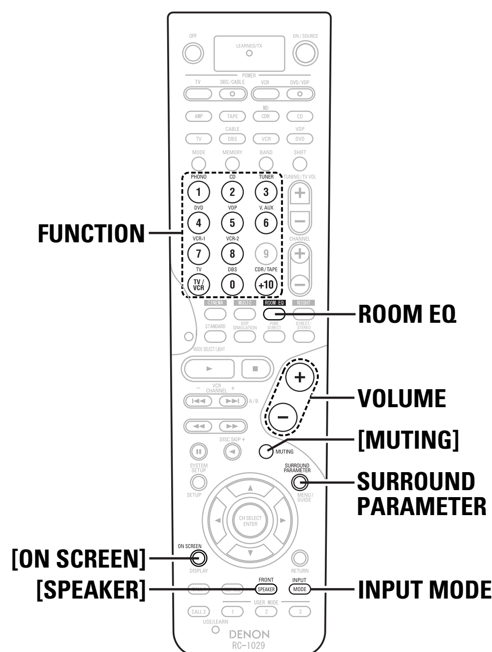
SWITCHED（合計容量120W）：
本体の**POWER**スイッチと連動して、電源がオン/オフします。また、リモコンで電源をオン/スタンバイにした場合にも連動します。本体のスタンバイ中は電源コンセントはオフになります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

ご注意

● 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
● 本体の電源コンセントへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤー、レコードプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。

基本操作のしかた





【操作説明のボタン名について】

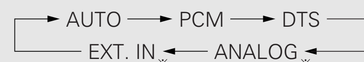
＜　　＞：	本体のボタン
[　　]：	リモコンのボタン
ボタン名のみ：	本体とリモコンのボタン

入力機器の再生のしかた

1 FUNCTION で入力ファンクションを選ぶ。

※"REC SELECT"または"VIDEO SELECT"を選んでいる場合は、**＜SOURCE＞**を押してから**＜FUNCTION＞**を回してください。

2 INPUT MODE を押す。



※本体で"ANALOG"を選ぶ場合は**＜ANALOG＞**、"EXT.IN"を選ぶ場合は**＜EXT.IN＞**を押してください。

AUTO（オールオートモード）：
入力信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドモードに切り替えて再生します。「デジタル入力の設定」（☞ 45ページ）で設定をしているファンクションで選ぶことができます。DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式に自動的に切り替わります。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子に切り替わります。

PCM（PCM信号再生専用モード）および
DTS（DTS信号再生専用モード）：
それぞれの信号が入力されたときに再生します。入力信号と違うモードに設定すると、ノイズを発生する場合があります。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）および
EXT. IN（外部デコーダー用入力端子選択モード）：
それぞれの入力端子に入力されている信号を再生します。

※ EXT.INモードのときに、サブウーハーの出力レベルを下げるときは **SURROUND PARAMETER** を押して"SW ATT"を選んでください。
プレーヤーによってはSWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。このときは"ON"にしてください。

3 選択した機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 VOLUMEで音量を調節する。

- 音量を主音量レベル表示に表示します。

※ 音量は、－80～0～18dBの範囲内で調節できます。ただし、チャンネルレベルの設定値や各サラウンドモードの設定状態、ダウンミックスモードのときは、音量を18dBまで調整できない場合があります。

メモ

- 外部入力（EXT.IN）モードを解除するときは、**INPUT MODE** または**＜ANALOG＞**を押して、再生したい入力モードに切り替えてください。
- 外部入力モードを映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ファンクションを選択後、**＜EXT.IN＞**を押してください。
- デジタル信号が正常に入力されると"DIG."が点灯します。点灯しない場合は、「デジタル入力の設定」（☞ 45ページ）または接続が正しいかを確認してください。

ご注意

- 入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモードの設定はできません。
- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。

DTSソースの再生をおこなう場合のご注意

- DTSのソースは、必ずデジタル入力端子に接続し、入力モードを"AUTO"または"DTS"にしてください。ANALOGモードやPCMモードで再生すると、ノイズが発生します。
- "AUTO"モードでDTSを再生した場合、再生のはじめやサーチ中にノイズが発生する場合があります。このような場合は、"DTS"モードで再生してください。

ルームイコライザーを選ぶ

ルームイコライザー機能には " Audyssey "、" Front " および " Flat " の3種類の補正カーブがあります。これらのモードは、オートセットアップを実行した後に選択できます。

ROOM EQ を押す。

→ OFF → Audyssey → Front → Flat → Manual ─┘

- " Audyssey " を選ぶと、MultEQ XT表示が緑色に点灯します。また、" Front " または " Flat " を選ぶと、赤色に点灯します。

※ オートセットアップの測定後にスピーカーセットアップの設定内容（☞ 53〜56ページ）を変更すると、赤色に点灯します。

Audyssey, Front, Flat：
56ページを参照してください。

Manual：
「マニュアルイコライザーの設定」（☞ 50ページ）で設定されたグラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの特性を調整します。

一時的に音を消す（ミューティング）

［MUTING］を押す。

※ ミューティングレベルの調整ができます（☞52ページ）。

 **メモ**

- 解除する場合は、［MUTING］を押すか、音量を調節してください。

ヘッドホンで音を聴く

<PHONES>にヘッドホンを差し込む。

- 自動的にスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げ過ぎないように注意してください。

フロントスピーカーを切り替える

［SPEAKER］を押す。

→ FRONT A → FRONT B → FRONT A+B ─┘

今再生しているプログラムソースなどを確認する

■ オンスクリーンディスプレイで確認する

［ON SCREEN］を押す。

- オンスクリーンディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。

■ ディスプレイで確認する

<STATUS>を押す。

- ディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。

ディスプレイの明るさを切り替える

<DIMMER>を押す。

※ ディスプレイの明るさが3段階に変化し、消すこともできます。

サラウンドモードの使いかた

サラウンドモードの種類と特長

本機にはたくさんのサラウンドモードがあります。それらの中で信号ソースの特長を生かして最高の効果を得るために下記のサラウンドモードを使用することをおすすめします。

※ ▭ は、6.1/7.1チャンネル再生のサラウンドモードです。

ドルビーデジタルEXで録音されたソース

→ **DOLBY DIGITAL EX / +PLⅡx*²** （☞ 29ページ）
- ドルビーデジタルEXで録音されたソースの再生に最適化したモードです。

DTS ESで録音されたソース

→ **DTS ES DSCRT 6.1 / MTRX 6.1 / +PLⅡx*²** （☞ 29ページ）
- DTS　ESで録音されたソースの再生に最適化したモードです。

ドルビーデジタルまたはDTSサラウンド（5.1チャンネルソース）
ドルビーサラウンドで録音された2チャンネルソース

→ **WIDE SCREEN** （☞ 36、37ページ）
- ドルビーサラウンドで録音された2チャンネルソースまたは5.1チャンネルソースを用いて7.1チャンネル再生をおこなう場合に有効です。

→ **DOLBY DIGITAL / DOLBY DIGITAL+PLⅡx*¹ / DTS SURROUND / DTS 96/24 / DTS+PLⅡx*¹ / DTS+NEO:6** （☞ 29ページ）
- 5.1チャンネルまたは7.1チャンネル再生に最適化したモードです。
- ドルビーサラウンド録音ソースは、自動的にドルビープロロジックⅡで再生します。

ステレオ録音ソース
モノラル録音ソース

PURE DIRECT
- アナログ入力音楽再生を最高のグレードで再生します。

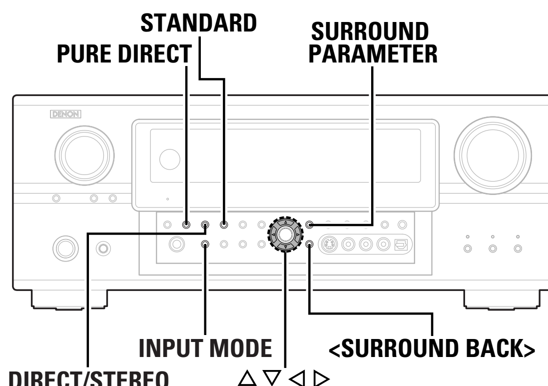
DIRECT/STEREO
- 2チャンネル再生をおこなう場合に有効です。
- 音質調整やスピーカー配置で低域振り分けが不要な場合は、DIRECTモードを選択することにより最高の音質で楽しめます。

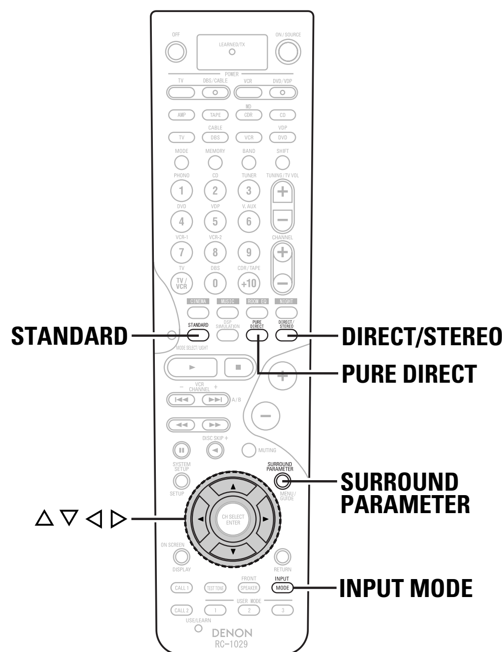
DENONオリジナルサラウンドモード
（☞36、37ページ）
- ステレオまたはモノラル録音ソースで、7.1チャンネル再生をおこなう場合に選択します。
- 各サラウンドモードごとに効果は異なるので、ソースの内容に合わせてお好みで選択してください。

DTS NEO:6 （☞31ページ）
- デジタルシアターシステムズ社により開発されたステレオソースを、6.1または7.1チャンネルで再生するサラウンドモードです。
- MUSIC（音楽ソース）とCINEMA（映画ソース）の2通りの再生モードをお好みに合わせて選択できます。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx*1 （☞30、31ページ）
- ドルビー研究所により開発されたステレオソースを、7.1チャンネルで再生するサラウンドモードです。
- MUSIC（音楽ソース）、CINEMA（映画ソース）およびGAME（ゲームソース）の3通りの再生モードをお好みに合わせて選択できます。

 **メモ**
- ＊1印のサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカーを“ NONE ”に設定した場合は選択できません。
- ＊2印の“ ＋PLⅡx　Cinema ”モードは、サラウンドバックスピーカーを2台使用した場合のみ選択できます。





【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

再生モードを選ぶ（ピュアダイレクト/ダイレクト/ステレオ）

本機の音楽専用の2チャンネル再生モードには、3つのモードがあります。お好みに合わせて使用してください。

■ピュアダイレクトモード
最も高品位の音質を再生するモードです。
音声信号が音質回路などを通らず、さらに音声信号に影響を与える周辺の回路やディスプレイを“ OFF ”にします。

PURE DIRECT を押す。

■ダイレクトモード
高品位の音質を再生するモードです。
音声信号が音質回路などを通らず、ストレートに伝送します。

DIRECT/STEREO で“ DIRECT ”を選ぶ。

DIRECT ←――→ STEREO

※ **SURROUND PARAMETER**を押すとサブウーハー出力のON/OFFをダイレクトに設定できます。

■ステレオモード
音質調整をして、自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

DIRECT/STEREO で“ STEREO ”を選ぶ。

 **メモ**
- ピュアダイレクトモード時は、システムセットアップができません。設定を解除してから操作してください。
- ピュアダイレクトモード時のチャンネルレベルおよびサラウンドパラメーターはダイレクトモードと共通になります。

《基本操作のしかた》

ドルビーデジタル/DTSサラウンドモードを選ぶ（デジタル入力のみ）

1 **デジタル入力（COAXIAL/OPTICALなど）が設定されている入力ファンクションを選ぶ（☞45、46ページ）。**

2 **INPUT MODE で“ AUTO ”を選ぶ。**

3 **STANDARD で“ STANDARD ”を選ぶ。**

4 **DOLBY DIGITAL または dts マークが付いたプログラムソースを再生する。**

- プログラムソースによって“ DIGITAL ”または“ dts ”が点灯します。

5 **SURROUND PARAMETER を押す。**

※ <SURROUND BACK>でサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

6 **△ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。**

CINEMA EQ.：
映画の会話が耳ざわりと感じるときに使用し、高域を抑えます。

《有効なソースモード》
- ドルビープロロジックⅡx
- ドルビープロロジック
- ドルビーデジタル
- DTSサラウンド
- DTS NEO:6
- MPEG-2 AAC
- ワイドスクリーン

D.COMP.：
ダイナミックレンジを圧縮します。“ OFF ”、“ LOW ”（低）、“ MID ”（中）、“ HI ”（高）の4つのモードから選びます。

《有効なソースモード》
- ドルビーデジタル
- DTS（DTSソースでは対応するソフトのみ表示します。）

LFE：
それぞれのソフトを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
- ドルビーデジタルのソフトを再生する場合：“ 0dB ”
- DTSの映画ソフトを再生する場合：“ 0dB ”
- DTSの音楽ソフトを再生する場合：“ −10dB ”

TONE：
音質を調整します。
※ ダイレクト/ピュアダイレクトモード以外のサラウンドモードで設定できます。
※ サラウンドモードごとに設定できます。（ドルビー/DTS/AACサラウンドモードは一緒に調整されます。）

SB CH OUT：
再生モードまたはサラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【マルチチャンネルソースの場合】
- **SB OFF（OFF）：**
  再生しません。
- **NON MTRX：**
  サラウンドチャンネル信号を再生します。
- **MTRX ON：**
  サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理して再生します。
- **ES MTRX：**
  DTS信号をデジタルマトリックス処理をして再生します。
- **ES DSCRT：**
  DTS-ESディスクリート6.1チャンネルのソースに含まれている信号を再生します。
- **PLⅡx CINEMA：**
  ドルビープロロジックⅡxの“ CINEMA ”モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生します。
  ※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞53ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 2spkrs ”にしてください。
- **PLⅡx MUSIC：**
  ドルビープロロジックⅡxの“ MUSIC ”モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生します。
  ※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞53ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1spkr ”または“ 2spkrs ”にしてください。

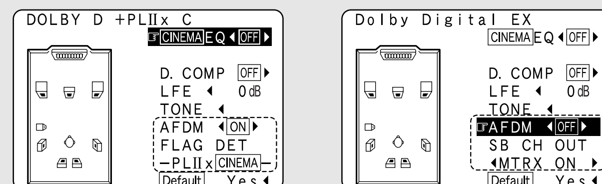
【2チャンネルソースの場合】
- **OFF：** 再生しません。
- **ON：** サラウンドチャンネル信号を再生します。

※ <SURROUND BACK>でも操作できます。

AFDM（Auto Flag Detect Mode）：
- **ON**
  ドルビーデジタルEXやDTS-ESの6.1チャンネルの認識信号を含むソフトを再生したときに、自動的に6.1チャンネル再生をおこないます。このときサラウンドモードは、再生するプログラムソースに合わせて固定します。サラウンドパラメーター画面で“ SB CH OUT ”は選択できません。
- **OFF**
  自動検出をしません。
  サラウンドモードを自由に選択できます。

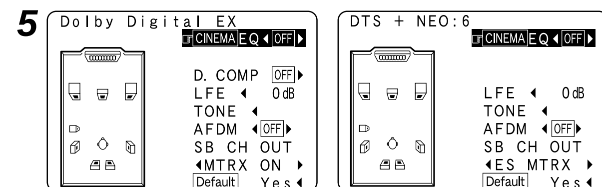
【例】ドルビーデジタル（認識信号あり）のソフトを再生した場合

① AFDMが“ ON ”の場合は、自動的に“ DOLBY DIGITAL+PLⅡx CINEMA ”モードになります。
②ドルビーデジタルEXモードで再生する場合は、AFDMを“ OFF ”に設定し、“ SB CH OUT ”で“ MTRX ON ”を選びます。



※ ドルビーデジタルEXで記録されているソフトには、EXフラグを含んでいないものがあります。再生中にAFDMが“ ON ”になっていても再生モードが自動的に切り替わらない場合は手動で“ SB CH OUT ”を“ PLⅡx Cinema ”または“ MTRX ON ”に設定してください。

5



【例】ドルビーデジタル　　【例】DTS

7 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

メモ

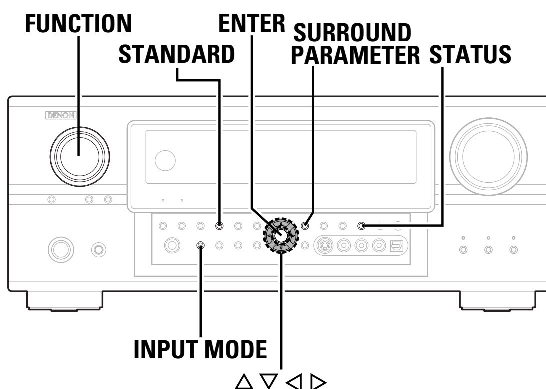
- “ Default　Yes ” を選んで ◁ を押すと、すべての設定が初期値になります。

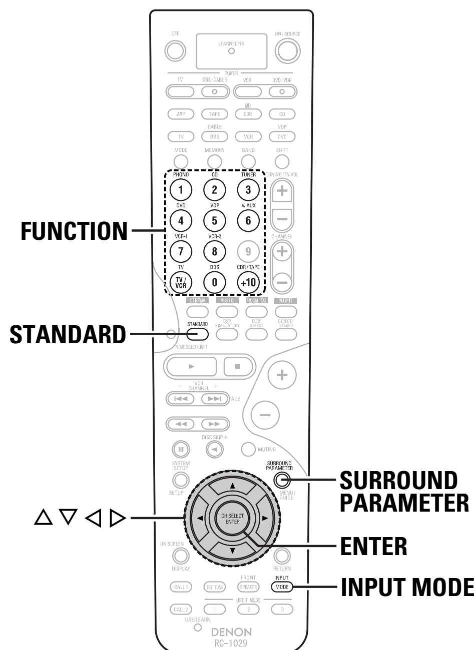
■ ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正する機能です。
補正値は、<STATUS>で確認できます。

```
Dial.Norm
Offset   -4dB
```

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。





【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

AACサラウンドモードを選ぶ（デジタル入力のみ）

1 FUNCTION でデジタル入力（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている入力ファンクションを選ぶ（☞45ページ）。

2 INPUT MODE で “ AUTO ” を選ぶ。

3 AACのプログラムソースを再生する。

- “ AAC ” が点灯します。

■ 二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

音声出力内容を設定することができます。
設定のしかたは、「バイリンガルモードの設定」（☞51ページ）をご覧ください。

メモ

- AACの2チャンネルソースが入力されているときは、プロロジックⅡxモードまたはDTS NEO:6モードになります。
- AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が “ AAC ” に設定されていることを確認してください。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ドルビープロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モードを選ぶ

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号で、サラウンド再生ができます。
ドルビーサラウンドで録音されたプログラムソースの再生に最適なモードです。

1 STANDARD で“ DOLBY PLⅡx ”を選ぶ。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER を押す。

4 ◁ ▷ で再生モードを選ぶ。

CINEMA：
ドルビーサラウンドで録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。

MUSIC：
ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場を調整する各種のオプションパラメーターがあります。

GAME：
ゲームに最適なモードです。2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

PL：
従来のドルビープロロジック再生の互換モードです。

※ MUSICモード時のみオプションパラメーターの設定ができます。“ OPTIONS ”を選び、◁ を押してください。**ENTER** を押すと、前画面に戻ります。

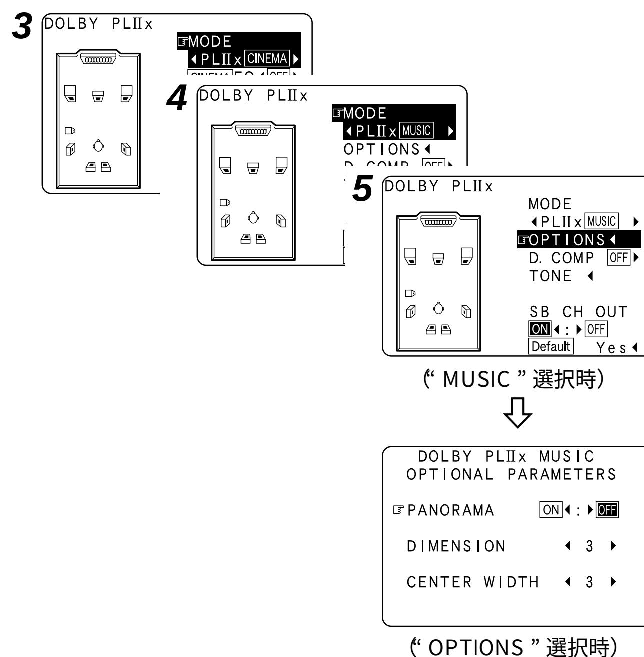
5 操作4で“ MUSIC ”を選んだ場合：△ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

PANORAMA：
サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION： 【0〜6：初期値 3】
音場イメージの中心を、フロントまたはサラウンド側にシフトします。音場イメージが偏った場合にそれらを補正します。

CENTER WIDTH： 【0〜7：初期値 3】
センター信号の出力バランスをセンターチャンネルとフロントチャンネルの間で調整することにより、自然な前方の広がりを得ることができます。

6 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。



（“ MUSIC ”選択時）
（“ OPTIONS ”選択時）

《基本操作のしかた》

DTS NEO：6モードを選ぶ

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号でサラウンド再生ができます。

1 STANDARD で“ DTS NEO：6 ”を選ぶ。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER を押す。

4 ◁ ▷ で再生モードを選ぶ。

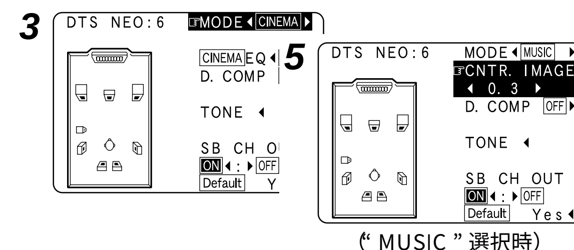
CINEMA：
映画再生に最適なモードです。2チャンネルソースを6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことができます。

MUSIC：
音楽再生に適したモードです。

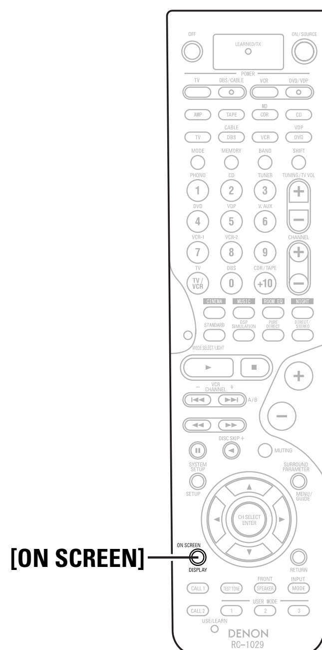
5 操作4で“ MUSIC ”を選んだ場合：△ ▽ で“ CNTR. IMAGE ”を選び、◁ ▷ で設定する。

CNTR. IMAGE： 【0.0〜1.0：初期値 0.3】
センターチャンネルの広がりを調整できます。

6 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。



（“ MUSIC ”選択時）



【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

《基本操作のしかた》

入力信号の確認のしかた

1 [ON SCREEN] を押す。

RoomEQ：	設定されているイコライザーの種類を表示します。
SIGNAL：	入力信号の種類。
fs：	入力信号のサンプリング周波数。
FORMAT：	入力信号のチャンネル数（フロント/サラウンド/LFEの有無）。ドルビーサラウンドの2チャンネル信号の場合、“ SURROUND ”を表示します。
OFFSET：	ダイアログノーマライゼーションの補正値を表示します。
FLAG：	入力信号がマトリクス処理をされている場合は“ MATRIX ”を、ディスクリート処理をされている場合は“ DISCRETE ”を表示します。

2 さらに [ON SCREEN] を押す。

OSD-1 ：入力信号
OSD-2 ：HDMIモニター情報
OSD-3 ：入出力設定
OSD-4 ：オートサラウンドモード
OSD-5〜7：ユーザーモード1〜3

1

```
Mode:Dolby Digital EX

RoomEQ:OFF
SIGNAL:DOLBY DIGITAL
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
OFFSET:-4dB
FLAG  :MATRIX
                OSD-1
```

【例】ドルビーデジタル

```
Mode:DTS ES DSCRT6.1

RoomEQ:OFF
SIGNAL:DTS
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
FLAG  :DISCRETE
                OSD-1
```

【例】DTS

メモ

- “ OSD-1 ”の“ FLAG ”は、入力信号にフラグの認識信号がない場合は表示しません。
- “ OSD-2 ”のHDMIモニター情報の解像度は、本機にHDMIモニターが接続されている場合に表示します。
- “ OSD-4 ”は入力モードを“ AUTO ”およびオートサラウンドモードを“ ON ”に設定（ 50ページ）した場合に表示します。ANALOGモードおよび外部入力（EXT. IN）モードでは表示しません。

サラウンドモードとパラメーター 一覧表

サラウンドモード	チャンネル出力					パラメーター　（　）内は初期値									Dolby Digital			PRO LOGIC Ⅱ/Ⅱx MUSIC MODEのみ			NEO:6 MUSIC MODEのみ	EXT. IN のみ
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SURROUND BACK L/R	SUB-WOOFER	D. COMP *1	LFE *2	AFDM *1	SB CH OUT	TONE CONTROL	CINEMA EQ.	MODE	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	NIGHT mode	DELAY TIME	SUB-WOOFER ON/OFF	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	×	○	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
EXT.IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	○ (ON, 10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注4)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (注1)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (注2)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (30 msec)	×	×	×	×	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×

○：信号有り
×：信号無し
◎：「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 53ページ）により、ON/OFF可能。

○：　制御可能
×：　制御不可能
注1：BASS +6 dB, TREBLE 0 dB
注2：BASS +6 dB, TREBLE +4 dB
注3：CINEMAモードのみ
注4：CINEMAまたはPLモードのみ
*1：　ドルビーデジタルおよびDTS信号再生時。
*2：　ドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオおよびスーパーオーディオCD再生時。

○：信号有り
×：信号無し

○：制御可能
×：制御不可能

《基本操作のしかた》

■ 入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	(注)	ANALOG	リニア PCM	DTS: DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS: DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS: DTS (5.1ch)	DTS: DTS 96/24	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (5.1ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (3,4,5ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC: AAC (5.1ch)	AAC: AAC (2ch)	AAC: AAC (1+1ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (multi ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (2ch)	DVD-AUDIO: 176.4/192kHz
STANDARD																		
DTS SURROUND																		
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx CINEMA	*2	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx MUSIC	*1	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + NEO:6	*1	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY SURROUND																		
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	● ◎	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
AAC																		
AAC + Dolby EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
MPEG2 _AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	●	×	×	×
MULTI CH IN																		
MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×

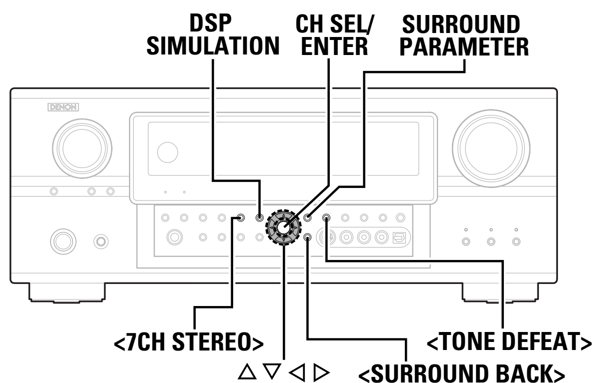
● ： 初期状態で選ばれるモード
◎ ： AFDMが " ON " のときに固定されるモード
○ ： 選択可能なモード
× ： 選択不可能なモード

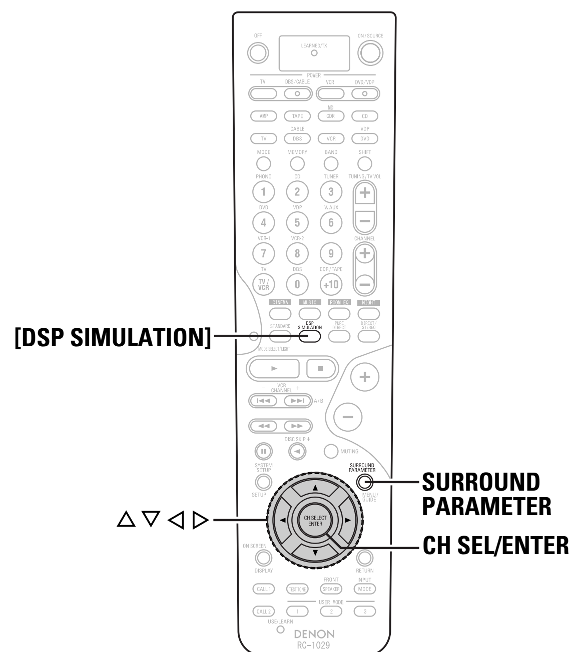
（注） *1：サラウンドバックスピーカーを「None」に設定している場合は、選択できません。
*2：サラウンドバックスピーカーを「1spkr」または「None」に設定している場合は、選択できません。

ボタン / サラウンドモード	(注)	ANALOG	リニア PCM	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1ch)	DOLBY DIGITAL (3,4,5ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/ 192kHz
		入力信号		DTS				DOLBY DIGITAL					AAC			DVD-AUDIO		
DIRECT																		
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
PURE DIRECT																		
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M PURE D + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
M PURE D + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
DSP SIMULATION																		
7CH STEREO	*3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
STEREO																		
STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●

● : 初期状態で選ばれるモード
○ : 選択可能なモード
× : 選択不可能なモード

(注) *1：サラウンドバックスピーカーを「None」に設定している場合は、選択できません。
*2：サラウンドバックスピーカーを「1spkr」または「None」に設定している場合は、選択できません。
*3：サラウンドバックスピーカーを「None」に設定している場合は、” 5CH STEREO ” を表示します。





【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

《基本操作のしかた》

DENONオリジナルサラウンドの使いかた

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。再生するプログラムソースに合わせて10通りのサラウンドモードの中から選び、さらにパラメーターを調節することで、よりリアルな音場を再現できます。

サラウンドモードの種類と特長

7CH STEREO（注1）	7つのスピーカーでステレオサウンドを楽しめます。フロントL（R）チャンネル信号がサラウンドおよびサラウンドバックのL（R）チャンネルから、センターチャンネルにはLとRのチャンネルの同相の成分のみをそれぞれ再生します。
WIDE SCREEN	大きなスクリーンの映画館で映画を見ているような雰囲気を楽しめます。このモードでは、すべてのソースを7.1チャンネルで再生します。
SUPER STADIUM	スタジアムで野球やサッカーなどのスポーツを観戦しているような雰囲気を楽しめます。
ROCK ARENA	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しめます。
JAZZ CLUB	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスで、アーティストがすぐそばで演奏するような雰囲気を楽しめます。
CLASSIC CONCERT	豊かな響きがあるコンサートホールの雰囲気を楽しめます。
MONO MOVIE（注2）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
VIDEO GAME	ビデオゲームを楽しめます。
MATRIX	ステレオ録音の音楽ソースを、広がり感を強調して楽しめます。
VIRTUAL	フロントスピーカーのみ、またはヘッドホンを使用してサラウンド再生を楽しめます。

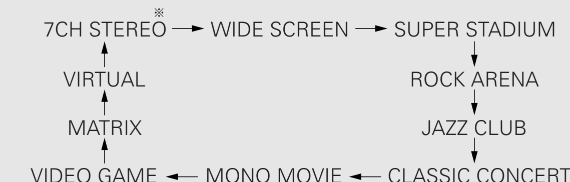
注1：“ SB CH OUT ” が “ OFF ” のときは、“ 5CH STEREO ” を表示します。
注2：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

 **メモ**

- 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
  この場合にはサラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

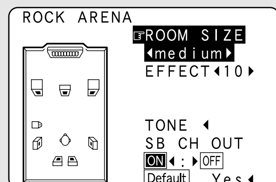
DSPサラウンドシミュレーションモードを選ぶ

1 ［DSP SIMULATION］ を押す。



※ 7CH STEREOモードは、<7CH STEREO>を押しても選ぶことができます。

2 SURROUND PARAMETER を押す。



3 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

EFFECT： 【WIDE SCREENモードのみ】
マルチサラウンドスピーカー効果を持つエフェクト信号を再生します。“ OFF ” にするとSBL/SBRチャンネルからはそれぞれSL/SRチャンネルが再生されます。

LEVEL： 【WIDE SCREENモードのみ】
“ 1 ” ～ “ 15 ” の範囲内でエフェクト信号の大きさを調整します。

SB CH OUT：
- **OFF**： サラウンドバックチャンネルを再生しません。
- **ON**： サラウンドバックチャンネルを再生します。

※ <SURROUND BACK>でも操作できます。

ROOM SIZE：
再現する音場空間の大きさのイメージを調整します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ”、“ large ” の5つのパラメーターがあります。
※ 再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

EFFECT LEVEL：
サラウンド効果の大きさを調整します。

DELAY TIME： 【MATRIXモードのみ】
“ 0ms ” ～ “ 300ms ” の範囲内で調整します。

4 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。



メモ

- Default Yes ” を選んで ◁ を押すと、すべての設定は初期値になります。

音質を調節する

低音および高音をお好みに合わせて調節します。

■ 音質を調節する場合

1 SURROUND PARAMETER を押す。

2 △ ▽ で “ TONE ” を選び、◁ を押す。

※ ダイレクトモードの場合、“ TONE ” は選択できません。

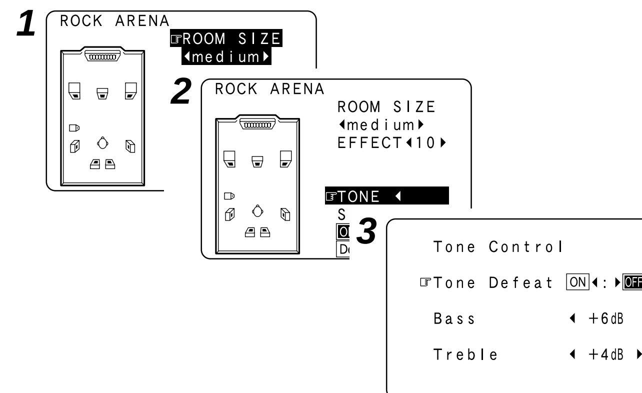
3 ▷ で “ OFF ” を選ぶ。

4 △ ▽ で “ Base ” または “ Treble ” を選び、◁ ▷ でレベルを設定する。

※ −6dB～＋6dBの範囲内で調節できます。

5 ENTER を押す。

6 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

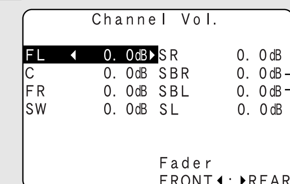


■ 音質を調節しない場合

<TONE DEFEAT>を押すか、「音質を調節する場合」の操作3で “ Tone Defeat ” を “ ON ” にする。

スピーカーの音量を調節する

1 CH SEL/ENTER を押す。



サラウンドバックスピーカーを “ 1spkr ” に設定した場合は “ SB ” になります。また、“ None ” に設定した場合は表示されません。

2 △ ▽ または CH SEL/ENTER で、スピーカーを選ぶ。

※ 押すたびに設定できるスピーカーが切り替わります。

3 ◁ ▷ で音量を調節する。

※ −12dB～＋12dBの範囲内で調節できます。

フェーダー機能を使う

本機能は、フロント側とリア側のそれぞれの音量をまとめて調節（減衰）します。

1 **CH SEL/ENTER を押す。**

2 **△▽ または CH SEL/ENTER で“ FADER ”を選ぶ。**

3 **フロント側の音量をまとめて減衰したい場合は ◁、リア側を減衰したい場合は ▷ を押す。**

※ サブウーハーは、フェーダー機能が働きません。
※ 一番小さいスピーカーの音量が、−12dBになるまで調節できます。

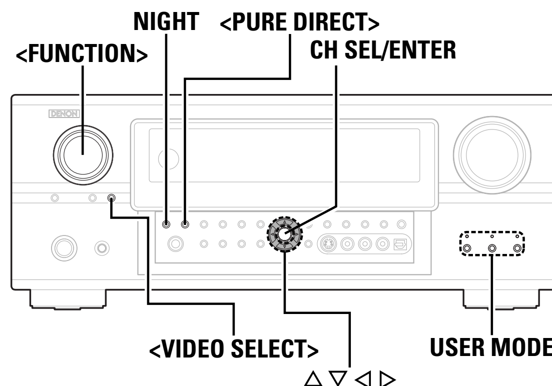
2

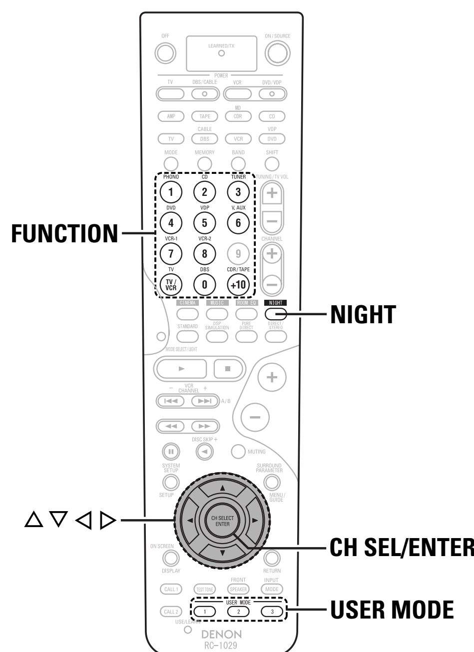
```
Channel Vol.
FL   0.0dB SR
C    0.0dB SBR
FR   0.0dB SBL
SW   0.0dB SL
Fader
FRONT◀:
```

3

```
Channel Vol.
FL  −0.5dB SR   0.0dB
C   −0.5dB SBR  0.0dB
FR  −0.5dB SBL  0.0dB
SW   0.0dB SL   0.0dB
Fader
FRONT◀:▶REAR
```

応用操作のしかた





【操作説明のボタン名について】
<　　>：本体のボタン
[　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

ナイトモードの使いかた

ドルビーデジタルソースの再生中に、ナイトモードが設定できます。夜または低い音量で聴くときに、セリフなどが聴きやすくなります。

NIGHT を押す。
●“ NIGHT ” モード表示が点灯します。

メモ
● 解除するときは、もう一度 **NIGHT** を押してください。
● ナイトモードが “ ON ” のとき、サラウンドパラメーターの “ D.COMP ” は選べません。

ユーザーモード機能について

本機は、入力ファンクション、入力モードおよびサラウンドモードの設定状態を3パターンまで記憶して、使用したいときにいつでも呼び出すことができます。

■ 記憶のしかた

1 **「入力ファンクション」、「入力モード」および「サラウンドモード」を記憶させたい状態に設定する。**

2 **USER MODE を長押しする。**

※ 選んだユーザーモード表示が点灯するまで押し続けてください。

■ 呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている USER MODE を押す。
● 選んだユーザーモード表示が点灯します。

今聴いている音に好きな映像を組み合わせる（ビデオセレクト機能）

<VIDEO SELECT>を押してから、好きな映像が出るまで<FUNCTION>を回す。



メモ

- 解除する場合は、**<VIDEO SELECT>**を押して**<FUNCTION>**を回して“ SOURCE ”を選んでください。
- ビデオセレクト機能で選択されたビデオ系入力は、各入力機器ごとに記憶します。
- HDMIの入力信号は、選べません。
- HDMIビデオ入力の再生中、HDMIモニター出力に他のファンクションのアナログビデオ信号は選択できません。

パーソナルメモリープラス機能について

最後に選ばれたサラウンドモードや入力モードの設定を入力機器ごとに記憶します。

※ サラウンドパラメーター、音質調節、ルームイコライザーの設定および各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

iPod®の再生のしかた

DENON製Dock（ASD-1R）を使用することにより、iPodの音楽を再生することができます。また、本体およびリモコンのボタンからも操作することができます。
専用iPod Dockについては、お買い上げの販売店または当社のお客様相談窓口にお問い合わせください。



iPodは米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

※ iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

1 本機とiPodをDENON製Dock（ASD-1R）を使って接続する（☞ 25ページ）。

2 「iPodの入力の設定」（☞ 45ページ）で入力端子を割り当てる。

3 FUNCTION で操作2で割り当てたファンクションを選ぶ。

- 本機のディスプレイに“ Remote iPod ”を表示します。

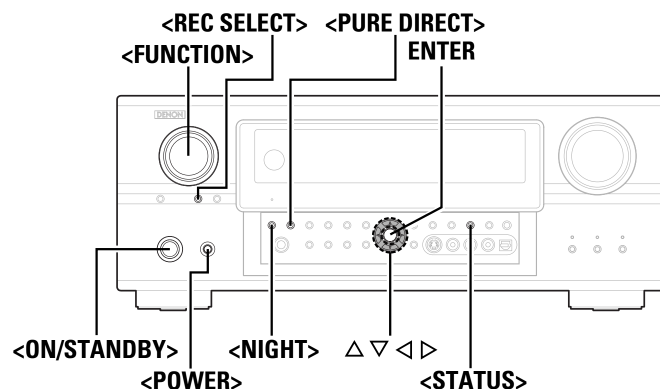
```
Remote iPod
```

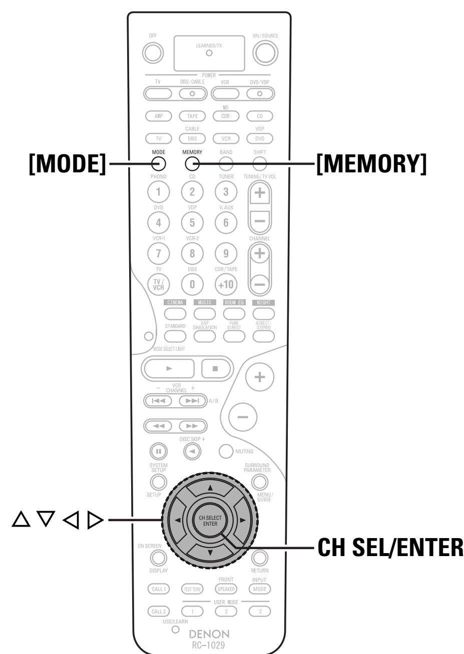
※ 上記が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。接続と設定を確認してください。

4 iPodの画面を見ながら △ ▽ ◁ ▷ と ENTER で操作する。

ご注意

- 本機とiPodの接続には、DENON製Dock（ASD-1R）をご使用ください。
- iPodを本機と接続して使用しているときに、iPodのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。



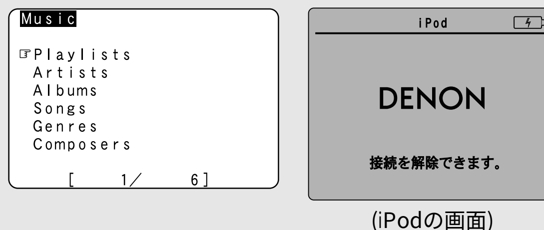


【操作説明のボタン名について】

＜　　＞：	本体のボタン
［　　］：	リモコンのボタン
ボタン名のみ：	本体とリモコンのボタン

Browseモードで音楽を聴く

1 **［MODE］を2秒以上押し、“ Remote ” モードから“ Browse ” モードに切り替える。**



(iPodの画面)

2 **△▽でメニューを選び、ENTER または ▷ を押し、再生したい音楽ファイルを選ぶ。**
- ◁ を押すと、ミュージックメニュー画面に戻ります。

3 **ENTER または ▷ を押す。**
- 再生が始まります。

一時停止：
再生中に **ENTER** を押す。
もう一度押すと再開します。

マニュアルサーチ：
再生中に △▽ を押し続ける。
- △： 早戻し
- ▽： 早送り

トラックサーチ：
再生中に △▽ を押す。
- △： 前の曲の頭出し
- ▽： 次の曲の頭出し

停止：
再生中に **ENTER** を2秒以上押す。

リピート再生：
［MODE］を押す。
［MODE］を押すたびに下記のように切り替わります。
- **RPT One** ： 1曲リピート
- **RPT All** ： 全曲リピート

シャッフル再生：
［MEMORY］を押す。
［MEMORY］を押すたびに下記のように切り替わります。
- **SFL Songs** ： 曲ごとのシャッフル
- **SFL Albums** ： アルバムごとのシャッフル

メモ

- 再生中に**<STATUS>**を押すたびに、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えることができます。
- iPodのソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作できない場合があります。最新バージョンのソフトウェアを使用してください。なお、最新バージョンのソフトウェアについての情報は、アップルコンピュータ株式会社のウェブサイトをご覧ください。
- iPodを再生中にオンスクリーンディスプレイを表示させたくない場合は、「オンスクリーンディスプレイ（OSD）の設定」（☞ 48ページ）で “ Function/Mode Status ” を “ OFF ” にしてください。
- 本機はフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。半角の英数文字を64文字まで表示できます。対応していない文字は “ .（ピリオド）” に置き換えて表示します。

静止画像やビデオを見る（スライドショー/ビデオ機能があるiPodのみ）

iPodの写真データやビデオをテレビで見ることができます。

1 **［MODE］を2秒以上押し、“ Browse ” モードから“ Remote ” モードに切り替える。**
- 本機のディスプレイに “ Remote iPod ” を表示します。

2 **iPodの画面を見ながら △▽ を押して “ Photos ” または “ Video ” を選び、表示したいデータのスライドショーが再生するまで、ENTER または ▷ を押す。**
- iPodの写真データやビデオをテレビに映し出します。

メモ

- iPodの写真データやビデオをテレビに映すにはiPodの “ ビデオ設定 ” の “ テレビ出力 ” を “ オン ” に設定する必要があります。詳しくはiPodの取扱説明書をご覧ください。

iPodのはずしかた

<ON/STANDBY> で本機の電源をスタンバイ状態にする。

※ iPod入力を割り当てていないファンクションに切り替えてから、iPodを外すこともできます。

録音または録画のしかた（REC OUTモード）

1 ＜REC SELECT> を押しディスプレイに " RECOUT SOURCE " を表示させる。

2 FUNCTION で録音または録画するファンクションを選ぶ。

- " REC " が点灯します。

3 録音または録画状態にする。

※ 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 解除する場合は、**<REC SELECT>**を押し、ディスプレイに " RECOUT SOURCE " が表示されるまで**<FUNCTION>**を回してください。

ご注意

デジタル信号は、オーディオ/ビデオ出力（VCR-1、VCR-2、CDR/TAPE / VCR-1、VCR-2）端子からは出力しません。

メモリー機能について

■ ラストファンクションメモリー

本機は、スタンバイにする直前の各種設定状態を記憶します。再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定状態になります。

■ バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いた場合でも、各種設定状態を約1週間保持します。

マイコンを初期化する

ディスプレイ表示が正常でない場合や、本体またはリモコンの操作ができない場合は、下記の操作でマイコンを初期化してください。

1 <POWER>で電源を切る。

2 <PURE DIRECT>と<NIGHT>を同時に押しながら、<POWER>を押す。

3 ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認したら、2つのボタンから指を離す。

- マイコンを初期化します。



メモ

- 操作3の状態にならない場合は、もう一度操作1からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて初期設定に戻ります。

より詳細なセットアップのしかた１

システムセットアップの内容と初期設定について

1. オートセットアップおよびルームイコライザーの設定

```
1. Auto Setup/Room EQ

☞1. Auto Setup
 2. Room EQ Setup
 3. Direct Mode Setup
 4. Mic Input Select
 5. Parameter Check


 Exit
```

内　容			初期設定	参照ページ
1	**Auto Setup**	スピーカーおよび部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動で設定します。	—	13〜16
2	**Room EQ Setup**	ルームイコライザーを各サラウンドモードごとに設定するか、一括設定するかを選びます。	All, Room EQ=OFF	56
3	**Direct Mode Setup**	サラウンドモードがダイレクトまたはピュアダイレクトモードの場合にルームイコライザーを使用するかどうかを設定します。	OFF	57
4	**Mic Input Select**	オートセットアップに使用するマイク入力端子を選びます。	Mic	57

2. スピーカーの設定

```
2. Speaker Setup

☞1. Speaker Config.
 2. Subwoofer Setup
 3. Distance
 4. Channel Level
 5. Crossover Frequency


 Exit
```

内　容			初期設定								参照ページ
1	**Speaker Config.**	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を設定します。	Front Sp.	Center Sp.	Subwoofer	Surround Sp.	Surround Back Sp.				53
			Large	Small	Yes	Small	Small / 2sp				
2	**Subwoofer Setup**	重低音域信号を再生するサブウーハーの再生方法を選びます。	LFE								54
3	**Distance**	リスニングポジションの距離に応じて各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	Front L & R	Center	Subwoofer	Surround L & R	Surround Back				54
			3.6 m (12 ft)	3.6 m (12 ft)	3.6 m (12 ft)	3.0 m (10 ft)	3.0 m (10 ft)				
4	**Channel Level**	各スピーカーからのテストトーンの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量を設定します。	Front L	Front R	Center	Surround L	Surround R	Surround Back L	Surround Back R	Subwoofer	55
			0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	
5	**Crossover Frequency**	各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。	80 Hz								55、56

3. 音声入力に関する設定

```
3. Audio Input Setup

☞1. Digital In Assign
 2. EXT. IN Subwoofer Level
 3. iPod Assign
 4. Input Function Lev.
 5. Function Rename


 Exit
```

内　容				初期設定											参照ページ
1	**Digital In Assign**	各入力ファンクションに対して、デジタル入力端子を割り当てます。	**入力ファンクション**	CD	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	CDR / TAPE	V.AUX	TUNER		45
			デジタル入力	COAX 1	COAX 2	OPT 1	OFF	OPT 2	OPT 3	OFF	OPT 4	OPT 5	OFF		
2	**EXT. IN Subwoofer Level**	外部入力（EXT. IN）のサブーハー（SW）端子に接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。		SW Level = +15 dB											45
3	**iPod Assign**	DENON製Dockからのオーディオおよびビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生できます。		iPod Function = OFF											45
4	**Input Function Lev.**	入力機器間で異なる再生レベルを個別に補正します。		TUNER	PHONO	CD	CDR / TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	45
				0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	
5	**Function Rename**	表示される入力ファンクション名を変更できます。		TUNER	PHONO	CD	CDR / TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	46

《より詳細なセットアップのしかた１》

4. 映像に関する設定

```
4. Video Setup

☞1. HDMI In Assign
 2. Component In Assign
 3. Video Convert
 4. HDMI Out Setup
 5. Audio Delay
 6. On Screen Display

 Exit
```

		内 容		初期設定							参照ページ
1	**HDMI In Assign**	各入力ファンクションに対して、HDMI入力端子を割り当てます。また、HDMIの音声信号の再生方法を選びます。		DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	46
				NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	
2	**Component In Assign**	各入力ファンクションに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。	**入力ファンクション**	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	47
			ビデオ入力	1-D / RCA	NONE	2-RCA	3-D / RCA	NONE	NONE	NONE	
3	**Video Convert**	ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。		ON							47
4	**HDMI Out Setup**	アナログビデオ信号からHDMIへアップコンバートするかどうかを設定します。また、この機能を使う場合は、HDMI端子から出力する信号の形式を設定できます。		Convert = ON, i/p Convert = ON, Color Space = Y Cb Cr, RGB Mode = Normal							47、48
5	**Audio Delay**	映像信号と音声信号の時間差を調整します。		0 ms							48
6	**On Screen Display**	メニュー画面以外でオンスクリーンディスプレイを表示させるかどうかを設定します。		Function/Mode = ON, Master Volume = ON, Mode = Mode 1							48

5. 音声再生に関する設定

```
5. Advanced Playback

☞1. 2ch Direct/Stereo
 2. Dolby Digital Setup
 3. Auto Surround Mode
 4. Manual EQ Setup
 5. Bilingual Mode

 Exit
```

		内 容	初期設定	参照ページ
1	**2ch Direct / Stereo**	2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードのみスピーカーの設定を変更する場合に設定します。	Basic	49
2	**Dolby Digital Setup**	ドルビーデジタル信号をダウンミックスするときのコンプレッションのON/OFFを設定します。	OFF	49
3	**Auto Surround Mode**	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	ON	50
4	**Manual EQ Setup**	再生信号を聴きながら各スピーカーの音色を合わせます。	0 dB	50
5	**Bilingual Mode**	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN	51

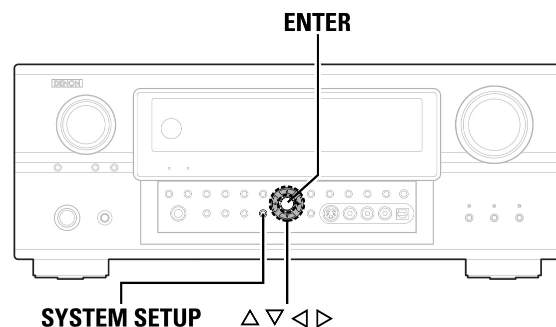
6. その他の設定

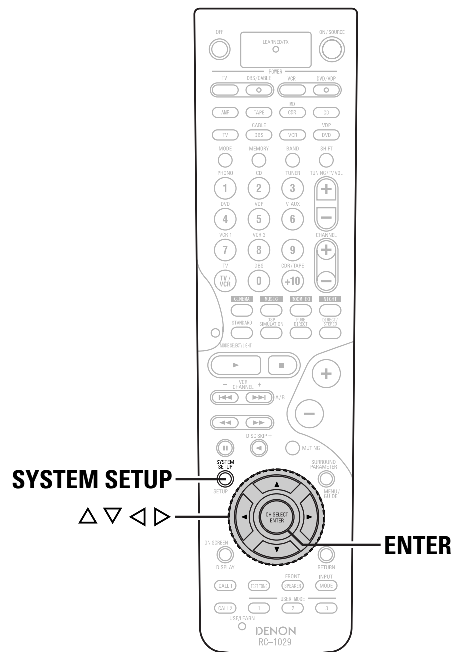
```
6. Option Setup

☞1. Power Amp Assign
 2. Volume Control
 3. Trigger Out
 4. Setup Lock

 Exit
```

		内 容		初期設定											参照ページ
1	**Power Amp Assign**	サラウンドバックのパワーアンプをフロントチャンネル（“ Front A ” または “ Front B）のバイアンプ再生用に割り当てて使用できます。		S. Back											51
2	**Volume Control**	音量レベルを設定します。		Vol.Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Lev. = FULL											52
3	**Trigger Out**	本機の2つのトリガーアウトジャックの直流12V出力を、各入力ファンクションおよび各サラウンドモードに対して連動させて使用します。	**Trigger Out 1**	TUNER	PHONO	CD	CDR / TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	52
				OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	
				DIRECT/ STEREO	DOLBY / DTS CINEMA	DOLBY/ DTS MUSIC	DOLBY GAME	WIDE SCREEN	7CH STEREO	DSP SIMULATION	MULTI CH MODE				
				ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON				
			Trigger Out 2	TUNER	PHONO	CD	CDR / TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	
				ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	
				DIRECT/ STEREO	DOLBY / DTS CINEMA	DOLBY/ DTS MUSIC	DOLBY GAME	WIDE SCREEN	7CH STEREO	DSP SIMULATION	MULTI CH MODE				
				ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON				
4	**Setup Lock**	システムセットアップの設定を変更できないように、ロックするかどうかを設定します。		Setup Lock = OFF											52





【操作説明のボタン名について】

<　　>：	本体のボタン
[　　]：	リモコンのボタン
ボタン名のみ：	本体とリモコンのボタン

システムセットアップメニューの進めかた

1 **SYSTEM SETUP を押す。**
● " System Setup Menu " を表示します。

2 **△▽で設定したい項目を選び、ENTER を押す。**

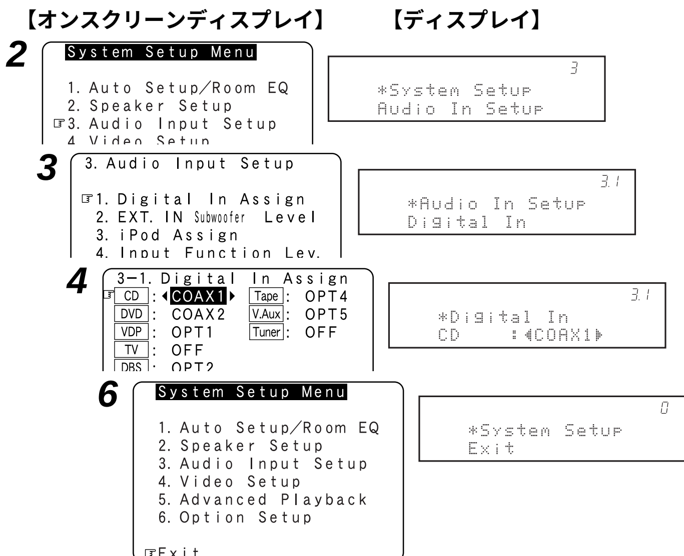
3 **さらに△▽で設定したい項目を選び、ENTER を押す。**

4 **設定を変更するとき：**
△▽で変更したい項目を選び、◁▷で設定を変更する。

※" Default Yes " を選び、◁ボタンを押すと、初期設定に戻ります。

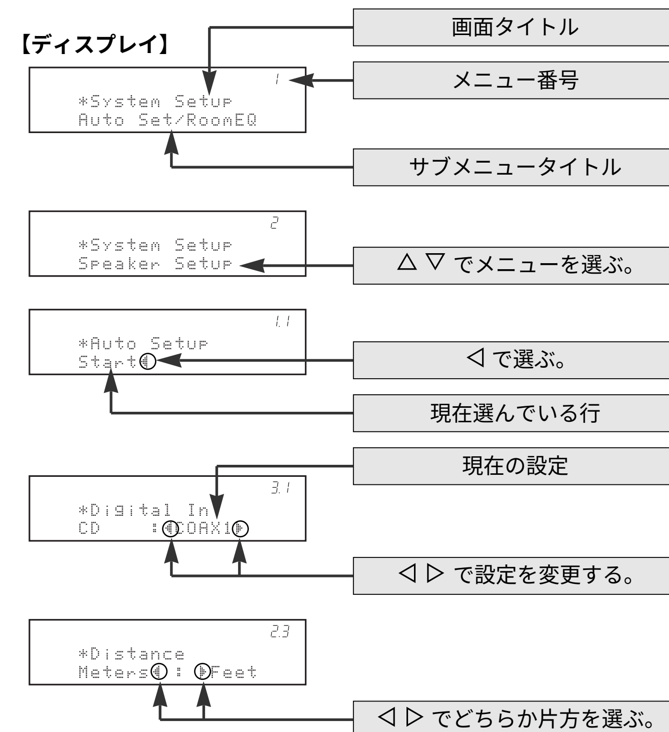
5 **ENTER で新しい項目を設定する。**

6 **SYSTEM SETUP で " System Setup Menu " またはメイン画面に戻る。**



ディスプレイ表示について

本機には、分かりやすいオンスクリーンディスプレイ機能の他に設定内容を確認できるディスプレイを装備しています。各種設定や操作のときにお使いください。
いくつかの代表的なディスプレイの表示例を下記に示します。



音声入力に関する設定

デジタル入力の設定

各入力機器に対して、デジタル入力端子を割り当てます。

1 △▽で“ Audio Input Setup ”を選び、ENTER を押す。

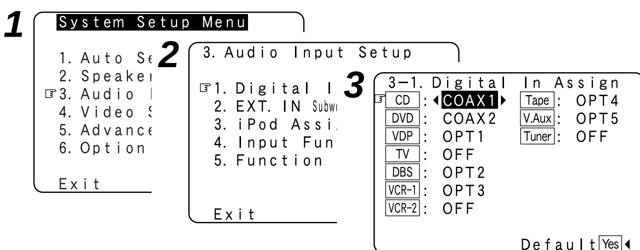
2 △ ▽で“ Digital In Assign ”を選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

COAX1, COAX2, OPT1, OPT2, OPT3, OPT4, OPT5：
本機の入力端子に接続された機器に合わせて各端子の割り当てをおこないます。

※ 「HDMI入力の設定」（☞ 46ページ）で、HDMI入力を入力ファンクションに割り当てた場合は、HDMI入力端子を表示します。

4 ENTER を押す。



 **メモ**

- “ PHONO ”は選択できません。
- “ iPod Assign ”で割り当てているファンクションには、デジタル入力の設定ができません。

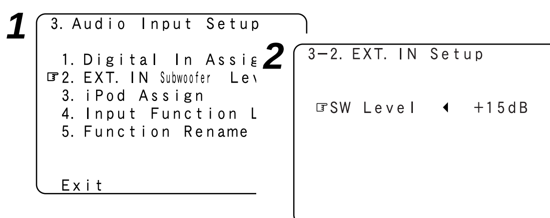
外部入力サブウーハーレベルの設定

外部入力（EXT. IN）のサブウーハー（SW）端子に接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。

1 △ ▽ で“ EXT. IN Subwoofer Level ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

3 ENTER を押す。



iPodの入力の設定

DENON製Dockからのオーディオおよびビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生できます。

1 △ ▽ で“ iPod Assign ”を選び、ENTER を押す。

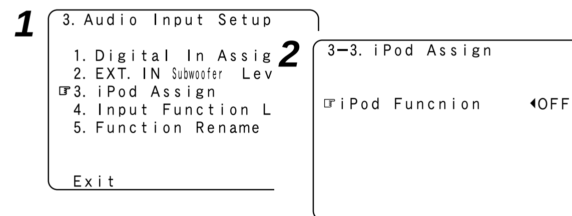
2 ◁ ▷ で設定する。

OFF：
工場出荷時はこの状態に設定してあります。

CD, CDR/TAPE, TUNER：
割り当てたファンクションの音声入力端子と接続できます。

DVD, VDP, DBS, TV, VCR-1, VCR-2, V.Aux：
割り当てたファンクションの音声入力端子および映像入力端子と接続できます。

3 ENTER を押す。







（“ VDP ”選択時）

入力機器間の再生レベルの補正

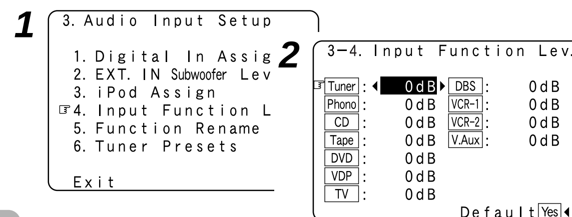
入力機器間で異なる再生レベルを個別に補正します。

1 △ ▽ で“ Input Function Lev. ”を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

※ 音量は、－12dB～＋12dBの範囲内で設定できます。

3 ENTER を押す。



 **メモ**

- 設定後、各入力機器間の再生レベルが同じになっているかを確認してください。

入力ファンクション名の変更

入力ファンクション名を変更できます。

1 △ ▽ で " Function Rename " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

3 ◁ ▷ で変更したい位置にカーソル（■）を合わせ、△ ▽ で文字を選ぶ。

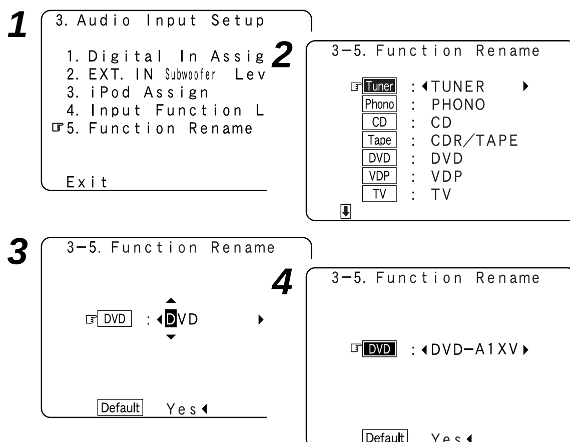
※ 最大8文字まで入力できます。
入力できる文字は下記の通りです。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # % & ' ( ) ＊ + , – . / : ; < = > ? @ [\ ] (スペース)

4 操作3を繰り返して入力ファンクション名を入力する。

※ 入力ファンクション名を戻したい場合は、
① ◁ ▷ で入力ファンクション名を反転表示させ▽ を押す。
② " Default Yes " を選び、◁ を押す。

5 入力が終わったら ENTER を押す。



映像に関する設定

HDMI入力の設定

各入力ファンクションに対して、HDMI入力端子を割り当てます。また、HDMIの音声信号の再生方法を選びます。

1 △ ▽ で " Video Setup " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で " HDMI In Assign " を選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

HDMI1, HDMI2：
入力ファンクションに " HDMI1 " または " HDMI2 " 入力端子を割り当てます。

4 △ ▽ で " Audio " を選び、◁ ▷ で音声信号の出力先を選ぶ。

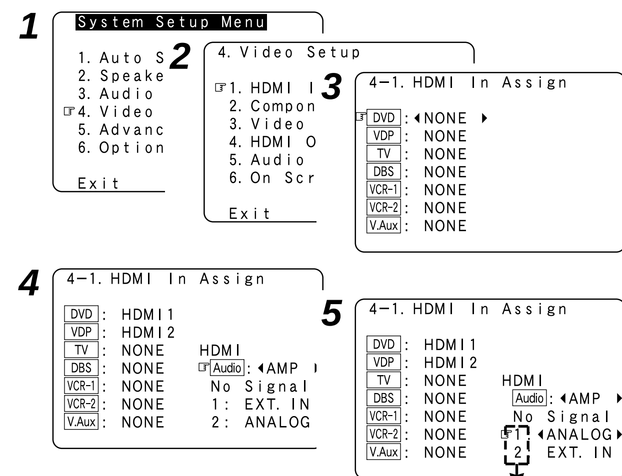
AMP：本機に接続されたスピーカーで再生します。

TV： 本機に接続されたテレビで再生します。

5 HDMI入力信号に音声信号が含まれていないとき：
△ ▽ で入力端子を選び、◁ ▷ で設定する。

EXT. IN, ANALOG：
HDMI接続で音声を再生できないソースの場合は、設定された端子に自動的に切り替えて再生します。

6 ENTER を押す。



※ HDMI1、HDMI2に対応しています。

メモ

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続しても、テレビがHDMI音声の再生に対応していない場合は、本機からは映像信号だけをテレビに対して出力します。
- アナログ端子、デジタル端子および外部入力端子から入力された音声信号はテレビに出力されません。
- HDMIでは、映像と音声信号が同時に転送されます。HDMIを入力ファンクションに割り当てると、映像とともにデジタル音声入力を割り当ててもHDMIに切り替わります。COAXIALまたはOPTICALのデジタル音声入力をあらかじめ割り当てた入力ファンクションに対して本設定をおこなった場合は、デジタル音声の割り当てが " HDMI " になります。この場合は、「デジタル入力の設定」（ ☞45ページ）で、ご使用になるデジタル入力を再度割り当ててください。
- " iPod Assign " で割り当てているファンクションには、HDMI入力の設定ができません。

コンポーネントビデオ入力の設定

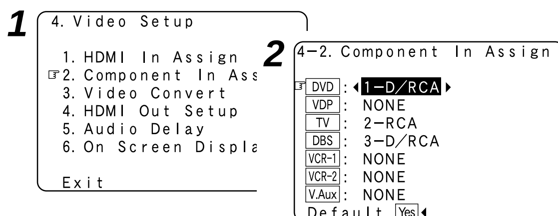
各入力ファンクションに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。

1 △▽で“Component In Assign”を選び、ENTERを押す。

2 △▽で入力ファンクションを選び、◁▷で設定する。

1-D/RCA, 2-RCA, 3-D/RCA：
入力ファンクションに“1-D/RCA”、“2-RCA”または“3-D/RCA”を割り当てます。

3 ENTERを押す。



メモ

- コンポーネントビデオ入力端子に入力される信号は、コンポーネントビデオモニター出力端子の1および2より同時に出力します。
- “iPod Assign”で割り当てているファンクションには、コンポーネントビデオ入力の設定ができません。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子1、3および出力端子1を接続する際、コンポーネントビデオ（ピンジャック）端子とD5端子を同時に使用できません。

ビデオコンバートの設定

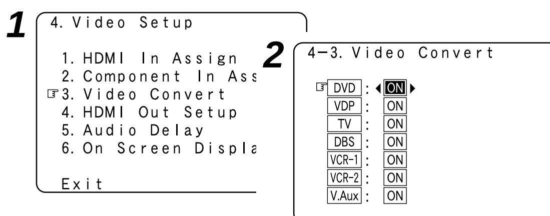
ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。

1 △▽で“Video Convert”を選び、ENTERを押す。

2 △▽で入力ファンクションを選び、◁▷で設定する。

ON, OFF： ビデオコンバージョン機能を使用するときは“ON”、使用しないときは“OFF”を選びます。

3 ENTERを押す。



メモ

- 入力されたコンポーネントビデオ信号の解像度が480i/576i以外のときは、コンポーネントビデオ信号からSビデオおよびビデオ信号へのダウンコンバートはできません。コンポーネントビデオモニター出力端子を使用しない場合は、Sビデオまたはビデオ入力端子で再生機器と接続してください（☞18、19ページ）。
- ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このようなときは、コンバートモードを“OFF”にしてください。
- ビデオコンバージョン機能を使用した場合、映像信号に付加される文字放送などの情報が出力されない場合があります。このようなときは、コンバートモードを“OFF”にしてください。

《より詳細なセットアップのしかた１》

HDMIコンバート出力の設定

アナログビデオ信号からHDMIへアップコンバートするかどうかを設定します。また、この機能を使う場合は、HDMI端子から出力する信号の形式を設定できます。

1 △▽で“HDMI Out Setup”を選び、ENTERを押す。

2 △▽で項目を選び、◁▷で設定する。

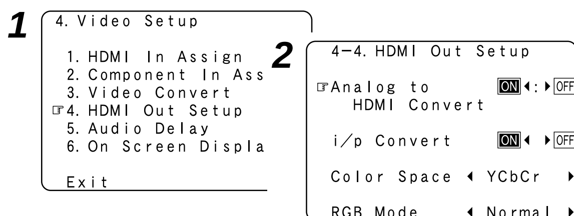
Analog to HDMI Convert：
- **ON：**
  入力されているアナログビデオ信号をHDMIにアップコンバートします。
- **OFF：**
  アップコンバートをおこないません。

i/p Convert：
- **ON：**
  入力されているビデオ信号がコンポジット、Sビデオまたは480i/576iのコンポーネントビデオ信号である場合に、480p/576pに変換してHDMIモニター出力端子に出力します。
- **OFF：**
  入力されているビデオ信号の解像度のまま、HDMIモニター出力端子に出力します。

Color Space：
- **Y Cb Cr：**
  色差形式の映像信号で、HDMIモニター出力端子に出力します。
- **RGB：**
  RGB形式の映像信号で、HDMIモニター出力端子に出力します。

RGB Mode Setup：
- **Normal：**
  HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を16（黒）〜235（白）で出力します。
- **Enhanced：**
  HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を0（黒）〜255（白）で出力します。
  HDMI接続時に、ご使用のテレビによっては、黒色が浮くような場合があります。このような場合は、本モードを使用してください。

3 **ENTER を押す。**



メモ

- “ Color Space ” が “ Y Cb Cr ” 設定のとき、“ RGB Mode Setup ” は効果がありません。
- “ i/p　Convert ” を “ OFF ” に設定した場合は、ビデオ、Sビデオおよびコンポーネントからの入力信号と同じ解像度で出力します。オンスクリーンディスプレイは、480iの解像度で出力しますので、480iの解像度に対応しているテレビを使用してください。
- “ i/p　Convert ”、“ Color　Space ” および “ RGB　Mode Setup ” は、“ Analog to HDMI Convert ” で “ ON ” を選んだ場合に設定できます。
- HDMI/DVI-D変換ケーブルを使用してDVI-D端子付きモニター（HDCP対応）と接続する場合は、RGB形式で出力します。
- HDMI出力でシステムセットアップのオンスクリーンディスプレイをご覧になる場合は、“ Analog to HDMI Convert ” を “ ON ” にしてください。

オーディオディレイの調整

映像信号と音声信号の時間差を調整します。

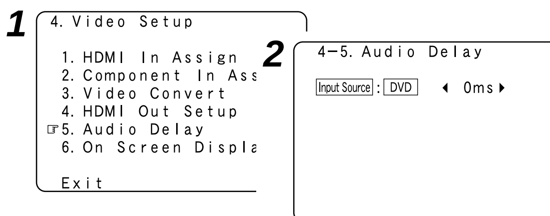
1 **△ ▽ で “ Audio Delay ” を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

0ms〜200ms：時間差を調整します。

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

3 **ENTER ボタンを押す。**



メモ

- 初期状態でデジタル入力がない場合は、表示しません。
- コンポーネントビデオ信号に対して本設定をおこなう場合は、時間差を設定してオンスクリーンディスプレイをオフした後、コンポーネント映像と音声のタイミングが合っているかを確認してください。
- 外部入力モード時およびアナログ入力時のダイレクトモードとステレオモード（Front Sp. = Large、TONE DEFEAT = ON、Room EQ = OFF設定時）の再生中、オーディオディレイは効きません。

オンスクリーンディスプレイの設定

メニュー画面以外でオンスクリーンディスプレイを表示させるかどうかを設定します。

1 **△ ▽ で “ On Screen Display ” を選び、ENTER を押す。**

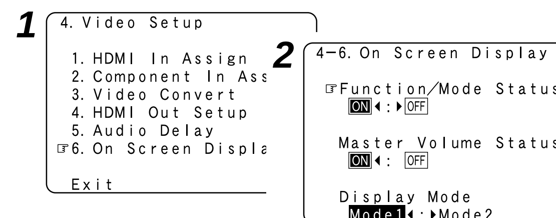
2 **△ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。**

Function/Mode Status：
- **ON, OFF：**
  オンスクリーンディスプレイを表示させるときは “ ON ”、表示させないときは “ OFF ” を選びます。

Master Volume Status：
- **ON, OFF：**
  オンスクリーンディスプレイを表示させるときは “ ON ”、表示させないときは “ OFF ” を選びます。

Display Mode：
- **Mode1：**
  ちらつきの防止をおこないません。
- **Mode2：**
  映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
  Mode1にてオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は、本モードを使用してください。

3 **ENTER を押す。**



音声再生に関する設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードの設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードのみスピーカーの設定を変更する場合に設定します。

1 **△ ▽ で " Advanced Playback " を選び、ENTER を押す。**

2 **△ ▽ で " 2ch Direct/Stereo " を選び、ENTER を押す。**

Basic：
スピーカーに関する設定内容が表示されます。

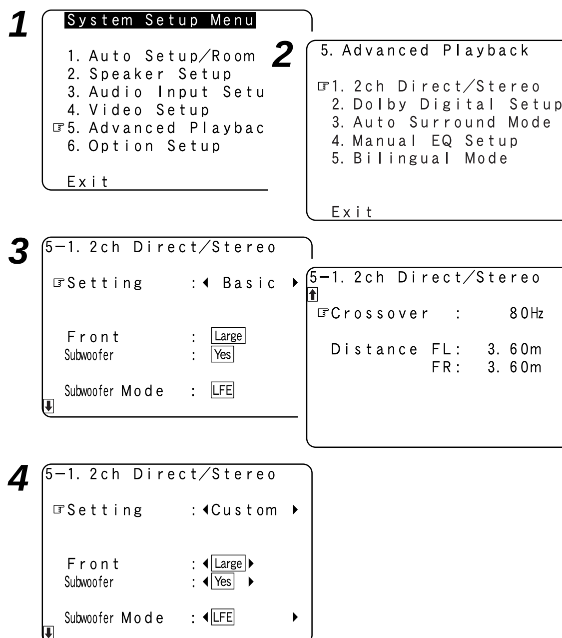
Custom：
2チャンネルのダイレクトおよびステレオモードのときのスピーカーの設定内容を変更することができます。

3 **△ ▽ で " Setting " を選び、◁ ▷ で " Custom " を選ぶ。**

4 **△ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。**

※ 設定内容の詳細については（☞ 53～55ページ）をご覧ください。

5 **ENTER を押す。**



ドルビーデジタルダウンミックスの設定

ドルビーデジタル信号をダウンミックスするときのコンプレッションのON/OFFを設定します。

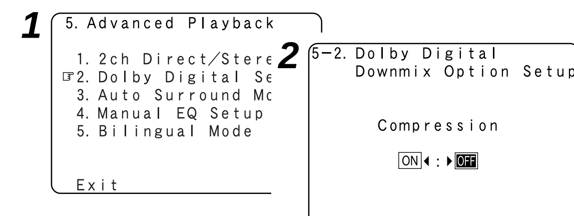
1 **△ ▽ で " Dolby Digital Setup " を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

ON：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。
聴取される平均音量レベルが大きい場合に、フロントスピーカーの再生音がピークレベルで歪んで聞こえるときに選びます。

OFF：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないません。
通常はこのモードでご使用ください。

3 **ENTER を押す。**



 **メモ**

● センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はフロントスピーカーから出力されます。

オートサラウンドモードの設定

入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。
下記の4種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合は、記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。

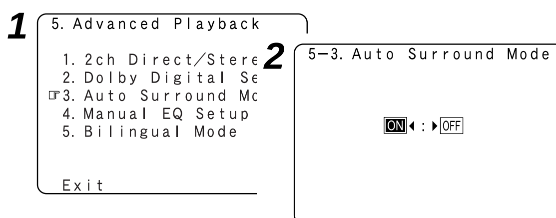
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号【STEREO】
② ドルビーデジタルやDTSまたは他のマルチチャンネル信号などの2チャンネル信号【DOLBY PLIIx Cinema】
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号【DOLBY/DTS SURROUND】
④ ドルビーデジタルやDTS以外のPCMのマルチチャンネル信号【MULTI CH IN】

※ 【 】内は初期設定。
※ ピュアダイレクトモードで再生中、入力信号が変化してもサラウンドモードは変わりません。

1 △▽で“Auto Surround Mode”を選び、ENTERを押す。

2 ◁▷で設定する。

3 ENTERを押す。



マニュアルイコライザーの設定

オートセットアップのRoom EQとは別に、グラフィックイコライザーを使用して音楽などを聞きながら、サブウーハーを除く各スピーカーの音色を手動で合わせることができます。

1 △▽で“Manual EQ Setup”を選び、ENTERを押す。

2 ◁▷で設定し、ENTERを押す。

All CH：
すべてのチャンネルのイコライザーを調整します。

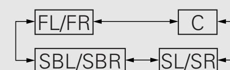
L/R CH：
ペアで使用されるスピーカーのイコライザーを調整します。

Each CH：
各チャンネルごとにイコライザーを調整します。

3 △▽でスピーカーを選ぶ。

※ 下記の順序で表示が切り替ります。

①“L/R CH”を選んだ場合：



②“Each CH”を選んだ場合：

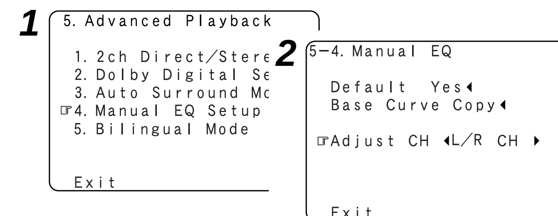


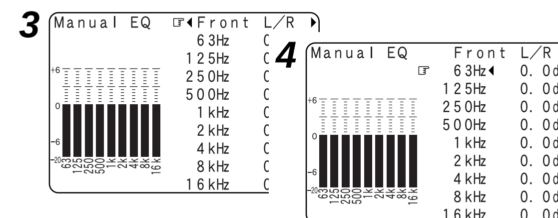
③“ALL CH”を選んだ場合：
スピーカーは選択できません。

4 △▽で周波数を選び、◁▷で調整する。

※ −20dB〜＋6dBの範囲内で調整できます。

5 ENTERを押す。







メモ

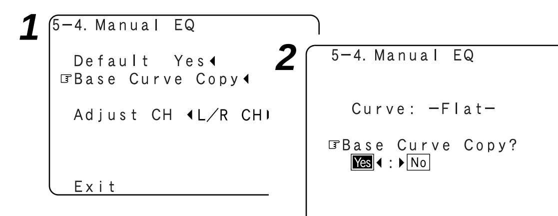
- “Base Curve Copy”は、オートセットアップを実行している場合に表示します。

■ オートセットアップで設定されたルームイコライザーの“Flat”の補正カーブを手動調整する方法

1 △▽で“Base Curve Copy”を選び、◁ボタンを押す。

2 ◁で“Yes”を選び、ENTERを押す。

- コピーされた補正カーブの種類を、画面の右上に表示します。

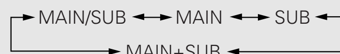


バイリンガルモードの設定

ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。

1 △▽で“Bilingual Mode”を選び、ENTERを押す。

2 ◁▷で設定する。



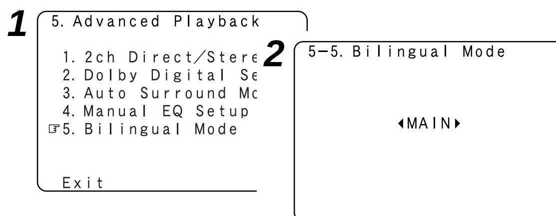
MAIN：
MAIN（主）音声のみ出力します。

SUB：
SUB（副）音声のみ出力します。

MAIN/SUB：
MAIN（主）音声は左チャンネルから、SUB（副）音声は右チャンネルから出力します。

MAIN+SUB：
MAIN（主）音声とSUB（副）音声をミックスして出力します。

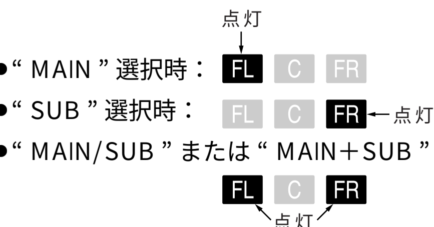
3 ENTERを押す。



メモ

- バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

■ AACソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合



※ DTSソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、“FL”と“FR”が点灯します。

その他の設定のしかた

パワーアンプの割り当ての変更

サラウンドバックのパワーアンプをフロントチャンネルの（“Front A”または“Front B”）バイアンプ再生用に割り当てて使用できます。

1 △▽で“Option Setup”を選び、ENTERを押す。

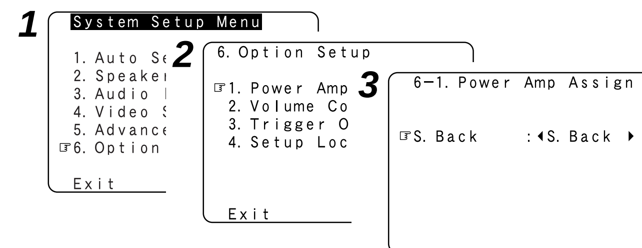
2 △▽で“Power Amp Assign”を選び、ENTERを押す。

3 ◁▷で設定する。

S.Back：
サラウンドバックの割り当てをおこなわずに、サラウンドバックスピーカーとして使用します。

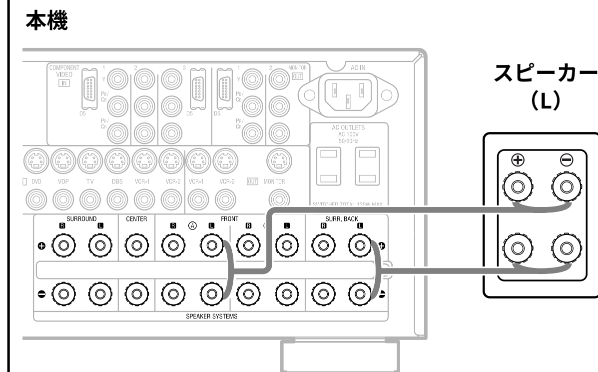
Front A, Front B：
フロントチャンネル（Front AまたはFront B）をサラウンドバックスピーカーから出力して、バイアンプで再生します。

4 ENTERを押す。



フロントスピーカーのバイアンプ接続について

本機とバイアンプ対応のスピーカーを接続することにより、フルレンジのシステムに比べてレンジの広いダイナミックなサウンドを再生できます。
接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。



ご注意

バイアンプで接続するときは、スピーカーに付属されている短絡板を必ず外してください。

音量の設定

音量レベルを設定します。

1 △ ▽ で " Volume Control " を選び、ENTER を押す。

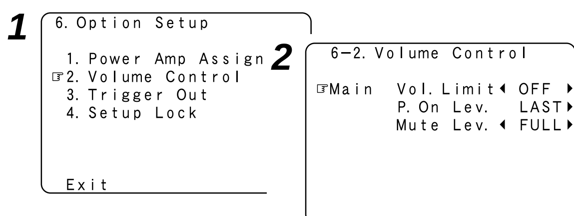
2 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

Vol. Limit：
音量の上限値を設定します。
- **OFF：**
  音量の上限値を設定しないときに選びます。
  +18dBまで音量を上げることができます。
- **－20dB, －10dB, 0dB：**
  設定されたレベルまで音量を上げることができます。

P. On Lev.：
電源オン時の音量を設定します。
－80dB〜＋18dBの範囲内で設定できます。
- **LAST：**
  前回使用していたときの音量が記憶され、電源オン時に設定します。
- **- - -：**
  電源オン時は消音になります。

Mute Lev.：
ミューティング時の音量の減衰量を設定します。
- **FULL：**
  音声出力を完全にミュートします。
- **－20dB, －40dB：**
  現在の再生レベルから20dBまたは40dB減衰して再生します。

3 ENTER を押す。



トリガーアウトの設定

本機の2つのトリガーアウトジャックの直流12V出力を、各入力ファンクションおよび各サラウンドモードに対して連動させて使用します。

1 △ ▽ で " Trigger Out " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ でトリガーアウトジャックを選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

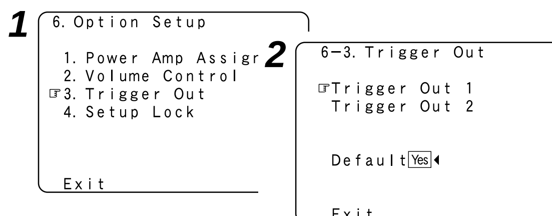
ON, OFF：
該当する入力ファンクションを選んだときに、トリガーアウトジャックから出力される電源が " ON " または " OFF " します。

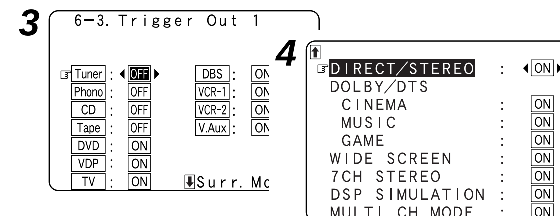
4 △ ▽ でサラウンドモードを選び、◁ ▷ で設定する。

ON：
" ON " に設定された入力ファンクションを選んだときに、該当するサラウンドモードを選んだ場合、トリガーアウトジャックから出力される電源が " ON " します。

OFF：
該当するサラウンドモードを選んだときに、トリガーアウトジャックから出力される電源が " OFF " します。

5 ENTER を押す。



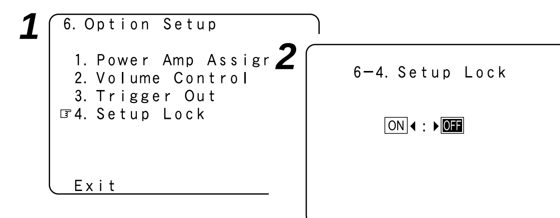


セットアップ内容の保護

システムセットアップの設定を変更できないように、ロックするかどうかを設定します。

1 △ ▽ で " Setup Lock " を選び、ENTER を押す。

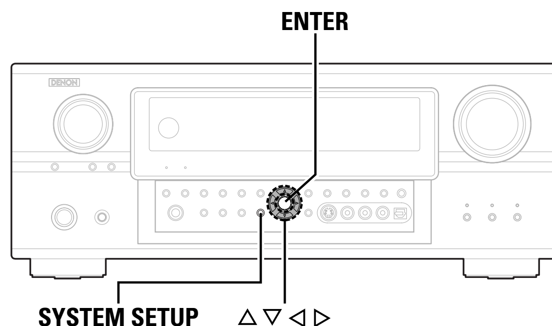
2 ◁ で " ON " を選び、ENTER を押す。

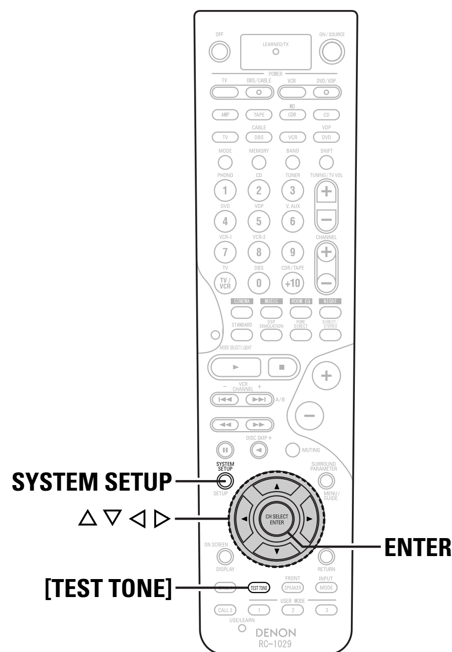


メモ

- " Setup Lock " を " ON " にすると、下記設定が変更できなくなります。
  - ・システムセットアップの設定
  - ・サラウンドパラメーターの設定値
  - ・トーンコントロールの設定値
  - ・チャンネルレベルの設定値（テストトーンを含む）
  - ・ルームイコライザーの設定
- 本設定に関連するボタンが押されると、" SETUP LOCKED！ " を表示します。
- 設定を解除する場合は、**SYSTEM SETUP** を押して " Setup Lock " 画面を表示させ、" OFF " に設定し直してください。

より詳細なセットアップのしかた２





【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

スピーカーに関する設定のしかた

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

スピーカーの種類・有り無しの設定

サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を設定します。

1 △ ▽ で“ Speaker Setup ”を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で“ Speaker Config. ”を選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で設定する。

Large：
低域再生能力が十分な大型スピーカーを接続しているときに選びます。

Small：
低域再生能力が十分でない小型スピーカーを接続しているときに選びます。

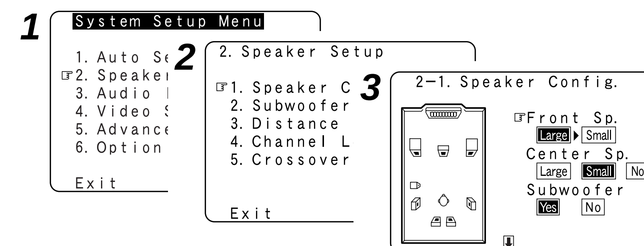
None：
スピーカーを接続していないときに選びます。

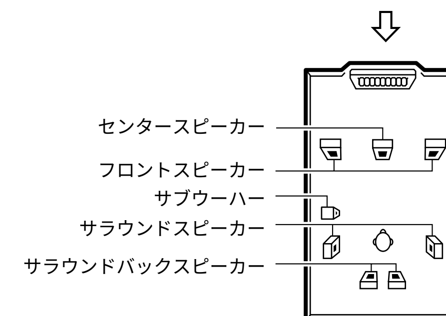
Yes/No：
サブウーハーを接続しているときは“ Yes ”、接続していないときは“ No ”を選びます。

2spkrs/1spkr：
サラウンドバックスピーカーの数を選びます。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を“ Small ”にしても良好な音場再生ができます。
※ フロントスピーカーを“ Small ”に設定すると、自動的にサブウーハーを“ Yes ”に設定します。また、サブウーハーを“ No ”に設定すると、自動的にフロントスピーカーを“ Large ”に設定します。

4 ENTER を押す。





メモ

- “ Large ”と“ Small ”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに「クロスオーバー周波数」（☞ 55ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で“ Small ”に設定した場合と“ Large ”に設定した場合の音を比較した上で選んでください。

サブウーハーモードの設定

重低音域信号を再生するサブウーハーの再生方法を選びます。

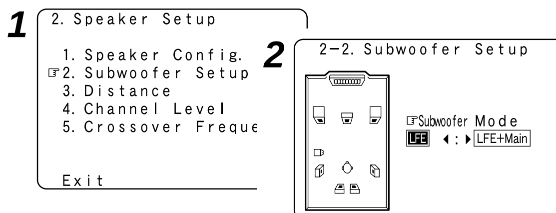
1 **△ ▽ で " Subwoofer Setup " を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

LFE：
" Large " に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルからのみ再生します。
サブウーハーから再生される低音域は、LFE信号と " Small " に設定されたチャンネルの低音域のみとなります。

LFE＋Main：
" Large " に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生します。

3 **ENTER を押す。**



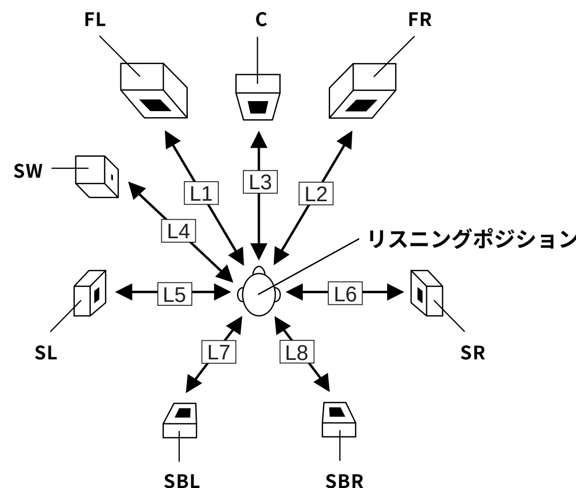
メモ

- サブウーハーモードの設定は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 53ページ）でサブウーハーを " Yes " に設定した場合に有効です。
- 常にサブウーハーチャンネルから低音域信号を再生したい場合は、" LFE＋Main " 再生モードを選んでください。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選んでください。

スピーカーの距離の設定

リスニングポジションと各スピーカーの距離に応じて、各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。

準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1〜L8）を測定してください。

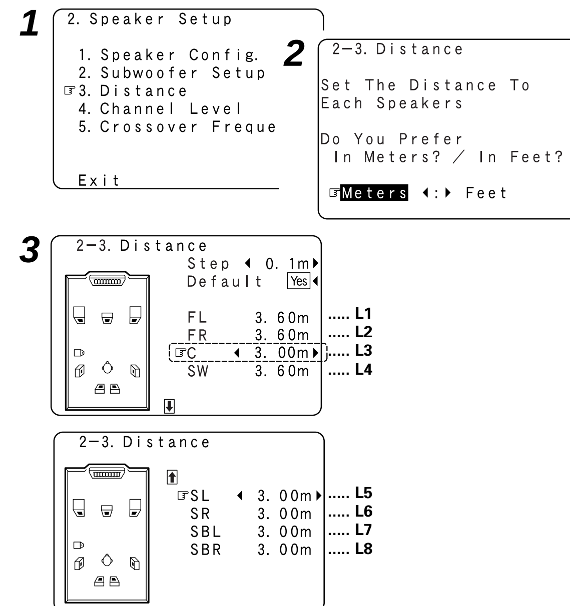


1 **△ ▽ で " Distance " を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で " Meters " または " Feet " を選ぶ。**

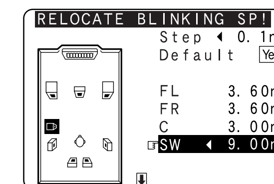
3 **△ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で設定する。**

4 **ENTER を押す。**



メモ

- △ で " Step " を選び、◁ ▷ で変化量を変えることができます。
- ボタンを押すたびに数値が0.1m（1ft）単位または0.01m（0.1ft）単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選んでください。
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0m（20ft）以下でなければなりません。不適切な距離に設定されると、" RELOCATE BLINKING SP! " を表示します。このような場合、該当のスピーカーを表示の値の位置に移動してください。



チャンネルレベルの設定

各スピーカーからのテストトーンの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量を設定します。

1 △▽ で“ Channel Level ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

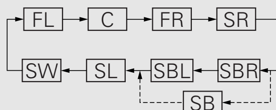
Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

Manual：
テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り替えて、調整します。

3 △▽ で“ Test Tone Start ”を選び、◁ で“ Yes ”を選ぶ。

4-1 “ Auto ” モードを選んだ場合：
◁ ▷ で音量を調整する。

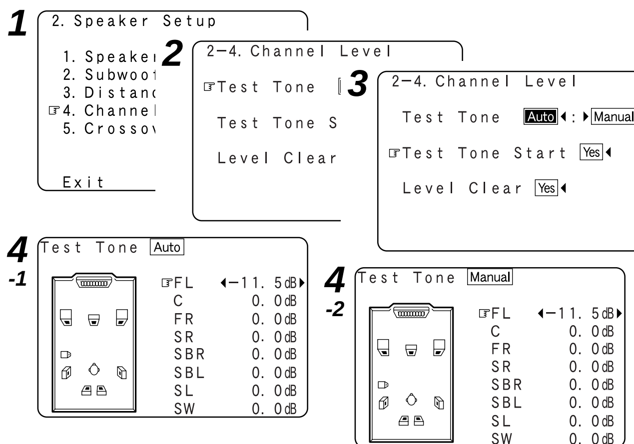
※ 下記の順序でテストトーンを自動的に出力します。



※ 音量は、−12dB〜+12dBの範囲内で調整できます。

4-2 “ Manual ” モードを選んだ場合：
△ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で音量を調整する。

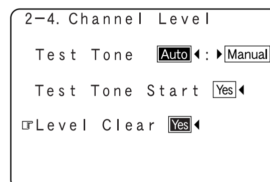
5 ENTER を押す。





メモ

- 設定を取り消す場合は、▽ で “ Level Clear ” を選び、◁ で “ Yes ” を選んでください。



- チャンネルレベルを設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調節する場合は、37ページの操作をおこなってください。

■ リモコンによるテストトーン調整のしかた

リモコンによるテストトーンの調整は “ Auto ” モードのみでSTANDARD（ドルビーサラウンドとDTSサラウンド）モード時に有効です。調整したレベルは各サラウンドモードに自動的に記憶します。

1 ［TEST TONE］を押す。
- テストトーンを各スピーカーより出力します。

2 ◁ ▷ で音量を調整する。

3 ［TEST TONE］を押す。

クロスオーバー周波数の設定

各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。
“ Small ” に設定されたスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたは “ Large ” に設定されているスピーカーより出力します。

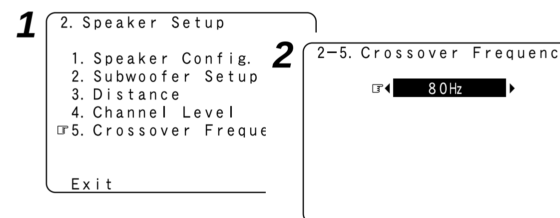
1 △▽ で “ Crossover Frequency ” を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

40, 60, 80, 90, 100, 110, 120, 150, 200, 250Hz：
お手持ちのスピーカーの低音域の再生能力に合わせて選びます。

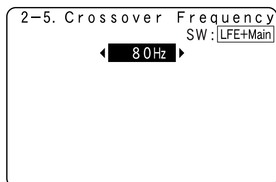
Advanced：
各スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定できます（☞ 56ページ）。

3 ENTER を押す。



メモ

- クロスオーバー周波数モードの設定は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞53ページ）でサブウーハーを“ Yes ”または“ Small ”に設定したスピーカーがある場合のみ有効です。
- 「サブウーハーモードの設定」（☞54ページ）で“ LFE＋Main ”再生モードに設定されている場合、画面右上に“ SW：LFE＋Main ”を表示します。



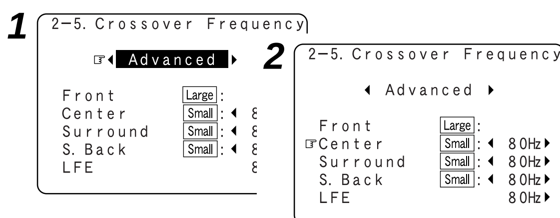
- 一般的なスピーカーをご使用の場合は、“ 80Hz ”にしてください。また、小型スピーカーをご使用の場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

■ クロスオーバー周波数をチャンネルごとに設定する

1 ◁ ▷ で“ Crossover Frequency ”画面より“ Advanced ”を選ぶ。

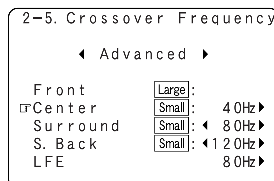
2 △ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で設定する。

3 ENTER を押す。



メモ

- 「サブウーハーモードの設定」（☞54ページ）で“ LFE ”に設定されているときは、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞53ページ）で“ Small ”に設定したスピーカーのみ設定できます。



- 「サブウーハーモードの設定」（☞54ページ）で“ LFE＋Main ”に設定されているときは、スピーカーの大きさの設定に関わらず、周波数の設定ができます。

その他の設定のしかた

ルームイコライザーの設定

ルームイコライザーを各サラウンドモードごとに設定するか、一括設定するかを選びます。

1 △ ▽ で“ Room EQ Setup ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定し、ENTER を押す。

All：
すべてのサラウンドモードに対してイコライザーを設定します。

Assign：
各サラウンドモードごとにイコライザーを設定します。（☞27ページ）

3 “ All ”を選んだ場合：◁ ▷ で設定する。

OFF：
イコライザーを使用しないときに選びます。

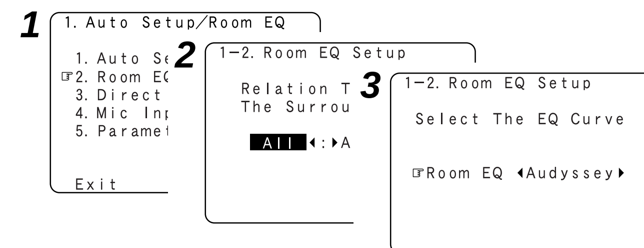
Audyssey：
お部屋の音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を調整します。

Front：
フロントスピーカーの特性に各スピーカーの特性を合わせます。

Flat：
各スピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

Manual：
「マニュアルイコライザーの設定」（☞50ページ）で設定されたイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

4 ENTER を押す。



メモ

- “ Audyssey ”、“ Front ”および“ Flat ”のイコライザーはオートセットアップを実行した後に選択できます。
- オートセットアップで“ None ”と判定されたスピーカーを手動で“ あり ”に切り替えた場合は、“ Audyssey ”、“ Front ”および“ Flat ”のイコライザーは選択できません。
- ヘッドホンを接続している場合、イコライザーの設定はできません。

ダイレクトモード時のイコライザーの設定

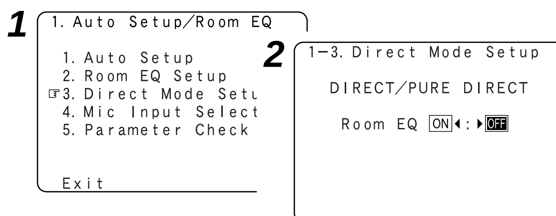
サラウンドモードがダイレクトまたはピュアダイレクトモードの場合にルームイコライザーを使用するかどうかを設定します。

1 **△ ▽ で“ Direct Mode Setup ”を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

ON, OFF：
ルームイコライザーを使用するときは“ ON ”、使用しないときは“ OFF ”を選びます。

3 **ENTER を押す。**



マイク入力ジャックの選択

オートセットアップに使用するマイク入力端子を選びます。

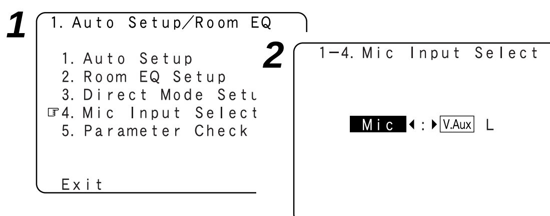
1 **△ ▽ で“ Mic Input Select ”を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

Mic（SETUP MIC）：
付属のマイクを使用するときに選びます。通常はこの設定にしてください。

V.Aux L（本機フロントパネルV.AuxのL端子）：
付属品以外のマイクを使用するときに選びます。付属品以外のマイクをご使用になる場合は、お客様相談センターにお問い合わせください。

3 **ENTER を押す。**



オートセットアップのパラメーターの確認と再設定

オートセットアップの測定結果やルームイコライザーの設定を確認できます。
また、オートセットアップの測定結果を確定した後に、再度設定を変更できます。

1 **△ ▽ で“ Parameter Check ”を選び、ENTER を押す。**

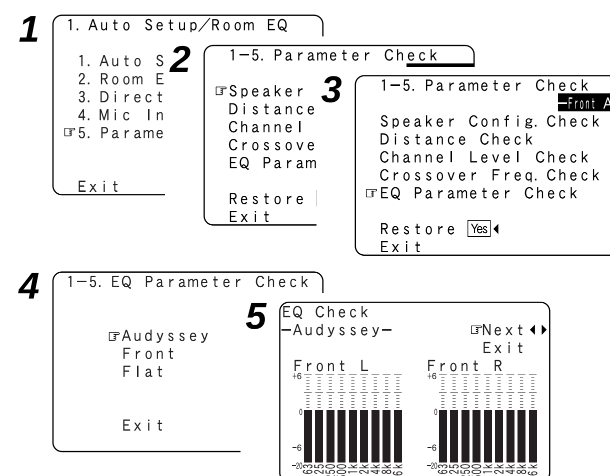
2 **△ ▽ で項目を選び、ENTER を押す。**

※ “ EQ Parameter Check ” 以外の確認画面については、16ページをご覧ください。

3 **△ ▽ で“ EQ Parameter Check ”を選び、ENTER を押す。**

4 **△ ▽ でイコライザーの種類を選び、ENTER を押す。**

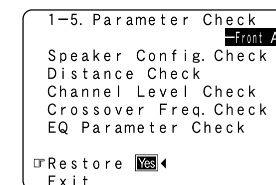
5 **◁ ▷ でスピーカーを選ぶ。**



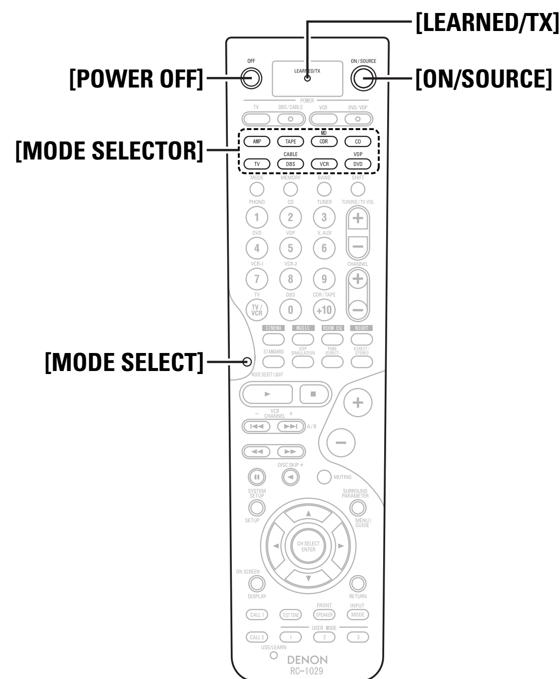


メモ

- 再設定するとき
  △ ▽ で“ Restore ”を選び ◁ を押す。



リモコン操作のしかた



 メモ

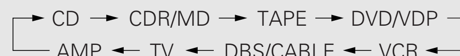
- お手持ちの機器の形式や年式によっては操作できないボタンがあります。

DENON製オーディオ機器を操作する

1 操作する機器の［MODE SELECTOR］または［MODE SELECT］を押す。

- 選択されたモードが点灯します。

※［MODE SELECT］を押すたびに下記のように切り替わります。



2 機器を操作する。

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

プリセットメモリー機能を設定する

付属のリモコンにプリセットメモリーすると、各社の機器の操作ができるようになります。機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。その場合は、「学習機能を設定する」（☞ 60ページ）でお手持ちの機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させて使用してください。

1 ［ON/SOURCE］と［POWER OFF］を同時に押す。

- “ LEARNED/TX ” 表示が点滅します。

2 メモリーしたい機器の［MODE SELECTOR］を押す。

- ［MODE SELECTOR］と “ LEARNED/TX ” 表示が点滅します。

3 プリセットコード表（☞ 巻末）からメモリーする機器のメーカーの番号（4桁）を入力する。

- 正常にメモリーされると、［MODE SELECTOR］と “ LEARNED/TX ” 表示が点灯します。

 メモ

- 学習したボタンはプリセットメモリーよりも優先されます。不要の場合は学習内容を消去してください（☞ 61ページ）。
- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

CDR/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーできません。

プリセットメモリーした機器を操作する

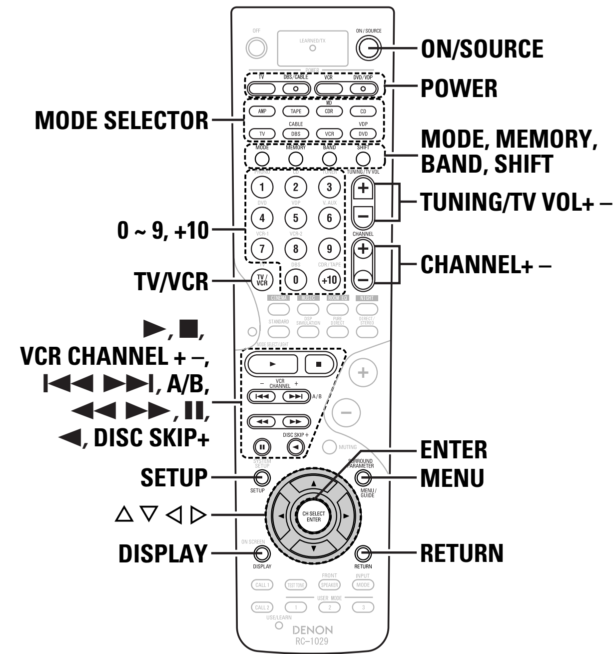
1 操作する機器の［MODE SELECTOR］を押す。

2 機器を操作する。

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

《リモコン操作のしかた》

■機器ごとのボタンのはたらき



【特記事項】

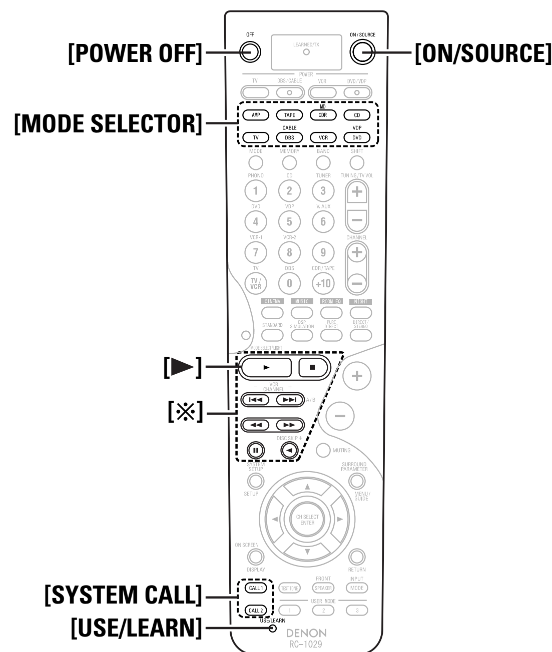
① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセットメモリーすることができません。また、新しいコードをプリセットすると前のコードは自動的に消去されます。

② DVDのリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ テレビと衛星チューナーまたはケーブルテレビには、CD、VCR、DVDのいずれかのボタンを割り当てることができます（「パンチスルーについて」（☞ 61ページ））。

※ **DBS/CABLEモードのプリセットコードは、輸出仕様なので学習させて使用してください。**

操作機器	CD プレーヤー	CDレコーダー または MDレコーダー	テープデッキ	チューナー	DVDプレーヤー またはビデオ ディスクプレーヤー	ビデオデッキ	衛星チューナー またはケーブル テレビ ※	テレビ
MODE SELECTOR	CD	CDR/MD	TAPE	AMP, CD, CDR/MD, TAPE	DVD/VDP	VCR	DBS/CABLE	TV
ON / SOURCE	–	–	–	–	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ
POWER	–	–	–	–	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
MODE	–	–	–	自動/手動切り替え	–	–	–	–
MEMORY	–	–	–	プリセットメモリー	–	–	–	–
BAND	–	–	–	AM/FM切り替え	–	–	–	–
SHIFT	–	–	–	メモリーブロック切り替え	–	–	–	–
0 ~ 9, +10	選曲	選曲	–	–	数字入力/選曲	–	チャンネル	チャンネル
TUNING / TV VOL + –	–	–	–	チューニング	–	–	音量調節	音量調節
CHANNEL + –	–	–	–	プリセットチャンネル切り替え	–	選局切り替え	チャンネル切り替え	チャンネル切り替え
▶	再生	再生	再生	–	再生	再生	–	–
■	停止	停止	停止	–	停止	停止	–	–
VCR CHANNEL + – / I◀◀ ▶▶I	頭出し	頭出し	–	–	頭出し	チャンネル切り替え	–	–
A / B	–	–	A/B切り替え	–	–	–	–	–
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り	早戻し/早送り	早戻し/早送り	–	早戻し/早送り	早戻し/早送り	–	–
II	一時停止	一時停止	一時停止	–	一時停止	一時停止	–	–
◀	–	–	リバース再生	–	–	–	–	–
DISC SKIP +	ディスクスキップ (CDチェンジャーのみ)	–	–	–	ディスクスキップ (DVDチェンジャーのみ)	–	–	–
SETUP	–	–	–	–	セットアップ	–	–	–
MENU	–	–	–	–	メニュー呼び出し	–	メニュー呼び出し	メニュー呼び出し
DISPLAY	–	–	–	–	ディスプレイ切り替え	–	ディスプレイ切り替え	ディスプレイ切り替え
RETURN	–	–	–	–	リターン	–	リターン	リターン
△▽◁▷	–	–	–	–	カーソル動作	–	カーソル動作	カーソル動作
ENTER	–	–	–	–	設定の確定	–	設定の確定	設定の確定
TV / VCR	–	–	–	–	–	入力切り替え	入力切り替え	入力切り替え
初期設定 (プリセットコード)	DENON (0000)	DENON CDR (0000)	DENON (0000)	–	DENON DVD (0000)	HITACHI (3010)	–	HITACHI (4539)
該当する特記事項	①	①	①	①	①, ②	①	①, ③	①, ③



学習機能を設定する

- お手持ちのAV機器がDENON以外の製品の場合やプリセットメモリーで操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させてお使いください。
- リモコンによっては学習できない場合や、学習しても機器が正常に動作しない場合があります。この場合は、機器の専用リモコンをお使いください。

1 ［USE/LEARN］をペンなどの先端で押す。
- ［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

2 設定する機器の［MODE SELECTOR］を押す。
- ［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

3 学習させたいボタンを押す。
- “ LEARNED/TX ”表示の点滅が止まり、操作2で押した［MODE SELECTOR］が点灯します。

※学習できないボタンを押した場合は［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

4 リモコンをまっすぐに向かい合わせ、学習させる他機のリモコンボタンを押し続ける。

他機のリモコン

本機のリモコン
（RC-1029）

5 ［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点灯したら、他機のリモコンから指を離す。
- もう一度［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

※ 他にも学習するボタンがある場合は、操作2～5を繰り返してください。

6 ［USE/LEARN］を押す。

 **メモ**

- 学習機能を解除するときは、［USE/LEARN］を押してください。

システムコール機能を使う

- 連続した操作を1つのボタンに登録できます。
- この機能により、1回のボタン操作でアンプの電源オン、入力機器の選択、テレビの電源オン、入力機器の電源オン、再生などの一連の操作ができます。
- ［SYSTEM CALL］（**1** または **2**）に、それぞれ10個までの信号を登録できます。

登録のしかた

1 ［ON/SOURCE］と［POWER OFF］を同時に押す。
- “ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

2 ［SYSTEM CALL 1］を押す。
- システムコールモードに入り、［MODE SELECTOR］と“ LEARNED/TX ”表示が点滅します。

※ ［SYSTEM CALL 2］に登録する場合も［SYSTEM CALL 1］を押して下さい。

3 システムコールに登録したい機器の［MODE SELECTOR］を押す。

4 登録したい操作ボタンを、操作順に続けて押す。

【例】　［ON］を押す。
↓
［MODE SELECTOR］の［CD］を押す。
↓
［▶］を押す。

※ 他にも登録するボタンがある場合は、操作3、4を繰り返してください。

5 登録したいシステムコールボタン（［SYSTEM CALL 1］または［SYSTEM CALL 2］）を押す。

呼び出しかた

登録した［SYSTEM CALL］（1 または 2）を押す。
- 登録した信号を連続して送信します。

パンチスルー機能を設定する

AMP、TV、DBSおよびCABLEモードの空きボタンに、CD、CDR、MD、TAPE、DVD、DVDR、VDP、VCR1およびVCR2モードのいずれかのボタンを割り当てることができます。
例えば、TVモードにCDモードを割り当てると、TVモードのままCDの操作ができます。([※])

1 [ON/SOURCE]と[POWER OFF]を同時に押す。
- "LEARNED/TX"表示が点滅します。

2 [►]を押す。
- [MODE SELECTOR](TVおよびDBS/CABLE)と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

3 パンチスルーに設定したい機器(AMP、TVまたはDBS/ CABLE)の[MODE SELECTOR]を押す。
- [MODE SELECTOR](CD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCR)と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

4 パンチスルーする機器(CD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCR)の[MODE SELECTOR]を押す。
- 設定した[MODE SELECTOR]が点灯します。

リモコンを初期化する

学習機能を初期化する

1 [USE/LEARN]をペンなどの先端で押す。
- [MODE SELECTOR]と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

2 初期化する機器の[MODE SELECTOR]を押す。
- [MODE SELECTOR]と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

3 初期化する機器の[MODE SELECTOR]と[ON/SOURCE]を同時に4秒以上押す。
- [MODE SELECTOR]と"LEARNED/TX"表示がもう一度点滅します。

4 [USE/LEARN]を押す。

パンチスルー機能を初期化する

1 [ON/SOURCE]と[POWER OFF]を同時に押す。
- "LEARNED/TX"表示が点滅します。

2 [►]を押す。
- [MODE SELECTOR](AMP、TVまたはDBS/CABLE)と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

3 初期化する機器の[MODE SELECTOR]を押す。
- [MODE SELECTOR](CD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDP または VCR)と"LEARNED/TX"表示が点滅します。

4 もう一度初期化する機器の[MODE SELECTOR]を押す。

《リモコン操作のしかた》

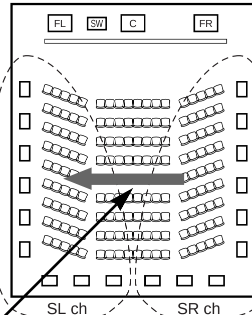
その他について

スピーカーについて

サラウンドバックスピーカーについて

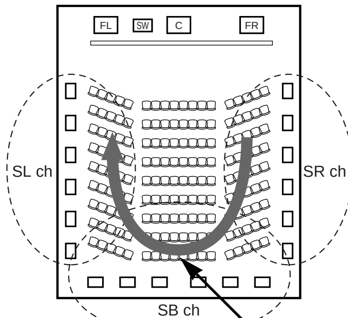
5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加することにより、真後ろへの定位を容易に実現できます。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる定位・音像の変化



SR→SLと移動する音像の動き

6.1chシステムによる定位・音像の変化



SR→SB→SLと移動する音像の動き

また、6.1チャンネルで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1チャンネルソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。

■ サラウンドバックスピーカーの本数について

2本のスピーカーを使用することをおすすめします。
特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、必ず2本使用してください。

■ サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーをやや前寄りに設置することをおすすめします。

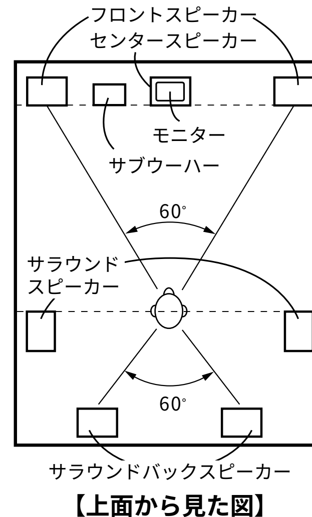
スピーカーの配置例

次にスピーカーの配置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて配置してください。

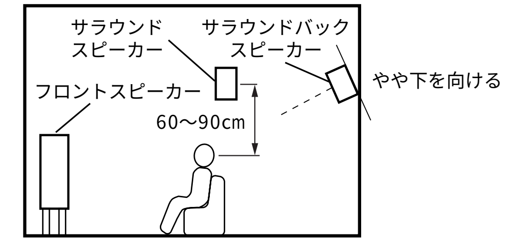
【1】サラウンドバックスピーカーを使用する場合

① 主に映画再生をおこなう場合

ご使用になるサラウンドスピーカーがシングルウェイまたは2ウェイスピーカーの場合におすすめします。

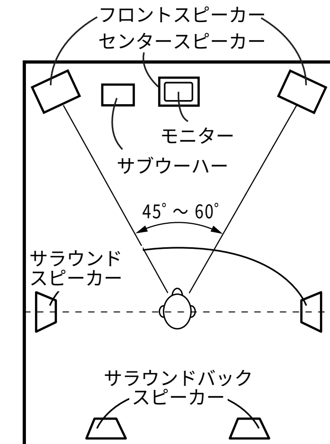


【上面から見た図】

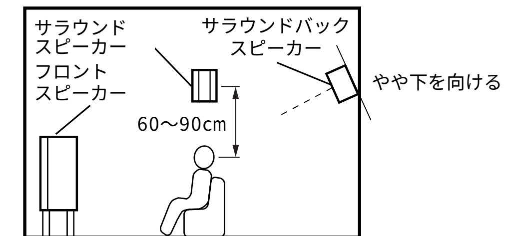


【側面から見た図】

② 映画再生用または音楽再生用のサラウンドスピーカーを使用する場合

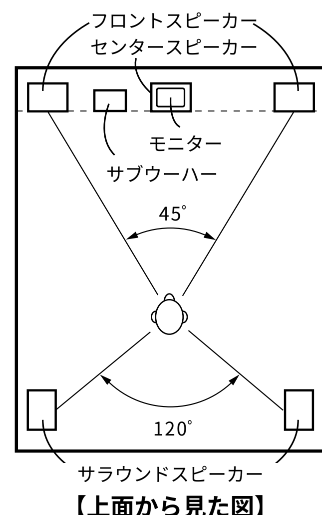


【上面から見た図】

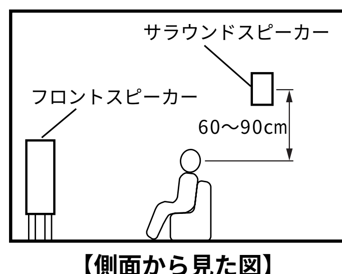


【側面から見た図】

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合



【上面から見た図】



【側面から見た図】

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドについて

【1】ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所により開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント3チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド2チャンネル（SL、SR)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AVルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

【2】ドルビープロロジックⅡ

ドルビープロロジックⅡは、ドルビー研究所により開発されたマトリクスデコード技術です。
CDのような通常の音楽は5チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性20〜20kHz以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

【3】ドルビープロロジックⅡx

ドルビープロロジックⅡxは、ドルビープロロジックⅡをさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大7.1チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した「ミュージック」モードと映画再生に適した「シネマ」モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な「ゲーム」モードがあります。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースについて

ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。
ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro LogicおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSデジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンドは、米国のデジタル・シアター・システムズ社により開発されたデジタルサラウンドフォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルです。
メディアに記録する際の音声データの圧縮率がドルビーデジタルに比べて低く、デコードする際の情報量が多くなるので、より厚みのあるクリアな高音質再生ができます。

本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンス契約に基づき製造されています。
US Pat. No. 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535、その他、国外特許および特許出願物。“ DTS ”“ DTS-ES ”“ Neo:6 ” および“ DTS 96/24 ” はデジタル・シアター・システムズ社の商標です。1996, 2003 Digital Theater Systems, Inc. 版権所有。

DTS-ES™について

DTS-ESは、デジタル・シアター・システムズ社により開発された新しいサラウンドフォーマットです。
従来の5.1チャンネルにサラウンドバック（SB）チャンネルを加えることにより、音像や定位感をもたらすことができます。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：
SBチャンネルを含めた6.1チャンネルすべてが独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。各チャンネルが独立しているため、自由なサウンドデザインができます。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：
SBチャンネルをあらかじめSL、SRチャンネルにマトリクスエンコードして挿入し、再生時にSL、SR、SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生ができます。

≪その他について≫

DTS NEO:6サラウンドについて

2チャンネルソースを6.1チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。
再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：
映画再生に適したモードです。2チャンネルでも、映画館と同様なサウンドを楽しむことができます。

DTS NEO:6 MUSIC：
音楽再生に適したモードです。音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

DTS-96/24について

DTS 96/24は、デジタル・シアターシステムズ社により開発された新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
サンプリング周波数を引き上げることにより、「サンプリング周波数：96kHz/量子化ビット数：24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生ができます。

MPEG2-AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG2-AACによりBSデジタル放送で配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

■ MPEG2-AACのスペック（概要）

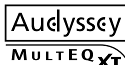
- **アルゴリズム：** MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- **サンプリング周波数：** 8kHzから96kHzまで対応
- **チャンネル数：** 最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- **その他の機能：** LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

■ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

Audyssey MultEQ XTについて

Audyssey MultEQ XTは、リスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集されたテストデータを総合的に分析し、リスニングエリア全体の音質を向上するイコライジング処理をおこないます。
Audyssey MultEQ XTは、広いリスニングエリアでの周波数特性上の問題を補正するだけでなく、サラウンドシステムのセットアップを完全に自動化します。
詳しい説明については、13ページをご覧ください。



- Audyssey MultEQ XTは、Audysseyラボラトリーズの商標です。米国と国内特許出願の20030235318および10/700,220の下で許可されます。米国共同で外国特許審議中。MultEQおよびAudyssey MultEQロゴはAudysseyラボラトリーズ社の商標です。版権所有。

AL24 Processing Plusについて

AL24 Processing Plusは、DVD規格の最高スペックであるDVD-Audioのサンプリング周波数192kHzにも対応するアナログ波形再現技術です。
音をアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。

HDMI（High Definition Multimedia Interface）について

HDMIとは、DVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。
非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が1つの接続でおこなえます。
また、DVIと同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術のHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

“HDMI”“HDMI”および“High-Definition Multimedia Interface”はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

故障かな？と思ったら

■ 各接続は正しいですか
■ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
■ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	25
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーケーブル接続が不完全である。 ● ファンクション切り替えつまみの位置が不適当である。 ● 主音量調節つまみが絞ってある。 ● ミューティングがかかっている。 ● デジタル信号が入力されていない。	● しっかり接続してください。 ● 正しい位置に切り替えてください。 ● 適当な位置まで回してください。 ● ミューティングを解除してください。 ● デジタル信号の入力機器を正しく選んでください。	11 26 26 27 45
テレビが映らない。	● 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続が不完全である。 ● テレビの入力設定が違う。 ● ピュアダイレクトモードになっている。 ● プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でテレビとの接続がビデオ端子（黄）またはSビデオ端子になっている。	● 接続が正しいか確認してください。 ● テレビの入力切り替えを映像入力に接続した端子へ設定してください。 ● ピュアダイレクトモード以外のモードにしてください。 ● プログレッシブ映像信号はダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレースの設定にしてください。	12、17〜25 — 28 —

現　象	原　因	処　置	関連ページ
DTS音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 ● DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。 ● 本機の入力設定がアナログになっている。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ● DTS対応のプレーヤーを使用してください。 ●“AUTO”または“DTS”にしてください。	— — 26
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	—
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの電源が入っていない。 ● サブウーハーの初期設定が“NO”になっている。 ● サブウーハーの出力が接続されていない。 ● サブウーハーのチャンネルボリウムの設定が“OFF”になっている。	● 電源を入れてください。 ● 設定を“YES”にしてください。 ● 正しく接続してください。 ● サブウーハーのチャンネルボリウムを上げてください。	— 54 11、25 37
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがSTANDARD（ドルビー/DTSサラウンド）以外のモードになっている。	● STANDARD（ドルビー/DTSサラウンド）モードにしてください。	—
サラウンドスピーカーから音が出ない。	● サラウンドモードがステレオになっている。	● ステレオ以外のモードにしてください。	—
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。 ● リモコンの距離が離れ過ぎている。 ● 本体とリモコンの間に障害物がある。 ● 操作したいボタン以外のボタンを押している。 ● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 新しい乾電池と交換してください。 ● 近づいて操作してください。 ● 障害物を取り除いてください。 ● 操作したいボタンを押してください。 ● 乾電池を正しくセットしてください。	7 7 7 — 7
AAC表示が点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	20

現象	原因	処置	関連ページ
HDMI接続で映像が映らない。	● 本機のHDMIモニター出力端子とテレビの入力端子の接続が不完全である。	● HDMIの接続を確認してください。	22
	● HDMI信号が入力されていない。	● HDMIが接続されている入力機器を正しく選んでください。	46
	● 接続されたテレビなどがHDCPに対応していない。	● 本機はHDCP対応機器でないと映像信号を出力しません。	22
	● 接続されたプレーヤーなどの対応出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビの入力フォーマットが合っていない。	● 接続されたプレーヤーなどの対応出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビの入力フォーマットが合っているかを確認してください。	22
HDMIの音声が再生されない。	● 本機からHDMIの音声が再生されない。	●「HDMI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を“AMP”にしてください。	46
	● 接続されたテレビからHDMIの音声が再生されない。	●「HDMI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を“TV”にしてください。	46
電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。	● 機器内部の温度上昇により保護回路が働いている。	● 本機を通風状態の良い場所に設置してください。	11
		● 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから電源を入れ直してください。	11
	● スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が本機のリアパネルに接触し、保護回路が働いている。	● すべてのスピーカーケーブルの接続を確認してください。	11
	● 本機が故障している。	● 電源を切り、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口に連絡してください。	11
センタースピーカーからしか音が出ない。	● テレビやAM放送などのモノラル音源をドルビー/DTSサラウンドモードで再生している。	● モノラル音源を再生する場合には、ドルビー/DTSサラウンドモード以外のサラウンドモードを選んでください。	36、37
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。	－

《その他について》

保証とサービスについて

1 この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

主な仕様

■ オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力：	フロント（A、B）：	110W + 110W （負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%） 140W + 140W （負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）	
	センター：	110W （負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%） 140W （負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）	
	サラウンド：	110W + 110W （負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%） 140W + 140W （負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）	
	サラウンドバック：	110W + 110W （負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%） 140W + 140W （負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）	
実用最大出力：	160W + 160W（負荷6Ω、JEITA）		
ダイナミックパワー：	120W×2チャンネル（負荷8Ω） 170W×2チャンネル（負荷4Ω）		
出力端子：	フロント：	A または B	6～16Ω
		A ＋ B	8～16Ω
	センター/サラウンド/サラウンドバック：		6～16Ω

● プリアンプ部

入力感度/入力インピーダンス：	200mV/47kΩ
周波数特性：	10Hz～100kHz：＋0、−3dB（ダイレクトモード時）
S/N比：	102dB（JIS-A）（ダイレクトモード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz～20kHz）（ダイレクトモード時）
定格出力	1.2V

● デジタル部

D/A出力	定格出力：2V（0dB再生時） 全高調波ひずみ率：0.008% S/N比：102dB ダイナミックレンジ：96dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

● フォノ・イコライザー部（PHONO入力　REC OUT）

入力感度：	2.5mV
RIAA偏差：	±1dB（20Hz～20kHz）
S/N比：	74dB（JIS-A、5mV入力時）
ひずみ率：	0.03%（1kHz、3V出力時）
定格出力/最大出力：	150mV/8V

■ ビデオ部

● 標準映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	1Vp-p/75Ω	
周波数特性：	5Hz～10MHz：＋0、−3dB	

● S映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75Ω
	C（色）信号：	0.286Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz：	＋0、−3dB

● 色差（コンポーネント）映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75Ω
	PB/CB（青色）信号：	0.7Vp-p/75Ω
	PR/CR（赤色）信号：	0.7Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz～100MHz：	＋0、−3dB

■ 総合

電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	275W（電気用品安全法による） 1W未満（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）×171（高さ）×429（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量：	14.0 kg

■ リモコン（RC-1029）

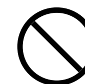
乾電池：	R6P（単3形）乾電池3本使用
外形寸法：	58（幅）×230（高さ）×37（奥行き）mm
質量：	230g（乾電池を含む）

※JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



プリセットコード一覧表

CD

ADC	0004
Acoustic Research	0048
Adcom	0021, 0038
Aiwa	0003, 0018, 0023
Akai	0022
Alba	0058
Alto	0059
Arcam	0023
Ariston	0059
Audio Alchemy	0034
Audio Pro	0051
Audio Research	0023
Audio-Technica	0025
AudioTon	0023
Audiolab	0023
Audiomeca	0023
BSR	0034, 0039
Bestar	0024
Burmester	0048
Bush	0039, 0058
CDC	0048
CEC	0027
Cairn	0023
California Audio Labs	0006, 0043
Cambridge	0059
Carrera	0034
Carver	0023, 0029, 0051
Condor	0024
Craig	0058
Crown	0017
Cyrus	0023
DAK	0039
DBX	0040
DKK	0001
DMX Electronics	0023
Denon	0000
Dual	0034, 0035
Dynamic Bass	0029
EEC	0034
Eclipse	0059
Elektra	0046, 0051
Emerson	0021,0024,0044,0054
Fisher	0014, 0027, 0029, 0045
GE	0002
Garrard	0039, 0041, 0046, 0048, 0049
Gemini	0059
Genexxa	0007, 0024, 0044, 0050
GoldStar	0047
Goodmans	0039, 0041, 0044, 0058, 0059
Grundig	0023
HCM	0059
Harman/Kardon	0023, 0026, 0050
Hiro	0059
Hitachi	0007, 0021
IR	0001
Inkel	0030, 0035, 0051
JVC	0012, 0061, 0064
Kenwood	0005, 0008, 0009, 0033
Kodak	0042
Krell	0023
Kyocera	0004
LXI	0044
Linn	0023
Luxman	0015
MCS	0006, 0010
MTC	0048, 0059
Magnavox	0023, 0044
Marantz	0006, 0023, 0030
Matsui	0023
McIntosh	0042
Memorex	0021, 0024, 0028, 0030, 0044
Meridian	0023
Micromega	0023
Miro	0001
Mission	0023
Mitsubishi	0022
Myryad	0023
NAD	0001
NEC	0010, 0038
NSM	0023
Nagaoka	0004
Naim	0023
Nakamichi	0020
Nikko	0024, 0025, 0027, 0059
Onkyo	0016
Optimus	0001, 0007, 0009, 0013, 0019, 0028, 0029, 0034, 0035, 0041, 0044, 0045, 0048, 0050, 0051, 0053
PMG	0024
Panasonic	0006, 0043, 0065
Parasound	0034, 0048
Philips	0023, 0042
Pink Triangle	0059
Pioneer	0007, 0044, 0053
Polk Audio	0023
Poppy	0024
Proton	0023
QED	0023
Quad	0023
Quasar	0006
RCA	0002, 0007, 0011, 0021, 0029, 0044, 0053, 0066
Radiotone	0058, 0059
Realistic	0021, 0024, 0028, 0029, 0030, 0048
Revox	0023
Roadstar	0052
Rotel	0023, 0048
Royal	0048
SAE	0023
STS	0004
Sansui	0023, 0036, 0044, 0059
Sanyo	0013, 0029, 0045
Schneider	0058
Scott	0021, 0024, 0044
Sears	0044
Sharp	0009, 0030
Sherwood	0030, 0035, 0050
Shure	0010
Sonic Frontiers	0023
Sony	0001, 0056, 0057
Soundesign	0019, 0049
SuperTech	0059
Synergy	0059
Tandy	0007
Tascam	0048
Teac	0027, 0030, 0046, 0048, 0058, 0059
Technics	0006, 0037, 0043
Thomson	0011
Thorens	0023
Universum	0011, 0023, 0051
Vector Research	0034, 0047
Victor	0012
Wards	0011, 0023
Watson	0058
Yamaha	0008, 0025, 0032
Yorx	0052
Zenith	0058

MD

BSR	1000
Condor	1000

Denon	1111
Denver	1003
JVC	1015
Kenwood	1004, 1005, 1012
Luxman	1009
Onkyo	1007
Optimus	1013
Orion	1011
Pioneer	1013, 1017
Schneider	1000
Sharp	1006
Sherwood	1014
Sony	1001, 1002
Technics	1016
Universum	1018
Yamaha	1008

VCR

ASA	3006, 3018
AVP	3034
Adelsound	3002
Admiral	3014, 3026
Adventura	3000
Adyson	3017
Aiko	3030
Aiwa	3000, 3006, 3033, 3034
Akai	3009, 3020, 3031
Akiba	3017
Akura	3017
Alba	3017, 3026, 3030, 3031, 3034
Allstar	3018
America Action	3030
American High	3005
Amstrad	3000, 3030
Anam	3006, 3023, 3028, 3029, 3030
Anam National	3023, 3028, 3036, 3050
Anitech	3017
Ansonic	3002
Aristona	3018
Asha	3029
Asuka	3006
Audiosonic	3030
Audiovox	3006
Baird	3000, 3009, 3019
Basic Line	3017, 3030
Beaumark	3029
Bell & Howell	3019
Bestar	3030
Blaupunkt	3023, 3025, 3028
Blue Sky	3030
Bondstec	3017
Brandt	3032
Brandt Electronic	3009
Broksonic	3001, 3021, 3024, 3026, 3033, 3037
Bush	3017, 3026, 3030, 3034
CCE	3017, 3030
CGE	3000
Calix	3006
Canon	3005
Carena	3026
Carrefour	3012
Carver	3018
Cathay	3030
Cimline	3017
Cineral	3030
Citizen	3006, 3030
Colt	3017
Combitech	3034
Condor	3030
Craig	3006, 3013, 3017, 3029
Crown	3017, 3030
Curtis Mathes	3005, 3009, 3015, 3023, 3044
Cybernex	3029
Cyrus	3018
Daewoo	3012, 3030, 3043
Dansai	3017
De Graaf	3010
Decca	3000, 3018
Denon	3010
Diamant	3006
Domland	3026
Dual	3009
Dumont	3000, 3018, 3019
Dynatech	3000
ESC	3029, 3030
Elbe	3007
Elcatech	3017
Electrohome	3006
Electrophonic	3006
Elin	3029
Elsay	3017
Elta	3017, 3030
Emerex	3003
Emerson	3000, 3001, 3006, 3011, 3021, 3024, 3026, 3030, 3037
Ferguson	3009, 3032
Fidelity	3000
Finlandia	3018, 3019
Finlux	3000, 3010, 3018, 3019
Firstline	3006, 3011, 3012, 3017, 3026
Fisher	3013, 3019
Flint	3026
Fuji	3004, 3005
Fujitsu	3000
Funai	3000
GE	3005, 3014, 3015, 3029, 3044
GEC	3018
Galaxis	3030
Garrard	3000
General Technic	3033
Genexxa	3019
Go Video	3035
GoldHand	3017
GoldStar	3006, 3007, 3027
Goodmans	3000, 3006, 3017, 3030
Gradiente	3000
Graetz	3009, 3019, 3029
Granada	3018, 3019
Grandin	3000, 3006, 3017
Grundig	3017, 3018, 3025, 3028
HCM	3017
HI-Q	3013
Hanimex	3034
Hanseatic	3006
Harley Davidson	3000
Harman/Kardon	3007, 3018
Harwood	3017
Hinari	3002, 3017, 3029, 3034
Hisawa	3034
Hischito	3012
Hitachi	3000, 3002, 3009, 3010, 3029
Hornyphone	3018
Hughes Network Systems	3010
Hypson	3017
IR	3002, 3009, 3010, 3012, 3013, 3017, 3018, 3019, 3020, 3026, 3028, 3029, 3033
ITT	3009, 3019, 3020, 3029
ITV	3006, 3030
Imperial	3000
Ingersol	3002
Inno Hit	3017, 3029

Interfunk	3018
Intervision	3000, 3006, 3026, 3030
Irradio	3017, 3018
JVC	3009, 3016
Jensen	3009
KEC	3006, 3030
KLH	3017
Kaisui	3017
Kendo	3020, 3026
Kenwood	3007, 3009, 3016
Kimari	3013
Kneissel	3034
Kodak	3005, 3006
Korpel	3017
Kuba Electronic	3013
Kyoto	3017
LXI	3006
Lenco	3030
Leyco	3017
Lloyd’s	3000
Loewe	3002, 3006, 3018, 3023, 3036, 3050
Logik	3002, 3017, 3029
Luxor	3011, 3014, 3019, 3020
M Electronic	3000, 3007
MEI	3005
MGA	3011, 3029
MGN Technology	3029
MTC	3000, 3029
Magnasonic	3030
Magnavox	3000, 3005, 3008, 3018, 3022, 3038
Magnin	3029
Manesth	3012, 3017
Marantz	3005, 3018
Marta	3006
Matsui	3002, 3026, 3033, 3034
Matsushita	3005, 3023, 3036
Medion	3033
Memorex	3000, 3005, 3006, 3008, 3013, 3014, 3019, 3023, 3026, 3029, 3033, 3036, 3037, 3046, 3050, 3052
Memphis	3017
Metz	3006, 3023, 3025, 3036, 3050
Minerva	3025
Minolta	3010
Mitsubishi	3011, 3014, 3016, 3018
Motorola	3005, 3014
Multitech	3000, 3017
Murphy	3000
Myryad	3018
NAD	3019
NAP	3008
NEC	3007, 3009, 3016, 3019
National	3028
Neckermann	3018
Nesco	3017
Nikkai	3017, 3030
Nikko	3006
Noblex	3029
Nokia	3009, 3019, 3020, 3029
Nordmende	3009, 3032
Oceanic	3000, 3009
Okano	3031, 3033
Olympus	3005, 3028
Optimus	3006, 3014, 3019, 3023, 3035, 3036, 3047, 3048, 3050, 3052
Orion	3001, 3002, 3021, 3024, 3026, 3033, 3034, 3037
Osaki	3000, 3006, 3017
Otake	3026
Otto Versand	3018
Palladium	3006, 3009, 3017
Panasonic	3005, 3023, 3027, 3028, 3036, 3040, 3048, 3050, 3052, 3053
Pathe Cinema	3002, 3011
Pathe Marconi	3009
Penney	3005, 3006, 3007, 3010, 3029
Pentax	3010
Perdio	3000
Philco	3005, 3007, 3026, 3037
Philips	3005, 3018, 3038, 3041, 3049, 3051
Phonola	3018
Pilot	3006
Pioneer	3016, 3018
Polk Audio	3018
Portland	3030
Pro Vision	3030
Profitronic	3029
Proline	3000
Proscan	3015, 3044
Prosonic	3030
Protec	3017
Pulsar	3008
Pye	3018
Quasar	3005, 3023, 3036, 3050
Quelle	3018
RCA	3005, 3010, 3014, 3015, 3020, 3022, 3029, 3044
RFT	3017
Radialva	3006, 3014
Radio Shack	3000, 3046
Radiola	3018
Radix	3006
Randex	3006
Realistic	3000, 3005, 3006, 3013, 3014, 3019
ReplayTV	3039, 3040
Rex	3009
Roadstar	3006, 3017, 3029, 3030
Runco	3008
SBR	3018
SEG	3029
SEI	3002, 3018
STS	3010
Saba	3009, 3032
Saisho	3002, 3026
Salora	3011, 3020
Samsung	3012, 3029, 3035
Sanky	3008, 3014
Sansui	3000, 3009, 3016, 3026, 3037
Sanwa	3002
Sanyo	3013, 3019, 3029
Saville	3034
Schaub Lorenz	3000, 3009, 3019
Schneider	3000, 3017, 3018
Scott	3011, 3012, 3021, 3024
Sears	3000, 3005, 3006, 3010, 3013, 3019
Seleco	3009
Semp	3012
Sentra	3017
Sharp	3014
Shintom	3017, 3019
Shivaki	3006
Shogun	3029
Shorai	3002
Siemens	3006, 3018, 3019, 3025
Siera	3018
Silva	3006
Singer	3012, 3017
Sinudyne	3002, 3018
Sonneclair	3017
Sontec	3006

Sony	3000, 3003, 3004, 3005, 3042, 3045
Soundwave	3006, 3026
Ssangyong	3017
Stern	3030
Sunkai	3033
Sunstar	3000
Suntronic	3000
Sunwood	3017
Supra	3006
Sylvania	3000, 3005, 3011, 3018
Symphonic	3000
TMK	3029
Taisho	3002, 3026
Tandberg	3030
Tandy	3000, 3019
Tashiko	3000
Tatung	3000, 3009, 3018
Teac	3000, 3009, 3030, 3043
Tec	3017, 3030
Tech Line	3017
Technics	3005, 3023, 3028
Teknika	3000, 3005, 3006
Teleavia	3009
Telefunken	3009, 3032
Teletech	3017
Tenosal	3017
Tensai	3000
Thomas	3000
Thomson	3009, 3015, 3016, 3032
Thorn	3009, 3019
Tivo	3041, 3042
Tokai	3017
Toshiba	3009, 3011, 3012, 3018
Totevision	3006, 3029
Uher	3029
Ultravox	3030
Unitech	3029
Universum	3000, 3006, 3018, 3020, 3025, 3029
Vector	3012
Vector Research	3007
Victor	3009, 3016
Video Concepts	3012
Videosonic	3029
Wards	3000, 3005, 3010, 3013, 3014, 3015, 3017, 3018, 3022, 3029, 3044
Watson	3018
White Westinghouse	3017, 3026, 3030
XR-1000	3000, 3005, 3017
Yamaha	3007
Yamishi	3017
Yokan	3017
Yoko	3029
Zenith	3000, 3004, 3008, 3026, 3037

CDR

Denon	0000, 0001
HHB	0500
Kenwood	0501
Marantz	0501
NAD	0503
Philips	0501
Pioneer	0500, 0502
RCA	0502

TV

A-Mark	4501
A.R. Systems	4593
AOC	4501, 4508, 4512, 4519, 4554
AWA	4502
Acura	4502
Admiral	4531, 4545, 4585
Adventura	4516
Adyson	4564
Aiko	4530
Aiwa	4612
Akai	4502, 4512, 4562, 4565, 4596
Akib	4572
Akiba	4514, 4565, 4571, 4572, 4584
Akura	4565, 4569
Alaron	4552, 4563
Alba	4502, 4513, 4514, 4565, 4579, 4607
Allorgan	4572
Allstar	4514
Ambassador	4550
America Action	4553
Amplivision	4564
Ampro	4619
Amstrad	4502, 4514, 4549, 4550, 4579, 4581
Anam	4501, 4502, 4553, 4568
Anam National	4522, 4568, 4605
Anglo	4569
Anitech	4502
Ansonic	4502, 4514, 4578
Arcam	4563, 4564
Archer	4501
Aristona	4514, 4593
Asora	4502
Asuka	4565
Atlantic	4561
AudioTon	4564, 4569
Audiosonic	4514, 4536
Audiovox	4501, 4530, 4553, 4583, 4599
Autovox	4561
BPL	4571
BSR	4572
BTC	4565
Baird	4526, 4527, 4557, 4558, 4562, 4564
Basic Line	4502, 4565
Baur	4514, 4590, 4592
Baysonic	4553
Bazin	4564
Beaumark	4551
Beko	4578, 4615
Belcor	4508
Bell & Howell	4505, 4542
Beon	4514
Best	4578
Bestar	4514, 4578, 4580
Binatone	4564
Blaupunkt	4560, 4573, 4574
Blue Sky	4565, 4607
Blue Star	4571
Boots	4564
Bradford	4553
Brandt	4536, 4575
Brinkmann	4512, 4582
Britannia	4563
Brockwood	4508
Broksonic	4501, 4567, 4585
Bush	4502, 4513, 4514, 4565, 4571, 4572, 4576, 4579, 4580, 4607
CCE	4514, 4564
CGE	4578, 4582
CS Electronics	4563
CXC	4553
Candle	4512, 4516, 4523, 4555
Canton	4565
Carad	4598
Carena	4514, 4584
Carnivale	4512

Carrefour	4513
Carver	4521, 4548
Cascade	4502
Cathay	4514
Celebrity	4500
Centurion	4514
Cimline	4502
Cineral	4530, 4583
Citizen	4512, 4515, 4516, 4523, 4524, 4530, 4555, 4570
City	4502
Clairtone	4554
Clarivox	4514
Clatronic	4578
Concerto	4523
Condor	4578
Contec	4502, 4513, 4553, 4554, 4563
Continental Edison	4536, 4588
Cosmel	4514
Craig	4553
Crosley	4521
Crown	4502, 4514, 4515, 4553, 4578, 4582
Curtis Mathes	4505, 4512, 4515, 4517, 4518, 4521, 4523, 4524, 4531, 4539, 4542, 4547, 4583, 4586, 4618, 4622, 4626
Cybertron	4565
DER	4557, 4558
Daewoo	4502, 4508, 4514, 4515, 4530, 4542, 4580, 4583, 4599, 4600
Dainichi	4565
Dansai	4514
Dayton	4502
Daytron	4508
De Graaf	4562
Decca	4514, 4526
Denko	4569
Denon	4539
Denver	4514
Desmet	4502, 4514
Diamant	4514
Dixi	4502, 4514
Dual	4514, 4564
Dual Tec	4564
Dumont	4506, 4508, 4525
Dwin	4617, 4620
ECE	4514
Elbe	4564
Electroband	4500, 4554
Electa	4569
Elin	4514
Elite	4565
Elta	4502
Emerson	4508, 4515, 4542, 4550, 4551, 4552, 4553, 4554, 4567, 4570, 4571, 4585, 4599, 4600
Emperor	4571
Envision	4512
Erres	4504, 4514
Etron	4502
Euromann	4514, 4569
Europa	4514
Europhon	4564
Expert	4561
Exquisit	4514
Fenner	4502, 4580
Ferguson	4514, 4527, 4536, 4557, 4558, 4575
Fidelity	4558, 4563
Filsai	4564
Finlandia	4562
Finlux	4514, 4525, 4526, 4552
Firstline	4502, 4563, 4564, 4572, 4607
Fisher	4542, 4544, 4562, 4564, 4578
Flint	4584
Forgestone	4558
Formenti	4514
Fortress	4531
Fraba	4514, 4578
Friac	4502, 4578
Frontech	4545, 4569
Fujitsu	4526, 4552, 4561, 4609
Funai	4549, 4552, 4553, 4569, 4572
Futuretech	4553
GBC	4502, 4565, 4580
GE	4510, 4511, 4517, 4518, 4522, 4531, 4538, 4551, 4571, 4583, 4618, 4622, 4626
GEC	4514, 4526, 4564
GPM	4565
Galaxi	4514
Galaxis	4514, 4578
Geloso	4502
General	4555
General Technic	4502
Genexxa	4545, 4565
Gibralter	4506, 4508, 4512
GoldStar	4508, 4512, 4514, 4515, 4523, 4536, 4551, 4564
Gooding	4588
Goodmans	4513, 4514, 4526, 4552, 4564, 4579, 4580, 4600
Gorenje	4578
Gradiente	4520, 4523, 4548
Graetz	4545
Granada	4514, 4526, 4562, 4564
Grandin	4571, 4598
Grundig	4514, 4525, 4560, 4588, 4593, 4595
Grunpy	4552, 4553
HCM	4502, 4571, 4581
Halifax	4564
Hallmark	4551
Hampton	4563, 4564
Hanimex	4572
Hanseatic	4514, 4593
Hantarex	4514
Hantor	4514
Harley Davidson	4552
Harman/Kardon	4521
Harvard	4553
Harwood	4502, 4514, 4581
Hema	4502, 4564
Hikona	4565
Hinari	4502, 4513, 4514, 4552, 4565
Hisawa	4571, 4584
Hitachi	4505, 4513, 4523, 4536, 4539, 4541, 4545, 4564, 4594
Hornyphone	4514
Huanyu	4563, 4580
Hyper	4502, 4563, 4564
Hypson	4514, 4569, 4571
ICE	4564, 4569, 4579
ICeS	4565
IR	4503, 4504, 4513, 4514, 4525, 4526, 4527, 4531, 4534, 4535, 4536, 4545, 4557, 4558, 4559, 4560, 4561, 4563, 4564, 4566, 4572, 4573, 4578, 4580, 4590, 4592, 4593

ITS	4579
ITT	4545
ITV	4514, 4569
Iberia	4514
Imperial	4578, 4582
Indiana	4514
Infinity	4521
Ingelen	4545
Ingersol	4502
Inno Hit	4526
Innova	4514
Inteq	4506
Interbuy	4514, 4569
Interfunk	4514, 4545, 4592
Internal	4514
Intervision	4514, 4564, 4569
Irradio	4565, 4579
Isukai	4565
JBL	4521
JCB	4500
JVC	4513, 4520, 4532, 4557, 4579, 4606
Janeil	4516
KB Aristocrat	4545
KEC	4553
KTV	4512, 4515, 4553, 4554, 4564, 4570
Kaisui	4502, 4563, 4564, 4565, 4571
Kamp	4563
Kapsch	4545, 4561
Karcher	4598
Kasui	4571
Kathrein	4593
Kawasho	4563
Kaypani	4519
Kendo	4514
Kennedy	4561
Kenwood	4508, 4512
Kingsley	4563
Kloss	4516
Kneissel	4514, 4580, 4598
Kolster	4514
Konka	4602, 4603, 4604, 4613, 4614
Korpel	4514
Kosmos	4514
Koyoda	4502
Kyoshu	4581
Kyoto	4545
LG	4523
LXI	4517, 4521, 4542, 4543, 4551, 4618
Leyco	4514, 4526, 4569, 4572
Liesenk & Tter	4514
Liesenkotter	4514, 4573
Lifetec	4514, 4565, 4580
Loewe	4592
Logik	4505
Luma	4561
Lumatron	4564
Luxman	4523
Luxor	4559
M Electronic	4502, 4514, 4536, 4545, 4564, 4580, 4587
MEI	4554
MGA	4508, 4512, 4540, 4551
MTC	4508, 4512, 4523, 4524, 4554, 4563, 4592
Magnafon	4527, 4563
Magnavox	4509, 4512, 4513, 4521, 4533, 4552, 4555, 4556, 4624
Magnum	4514
Majestic	4505
Manesth	4564, 4569
Marantz	4512, 4514, 4521, 4593
Mark	4514
Matsui	4502, 4503, 4513, 4514, 4526, 4550, 4562, 4564, 4572, 4576, 4579, 4588
Matsushita	4568, 4605
Mediator	4504, 4514
Medion	4607
Megas	4598
Megatron	4501, 4539, 4551
Memorex	4502, 4505, 4523, 4540, 4542, 4551, 4552, 4568, 4585
Metz	4577
Midland	4506, 4515, 4517, 4518, 4538, 4618
Minerva	4525, 4588
Minoka	4581
Minutz	4510
Mitsubishi	4508, 4513, 4531, 4535, 4540, 4551, 4592
Mivar	4563
Monaco	4502
Motorola	4522, 4531
Multibroadcast	4558
Multitech	4502, 4553, 4563, 4564
Murphy	4515, 4526, 4545, 4563
Myryad	4593
NAD	4543, 4547, 4551
NEC	4508, 4512, 4513, 4523, 4548, 4584, 4589
NEI	4514
NTC	4530
Nakimura	4514, 4580
Nakio	4587
National	4566
Neckermann	4514, 4590, 4593
Nesco	4552
Netsat	4514
Neufunk	4514, 4593
New Tech	4564
Nicamagic	4563
Nikkai	4514, 4526, 4563, 4565, 4569
Nikko	4512, 4530, 4551
Nobliko	4525, 4563
Nokia	4587
Nordmende	4536
Noshi	4507
Novak	4504
Novatronic	4514
Oceanic	4545
Okano	4502, 4514, 4569, 4578
Omega	4569
Onwa	4553
Optimus	4542, 4547, 4568, 4605
Optonica	4531, 4546
Orion	4514, 4550, 4552, 4567, 4572, 4576, 4585
Orline	4514, 4565
Osaki	4526, 4564, 4565, 4569, 4581
Osio	4514
Oso	4565
Osume	4526
Otto Versand	4513, 4514, 4564, 4590, 4592, 4593
Pael	4563
Palladium	4578, 4582
Panama	4564, 4569
Panasonic	4518, 4522, 4537, 4545, 4566, 4568, 4577, 4605
Panavision	4514
Pathe Cinema	4563
Pausa	4502

Penney	4501, 4507, 4508, 4510, 4511, 4512, 4515, 4517, 4518, 4523, 4524, 4538, 4543, 4551, 4618, 4626
Perdio	4514, 4545
Philco	4508, 4509, 4512, 4521, 4533, 4539, 4585
Philips	4504, 4514, 4521, 4558, 4580, 4593
Phoenix	4563
Phonola	4504, 4514
Pilot	4508, 4512, 4515
Pioneer	4536, 4545, 4547, 4608
Plantron	4502
Playsonic	4564
Portland	4508, 4515, 4530
Precision	4564
Prima	4569
Princeton	4616
Prinz	4559
Prism	4518
Profex	4502
Profi	4502
Profitronic	4514
Proline	4526
Proscan	4517, 4618
Prosonic	4514
Protech	4502, 4514, 4564, 4569, 4582, 4607
Proton	4501, 4519, 4551, 4586
Pulsar	4506, 4508
Pye	4504
Quasar	4518, 4522, 4546, 4568, 4605
Quelle	4503, 4514, 4525, 4573, 4574, 4590, 4592
Questa	4513
R-Line	4514
RBM	4525
RCA	4507, 4508, 4517, 4518, 4529, 4531, 4538, 4608, 4618, 4621, 4622, 4623, 4626, 4627
RFT	4526
Radialva	4514, 4565
Radio Shack	4508, 4512, 4515, 4517, 4523, 4542, 4546, 4551, 4553, 4618
Radiola	4504, 4514
Radiomarelli	4514
Radiotone	4502, 4514, 4569
Rank Arena	4513
Realistic	4508, 4512, 4515, 4523, 4542, 4546, 4551, 4553
Recor	4514
Redstar	4514
Reflex	4514
Revox	4514
Rex	4545, 4561, 4569
Rhapsody	4554, 4563
Roadstar	4502, 4565, 4569, 4582
Royal Lux	4581
Runco	4506, 4512, 4589, 4597
SBR	4504, 4514, 4558
SEG	4513, 4564, 4569, 4607
SEI	4550, 4572
SEI-Sinudyne	4514
SKY	4514
SSS	4508, 4553
Saba	4536, 4545, 4575
Sagem	4598
Saisho	4502, 4503, 4550, 4569
Salora	4545, 4559
Sampo	4512, 4515, 4519
Samsung	4502, 4508, 4512, 4514, 4515, 4523, 4524, 4529, 4551, 4564, 4569, 4578, 4593, 4595
Samsux	4515
Sandra	4563
Sansei	4583
Sansui	4585
Sanyo	4503, 4513, 4526, 4542, 4544, 4562
Schneider	4514, 4565, 4579, 4607
Scimitsu	4508
Scotch	4551
Scotland	4545
Scott	4508, 4551, 4552, 4553, 4567
Sears	4517, 4521, 4523, 4542, 4543, 4544, 4549, 4551, 4552, 4618
Seleco	4545, 4561
Semivox	4553
Semp	4543
Sencora	4502
Sentra	4565
Serino	4598, 4563, 4584
Sharp	4513, 4515, 4531, 4546, 4610, 4611
Shintoshi	4514
Shogun	4508
Shorai	4572
Siemens	4514, 4560, 4573, 4574
Signature	4505
Silva	4563
Silver	4513
Simpson	4555, 4556
Sinudyne	4550, 4572
Sky-Worth	4514
Solavox	4545
Sonitron	4562
Sonoko	4502, 4514
Sonolor	4545, 4562
Sontec	4514
Sony	4500, 4503, 4513, 4528, 4590, 4605
Sound & Vision	4580
Soundesign	4551, 4552, 4553, 4555
Soundwave	4514, 4582
Spectricon	4501
Squareview	4549
Ssangyong	4502
Standard	4502, 4564, 4565
Starlite	4553
Stenway	4565, 4571
Stern	4545, 4561
Strato	4514, 4569
Stylandia	4564
Sunkai	4572, 4576
Sunstar	4502, 4514, 4579
Sunwood	4514
SuperTech	4563
Supra	4523
Supre-Macy	4516
Supreme	4500
Susumu	4565
Sylvania	4509, 4512, 4521, 4533
Symphonic	4549, 4553
Sysline	4514
Sytong	4563
TMK	4523, 4550, 4551
TNCi	4506
TVTEXT 95	4593
Tandberg	4577
Tandy	4515, 4526, 4531, 4545, 4564, 4565
Tashiko	4513, 4564

Tatung	4501, 4514, 4522, 4526, 4564
Teac	4502, 4514, 4569, 4571, 4581, 4582, 4584, 4607
Tec	4564
Technics	4518, 4568, 4605
Technol Ace	4552
Techwood	4501, 4518, 4523
Teknika	4505, 4508, 4515, 4521, 4523, 4524, 4530, 4540, 4552, 4553, 4555
Telefunken	4523, 4534, 4536, 4575, 4601
Telegazi	4514
Telemeister	4514
Telesonic	4514
Telestar	4514
Teletech	4502
Teleton	4513, 4555, 4561, 4564
Televideon	4563
Temco	4572
Tennessee	4514
Tensai	4565, 4572
Texet	4563, 4565
Thomson	4536, 4601, 4627
Thorn	4514, 4526, 4557, 4558, 4590, 4592
Tokai	4502, 4514, 4545
Tomashi	4571
Toshiba	4513, 4524, 4525, 4542, 4543, 4591, 4625
Tosonic	4554
Totevision	4515
Trans Continens	4564
Tristar	4558, 4565
Triumph	4550
Tsoschi	4571
Uher	4561
Ultravox	4514, 4563
Unic Line	4514
United	4514
Universal	4511
Universum	4514, 4569, 4578
Univox	4514, 4545
Vector Research	4512
Vestel	4514
Victor	4513, 4520, 4568, 4605
Videologic	4565, 4563
Videotechnic	4564
Vidikron	4521
Vidtech	4508, 4513, 4551
Viking	4516
Vision	4564
Vistar	4561
Voxson	4545
Waltham	4564
Wards	4505, 4508, 4509, 4510, 4511, 4512, 4521, 4523, 4528, 4533, 4546, 4551, 4552
Watson	4514
Watt Radio	4563
Wega	4513
Wegavox	4502
White Westinghouse	4514, 4563, 4585, 4599, 4600
Windstar	4571
Xrypton	4514
Yamaha	4508, 4512
Yamishi	4564, 4571, 4584
Yokan	4514
Yoko	4514, 4564, 4569
Zanussi	4561
Zenith	4505, 4506, 4530, 4585, 4600
Zonda	4501

LD

Aiwa	2507
Carver	2502, 2505, 2510
Cyrus	2511
Denon	1111, 1112, 1113
Disco Vision	2500
Funai	2507
GoldStar	2503
Harman/Kardon	2505
Hitachi	2500
Magnavox	2505, 2509
Marantz	2502, 2505
Mitsubishi	2501
NAD	2501
Optimus	2501
Panasonic	2508
Philips	2502, 2505, 2511
Pioneer	2500, 2501
Polk Audio	2505
Quasar	2508
Radiola	2511
Realistic	2507
Renaissance	2510
Salora	2502
Samsung	2510
Sega	2500
Sony	2504, 2506
Technics	2508
Telefunken	2501
Theta Digital	2505
Yamaha	2509

DVD

Afreey	2039
Aiwa	2022
Akai	2015
Apex	2028, 2049
Bush	2035
Denon	0000, 0001
Emerson	2014
Fisher	2027
GE	2003
Go Video	2044
Gradiente	2023
Harman/Kardon	2013, 2041
Hitachi	2012, 2025
Hiteker	2028
JMB	2037
JVC	2010, 2017
Kenwood	2000, 2006, 2032, 2048
Konka	2043, 2045, 2046, 2047
LG	2014
Lecson	2038
Magnavox	2001, 2030
Marantz	2007
Microsoft	2003
Mitsubishi	2002
NAD	2036
Onkyo	2001, 2016, 2018
Optimus	2011
Oritron	2023
Panasonic	2000, 2020, 2031
Philco	2035
Philips	2001, 2007
Pioneer	2004, 2011, 2020
Princeton	2029
Proline	2024
Proscan	2003
RCA	2003, 2011, 2042
REC	2034
Realmagic	2029
Roadstar	2034
SM Electronic	2035
Sampo	2039
Samsung	2012
Sanyo	2027

Sharp	2019
Sherwood	2021
Sony	2005
Teac	2011
Technics	2000
Techwood	2036
Theta Digital	2011
Thomson	2003, 2009
Toshiba	2001
Universum	2014
Wesder	2040
Wharfedale	2033, 2038
Yamaha	2000, 2008
Yamakawa	2026
Zenith	2001, 2014

TAPE

Aiwa	1502, 1516, 1517
Akai	1525, 1529
Arcam	1506
Carver	1502
Denon	0000
Fisher	1505
Garrard	1527, 1529
Grundig	1502
Harman/Kardon	1502, 1514
Inkel	1503, 1504, 1528
JVC	1521, 1522, 1523
Kenwood	1503, 1504
Magnavox	1502
Marantz	1500, 1502
Memorex	1509, 1510
Mitsubishi	1525, 1529
Myryad	1502
Onkyo	1511, 1512, 1524
Optimus	1501, 1518, 1528, 1529
Panasonic	1519
Philips	1502
Phonotrend	1528
Pioneer	1501, 1509, 1510, 1518
Polk Audio	1502
RCA	1501, 1518
Revox	1502, 1515
Sansui	1500, 1502
Sanyo	1505
Sherwood	1528
Sony	1513, 1520, 1526
Tae Kwang	1529
Teac	1525, 1527
Technics	1519
Thorens	1502
Victor	1521, 1522, 1523
Wards	1501
Yamaha	1507, 1508

プリセットコード	0000	0001
DENON製 DVDプレーヤー	DVD-550 DVD-900 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1910 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2900 DVD-2910 DVD-3800 DVD-3910 DVD-A11 DVD-A1 DVD-A1XV	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3300

※ 初期設定：0000

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　00D 511 4453 205